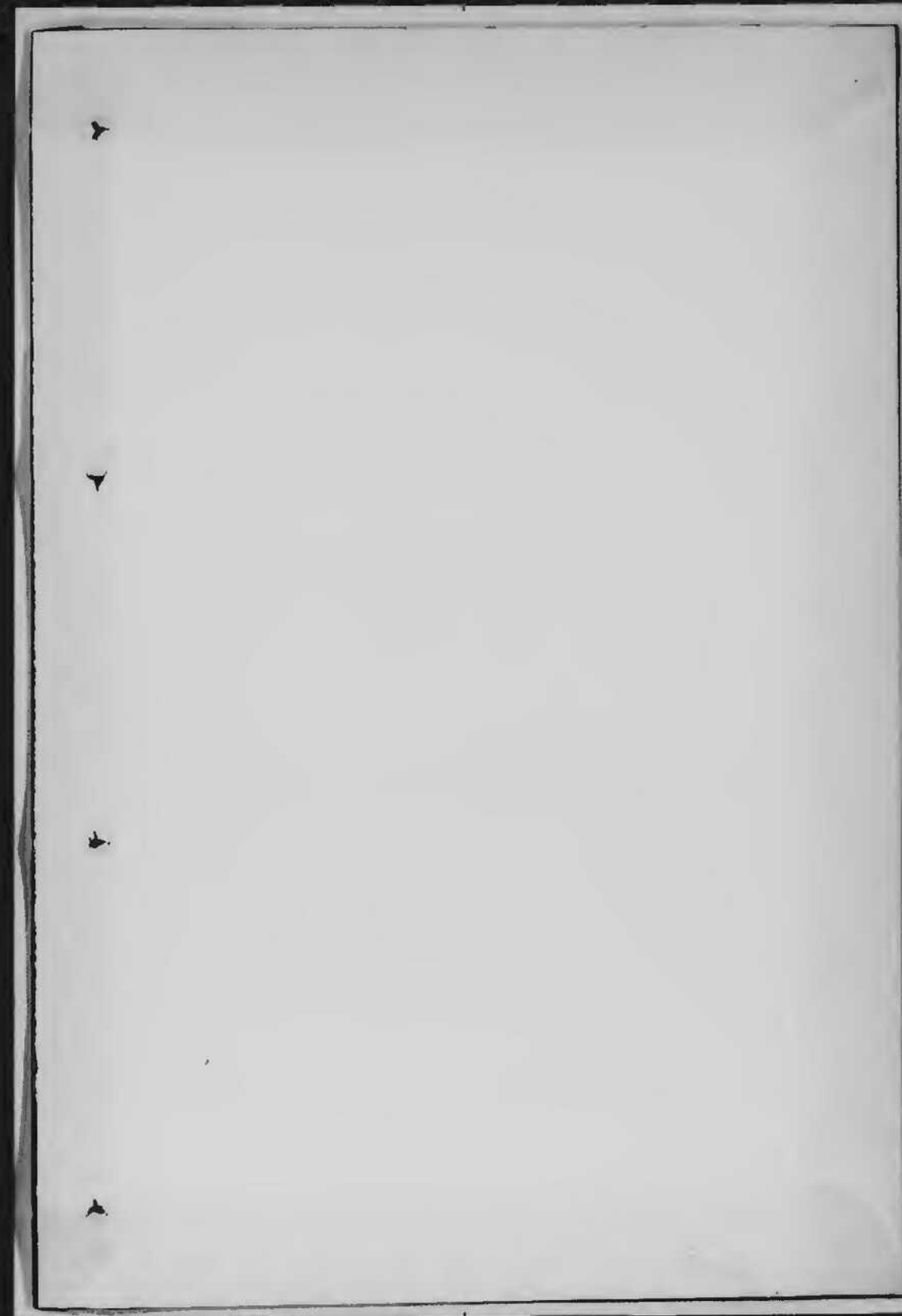


昭和二十一年官制改正原議
(三)



国立公文書館	
自治省	(48)
	3 A
	13-9
	280



36

内務大臣官房人事課

裏面白紙

めくれず

裏面あり

(36)

目次

頁	年月日	件名	備考
一	二・四・五	東京部官制中改正等	聯合軍團保衛會等官制等
二	四・八	東京部官制中改正等	戦災地復興南進、拓地現民
三	四・七	東京部官制中改正等	聯合國軍進駐三件之事
四	六・八	内務部内臨時職員設置制中改正	習熟場、青果物出荷配給
五	四・三	内務部内臨時職員設置制中改正	災害復旧等
六	四・二	都道府縣等臨時職員等設置制中改正	府縣災害工不工事 船員職業紹介

裏面白紙

(目次作成時四八七)

- 一、十一頁勅令第二百号第一條内務省官制中改心、部第八條、第二項ハ第一項ニ続クハキ、誤
- 一、四十一頁警視廳官制中改正、部第二十條第三項中「二級又ハ三級」ハ「三級」ノ誤
- 一、四十一頁勅令第二百二十号東京府官制中改正、部第三十七條、改心規定中「長官、指定スルニ二級、地方事務官」ハ「長官、指定スル、其、正勤務、二級、地方事務官」ノ誤
- 一、四十二頁北海道廳官制中改心、部第三十八條改心規定中「二級、地方事務官」ハ「地方事務官」ノ誤
- 一、四十四頁勅令第二百二十号附則第四項中「又官任用」ハ「官吏任用叙級」ノ誤
- 一、四十五頁勅令第二百二十四号第二條、改心規定中「其、他、吏員」ハ「警視部補、巡查其、他、吏員」ノ「及吏員」ハ「巡查及吏員」ノ誤

内務省

第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日

右閣議ヲ請フ
 別紙勅令案ヲ提出ス
 東山勅令官制中改正案ヲ要アリ
 請議案

大臣
 次官
 局長

主査
 局長
 局長
 局長
 局長

昭和三年 四月五日
 日本文書課長
 施行 月 日

裏面あり

日	月	
第	第	第
號	號	號
受	送	在
日	月	月
日	日	日

内閣
 總理大臣
 官
 年 月 日

大臣
 省

朕東京御官制中改正等、併て裁可し茲
之ヲ公布せしむ

市 名 市 蘭玉
昭和 年 月 日

内閣總理大臣
務 大臣

勅令第三百二十九號 四月二十六日公布

第一條 東京御官制中左ノ通改正ス

第一條 一中、專任三百二十二人以内ノヲ、專任三百二十
十三人以内ニ改ム

第二條 北海道御官制中左ノ通改正ス

第一條 一中、專任百十九人以内ノヲ、專任百二十人
以内ニ改ム

第三條 地方官官制中左ノ通改正ス

大日本帝國政府

第三條 中、專任四千八百人以内ノヲ、專任四千百
二十八人以内ニ改ム

第四條 都府府縣警察職員等設置制中左ノ
通改正ス

第一條 中、專任三人ノヲ、專任七人ニ、專任五百三十
一人ノヲ、專任五百二十一人ニ改ム

第一條 中、專任二十九人ノヲ、專任三十人ニ、專
任百五人ノヲ、專任百八人ニ、專任千八百九十八人
ノヲ、專任千九百十七人ニ改ム

第一條 中、專任四百八十八人ノヲ、專任
五百十二人ニ、專任百十一人ノヲ、專任百十四人
ノヲ、專任四百八十九人ノヲ、專任五百十三人ニ

改ム

附則

昭和 年 月 日
市 名 市 蘭玉
昭和 年 月 日
内閣總理大臣
務 大臣
勅令第三百二十九號 四月二十六日公布
第一條 東京御官制中左ノ通改正ス
第一條 一中、專任三百二十二人以内ノヲ、專任三百二十
十三人以内ニ改ム
第二條 北海道御官制中左ノ通改正ス
第一條 一中、專任百十九人以内ノヲ、專任百二十人
以内ニ改ム
第三條 地方官官制中左ノ通改正ス
大日本帝國政府
第三條 中、專任四千八百人以内ノヲ、專任四千百
二十八人以内ニ改ム
第四條 都府府縣警察職員等設置制中左ノ
通改正ス
第一條 中、專任三人ノヲ、專任七人ニ、專任五百三十
一人ノヲ、專任五百二十一人ニ改ム
第一條 中、專任二十九人ノヲ、專任三十人ニ、專
任百五人ノヲ、專任百八人ニ、專任千八百九十八人
ノヲ、專任千九百十七人ニ改ム
第一條 中、專任四百八十八人ノヲ、專任
五百十二人ニ、專任百十一人ノヲ、專任百十四人
ノヲ、專任四百八十九人ノヲ、專任五百十三人ニ
改ム

本令の公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

大日本帝國政府

聯合軍最良司令官部ノ要求ニ係ルル給付ノ他ノ建
造物及設備ノ完備ニ備品ノ調査ニ關スル事務ヲ
志すルニ及之ニ從事スル職員トシテ新設ニ補員ニ關
シテ三ノ地方事務官五人及地方村長十人並ニ三ノ
ノ地方事務官及地方村長ニ百四十人ヲ各増員スルノ食
糧ノ各ニ連テナル増産ニ關シテ農林部ノ各ニ連テ
確ニ其ノ普及ヲ期スルニ因ルル新設ニ補員ニ關
シテトシテ全額口一俸補助ノ地方村長各一人ヲ増員
スルノ要アリニ依ル

東京都官制

第一條 東京都ニ左ノ職員ヲ置ク

昭和十八年六月十九日
勅令第百四號

長官

次長

局長

秘書官

地方事務官

地方技官

專任

專任

專任

地方事務官

地方技官

專任

專任

專任

地方事務官

地方技官

專任

專任

專任

地方事務官

地方技官

專任

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

一級

北海道廳官制

第一條 北海道廳 = 左ノ職員ヲ置ク

大正二年六月十三日
勅令第百五十九號

部長官

地方事務官

專任

專任

地方技官

專任

專任

地方事務官

專任

地方事務官

專任

地方事務官

第一條ノニ前條ノ定員外ニ於テ北海

道廳ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

地方事務官

人

人

人

人

二級

三級

二級

三級

專任

地方技官

專任

地方事務官

專任

二級

二級

三級

地方官官制

第一條 府縣ニハ通ジテ、大正十五年六月四日勅令第四百二十七號 府縣ノ職員ヲ置ク

如事
部長
地方事務官

專任
專任
地方技官

人
人
二級
三級

第二條 前條ノ定員外ニ於テ府縣ニ通ジテ、
テ左ノ職員ヲ置クコトヲ得
地方事務官

專任
地方技官
專任
地方事務官
又ハ地方技官
三級
二級
二級

都廳府縣等臨時職員等設置制

昭和七年八月二十九日
勅令第三百八十五號

第一條 東京都二丘ノ職員ヲ置ク

地方事務官 一人 二級

專任 一人 二級

地方技官 一人 二級

專任 三人 二級

地方事務官 八人 二級

專任 廿五人 三級

第一條ノ二 警視廳二丘ノ職員ヲ置ク

地方事務官 一人 二級

專任 一人 二級

地方技官 一人 二級

專任 一人 二級

地方事務官 八人 三級

專任 一人 三級

警視 一人 三級

警部 一人 三級

第一條ノ三 北海道廳二丘ノ職員ヲ置ク

地方事務官 一人 二級

專任 二十九人 二級

地方技官 八人 二級

專任 廿一人 二級

地方事務官 八人 二級

專任 廿八人 三級

警視 八人 三級

警部 八人 三級

めくれず

裏面白紙

第一條ノ四 府縣ニ通ジテ左ノ職員ヲ置

ク

地方事務官

専任 二百十八人

二級

地方技官

専任 二百十四人

二級

地方事務官又ハ地方技官

専任 二百十八人

警視

警部

人

前項職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣

之ヲ定ム

官吏任用名簿令執行ニ付テ東部制官制中改正等
 一付ニ依リ都府縣各縣等臨時職員等設置新
 府縣ノ新職員定員中一三好ノ地方事務官及地方
 方技官ニ地方高学ニ入務官トナルノ事及地方官
 三人ヲ職員ニシテ計算スルノ事ヲ該ノ各場員ニテ計
 算サレシムル為ニ差升ニ百五人ノ誤差ヲ生じ右定員
 一專任五千人十五人トナルハ一專任四千八百九十八
 トナルノ事ノ誤差ナルヲ以テ此ノ際同職ノ員定員
 増員ノ概ニ之カ終ニ之ヲ為サントスルニナリ

大日本帝國政府

大日本帝國政府

都廳府縣臨時職官設置表

昭和三十一年四月一日

官名	地方別	東京府	北海道廳	府	縣	合計
地方事務官二級		四	一	四	四	五
地方技官二級		三	二	三	三	四
地方事務官三級		一	一	一	一	二
地方技官三級		一	一	一	一	二
合計		一〇	五	九	九	三三

備考 本職官ハ秩令軍最高司令官部ノ要成ニ係ル宿舍
 其他ノ建造物及設備ノ整備並ニ備品ノ調達ニ関
 スル事務ヲ掌ラシムルモノナリ

裏面白紙

計	熊本	長崎	大分	福岡	山口	滋賀	岐阜	埼玉	新潟	青森	広島	兵庫	大阪	京都	神奈川	東京	宮城	北海道	廳名
五	一	一	一																事務官
五	=	=	=	=	四	=	=	=	=	=	二	=	=	=	=	四	=	=	技師
四	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	屬
二	七	一七	七	七	一五	七	七	七	七	八	七	二四	七	一	七	一五	一	一	技手
八	四	四	四	四	四	四	四	四	四	厚	四	四	六	四	四	四	六	四	事務官
四	一	二	一	一	二	一	一	一	一	生	一	一	四	一	二	四	三	一	技師
																			備考

地方廳職員配置表

子定

聯合軍用宿舎建設関係地方廳機構整備ニ要スル経費
(昭和三十一年度造別)
 聯合軍最高司令官ノ要求ニ係ル宿舎其他ノ建造物及設備
 ノ管理並ニ備品ノ調達ニ関スル事務ヲ掌ラシムル爲之ニ要スル
 経費ヲ計上セリ

款	項	金額	備序
臨時部 一般費	臨時諸事務費	一一三、〇〇〇	内訳別紙ノ通

科
目
人
員
一
人
年
額
金
額
備
考

臨時部一級費	臨時諸要務費	俸	奏任俸給	事務官給	技師給	判任俸給	技師給	賞與	諸給與	内國旅費	奏任給	判任給	給與	慰勞金	雇員給
一、一三三、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
二、七〇〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	九、九〇〇、〇〇〇	九、九〇〇、〇〇〇	四、六〇〇、〇〇〇	四、六〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇
一、一三三、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇

事務雇	技術雇	傭人料	事務費	廳費	普通費	被服費	給食料	雜費
四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇
七、二〇〇	七、二〇〇	二、四〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇
三、八〇〇	三、八〇〇	九、六〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇
三、八〇〇	三、八〇〇	九、六〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇

昭和二十年十二月

農業技術透滲方策要綱

農林省農政局

農業技術滲透方策要綱

第一、方針

食糧ノ急速ナル増産ヲ圖ランガ爲ニハ農民ノ過シキ増産熱意ヲ振起スルト共ニ速ニ生産諸條件並ニ農業經營ノ實態ニ即應シタル農業技術ヲ確立シ之ガ普及滲透ニ關シ技術指導ノ刷新強化並ニ之ニ直結スル末端實踐組織ノ整備ヲ圖ルノ要極メテ緊切ナルヲ以テ左記要領ニ依リ右目的ノ達成ヲ期セんとス

第二、要領

一、農業技術ノ確立

- (1) 地方農事試験場ハ其ノ機能ヲ刷新シ中央農事試験場ト緊密ナル連絡ノ下ニ農業技術ノ確立ヲ圖ルコト
- (2) 農業技術ノ確立ニ當リテハ特ニ左ノ諸點ニ留意スルコト
 - (イ) 肥料、資材等ノ生産諸條件ニ即應スルコト
 - (ロ) 農業經營ノ實態ニ即應スルコト

二、技術指導力ノ刷新強化

(ハ) 具體的實行手段ヲ伴フコト

- (1) 地方農事試驗場ハ郡内數ヶ所(農業技術隣保班單位)ニ技術指導農場ヲ設ケ之ヲ據點トシテ現地指導ノ強化ヲ圖ルコト
- (2) 市町村農業會技術員ノ隣保班組織ヲ中核トシ農學校、青年學校教職員、食糧検査員、食糧増産實踐班長、指導力ヲ有スル精農家等ヲ結集シテ農業技術隣保班ヲ編成シ技術ノ向上、實地指導力ノ強化ヲ圖ルト共ニ相互鍊磨ヲナスコト
- (3) 隣保班ニハ班長ヲ設ケ班長ハ都道府縣農業會技術員ヲ以テ充ツルコト
- (4) 農業技術隣保班員ハ技術指導農場ニ於テ農業技術ヲ現地ニ確認スルト共ニ技術ヲ鍊磨スルコト
- (5) 市町村農業會技術員及食糧増産實踐班長ハ技術指導農場ニ於テ確認セル技術ニ基キ部落農業團體ニ於ケル増産技術ノ實踐竝ニ作業能率ノ増進等ニ關シ夫々増産ノ責ニ任スル決意ヲ以テ挺身指導スルコト
- (6) 農業技術隣保班員ハ相互ニ指導上ノ援助ヲ爲スコト

三、實踐組織ノ整備

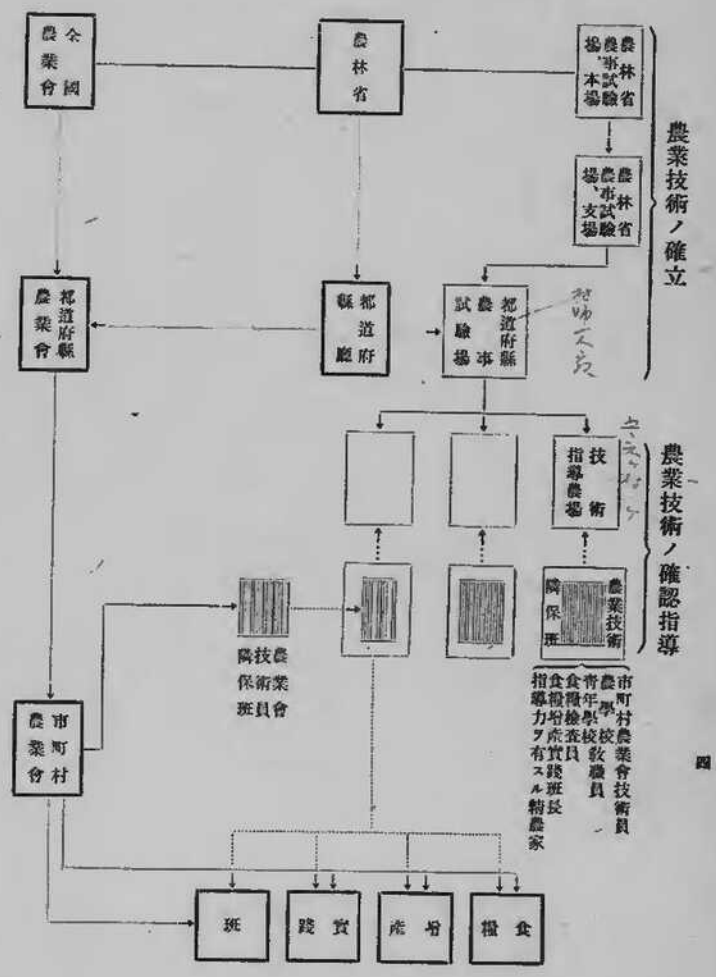
- (1) 農業技術ノ急速且的確ナル滲透ヲ圖ランガ爲左ニ依リ生産實踐體タル部落農業團體ノ機能ヲ強化スルコト
 - (イ) 部落農業團體ヲ單位トシテ食糧増産實踐班ヲ編成スルコト
 - (ロ) 食糧増産實踐班長ノ生産面ニ於ケル指導力ノ強化ヲ圖ルコト
 - (ハ) 食糧増産實踐班ニ作業班ヲ編成スルコト
 - (ニ) 共同作業、共同苗代ノ管理、農機具及家畜ノ共同利用、一齊作業等ノ強化ヲ圖ルコト
 - (ホ) 精農家ノ技能ヲ實踐面ニ於テ動員スルコト
- (2) 食糧増産實踐班ノ育成強化ハ農業會之ニ當ルコト

四、普及宣傳事業ノ刷新

農業技術滲透施設ノ一環トシテ中央地方關係機關ハ印刷物ノ頒布、講習講話會ノ開催、巡回指導ノ實施等普及宣傳事業ヲ刷新シ第一線指導力ノ強化ニ資スルト共ニ農家ノ啓蒙竝ニ増産熱意ノ振起ヲ圖ルコト

昭和二十一年
 2092
 2142
 2182
 日誌 2114TS

農業技術滲透施設圖



技術指導農場ノ設置並ニ運営要領

- 一、技術指導農場（以下指導農場トス）ハ農業技術ヲ地域的ニ確認スルト共ニ農業技術隣保班（以下隣保班トス）員ノ農業技術指導力強化ニ必要ナル技術ヲ實地ニ獲得スル機關タルコト
- 二、指導農場ハ隣保班毎ニ一ヶ所設置スルヲ原則トシ班内ノ農業立地條件ヲ代表シ得ルモノニシテ隣保班員等ノ集合ニ便ナル土地タルコト 但シ地方の事情ニ依リ一圃地ヲ得難キ場合ハ圃場ノ一部ヲ餘リ遠カラザル地區ニ設置スルヲ妨ゲザルコト
- 三、一指導農場當面積ハ田畑ヲ通ジ概ネ三町歩ヲ標準トシ田畑別内譯ハ隣保班内ノ農業立地條件並ニ經營條件ヲ勘案シテ決定スルコト
- 四、指導農場ノ經營主體ハ都道府縣農事試験場トスルコト
- 五、指導農場ニ場長ヲ置ク、場長ハ都道府縣農事試験場ノ囑託員トシ農業技術隣保班長ヲ以テ之ニ充ツルコト
- 六、指導農場ノ運営ハ場長之ニ當ルモ設計、調査、作業等ニ隣保班員ヲ積極的ニ參割セシムルコト 但シ指導農場ノ運営ニ付テハ毎年春夏作及秋冬作ニ付農事試験場ニ指導農場長ヲ招集シ都道府縣農會關係者參加ノ上豫メ其ノ方針ヲ協議決定シタルモノニ依ルコト
- 七、指導農場ニ於テ實施スベキ事項ハ都道府縣農事試験場ニ於テ確立セル技術ノ地域的確認ニ重點ヲ置クコト 但シ作物、品種（系統）ノ地方的適否ニ關スル試驗、地方的栽培法ニ關スル試驗及豐凶考察試驗等ヲモ併セ行ヒ得

五

23

ルモノタルコト而シテ之等試験ノ爲ニ充當スベキ圃場ハ總面積ノ二分ノ一以内ニ留ムルモノトス
八、指導農場ニ於テ栽培スベキ作物ハ主トシテ畦畔地ニ於テハ、稻、麥、甘藷、馬鈴薯、雜穀等ノ主要食糧作物トスル
モ地方の實情ニ應ジ蔬菜、綠肥作物、飼料作物等ヲ加フルコト
九、指導農場ニハ畜産技術員一名ヲ設置シ隣保班内ノ畜力農法、養畜、家畜衛生等ノ指導及防疫ニ當ルコト
畜産技術員ハ都道府縣農業會技術員トシ都道府縣農事試驗場及種畜場ノ囑託員ヲ兼ネシムルコト

農業技術隣保班ノ編成並ニ運営要領

- 一、農業技術隣保班(以下隣保班トス)ハ班員ノ相互研究練習ニ依リ農業技術ノ指導力強化ヲ圖ルヲ目的トスルコト
- 二、隣保班ノ區域ハ農業立地條件ヲ略同クセル地域トシ同一郡内ノ概ネ五ヶ町村ヲ以テ標準トスルコト
- 三、隣保班ハ當該區域ノ市町村農業會技術員ヲ中核トシ農學校、青年學校教職員、食糧検査員、食糧増産實踐班長、指導力ヲ有スル精農家等ヲ以テ編成スルコト
- 四、隣保班ニ班長ヲ置ク、班長ハ都道府縣農業會技術員トシ都道府縣農業會會長之ヲ任免ス
班長ノ任免移動ハ豫メ地方長官ト協議ノ上之ヲ爲スコト
- 五、隣保班員ハ指導農場ノ設計、調査、作業等ニ積極的ニ参加シ農業技術ノ實地確認並ニ體得ヲ爲スコト
- 六、隣保班員ハ毎月定例日(例會)ヲ定メ可及的指導農場ニ參集シテ廣ク農業技術ニ關スル知識研究業績ノ公開、指導成績等ノ報告ヲ爲スト共ニ實地指導ニ關スル手段、方法等ニ付研究討論ヲ爲スコト

七、隣保班員ハ實地指導等ニ付相互援助ヲ爲スコト
八、隣保班長ハ概ネ毎月一回隣保班ノ活動狀況ヲ取極メ都道府縣農業會ニ報告スルコト
但シ緊急ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ都度報告スルコト

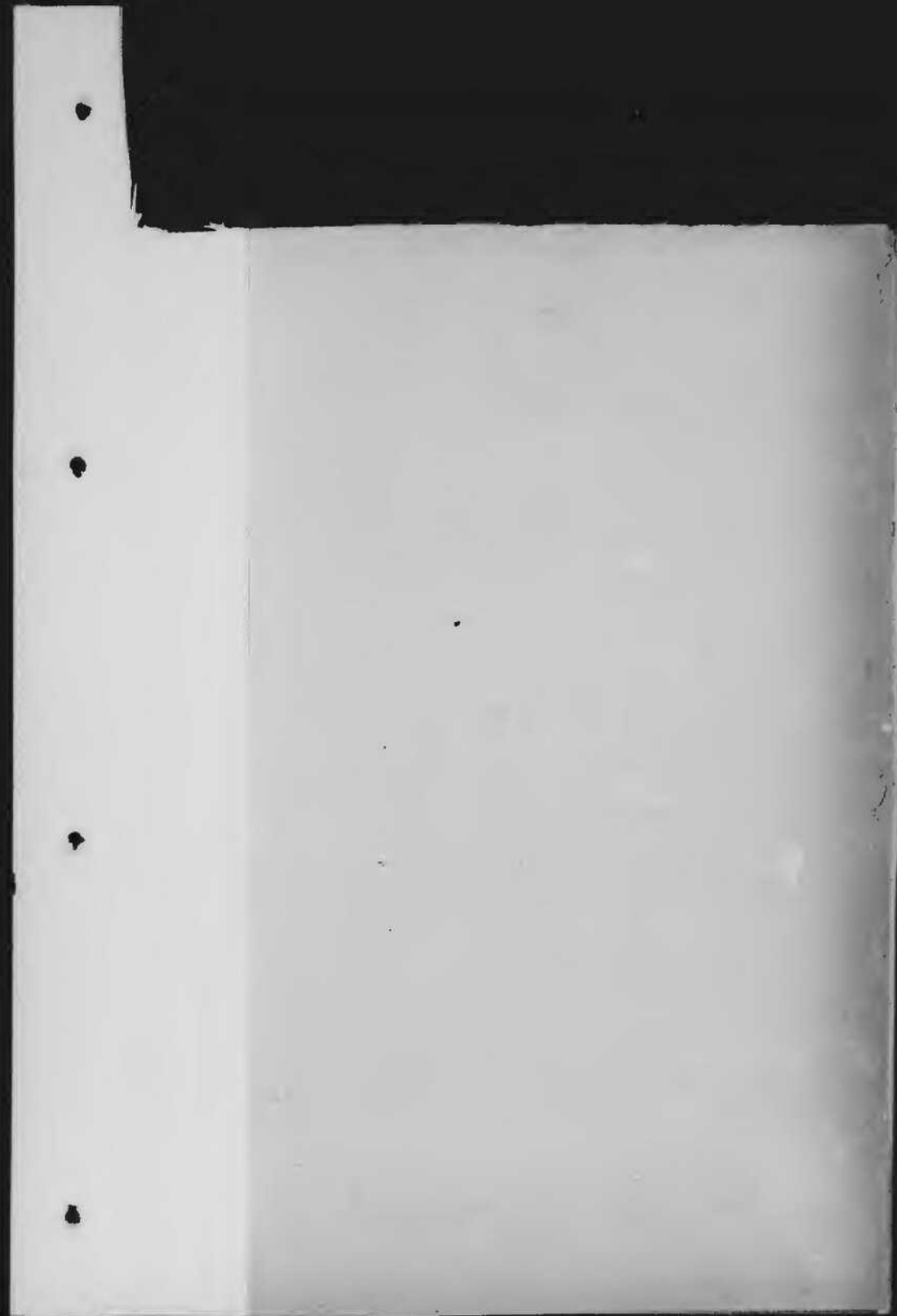
食糧増産實踐班ノ編成並ニ運営要領

- 一、食糧増産實踐班(以下實踐班トス)ハ農業技術ノ受人實踐體トシテ班員相互ニ協力シ可及的協同責任實踐態勢ノ確立ニ依リ食糧増産ノ實ヲ擧グルヲ目的トス
 - 二、實踐班ハ部落農業團體ヲ單位トシテ編成スルコト
 - 三、實踐班ニ班長ヲ置ク、班長ハ實踐力ヲ有シ班員ノ總力ヲ結集シ得ル部落ノ第一人者ヲ以テ之ニ充ツルコト
 - 四、實踐班長ハ農業技術隣保班ノ班員トシテ技術指導農場ニ於テ農業技術ノ實地確認並ニ體得ヲ爲スト共ニ隣保班ノ例會ニ出席シテ技術ノ相互練習ヲ爲スコト
 - 五、實踐班長ハ市町村農業會指導ノ下ニ常會ヲ開催シテ左記事項ニ付研究協議シ以テ技術水準ノ向上並ニ作業能率ノ増進ヲ圖ルコト
- (イ) 指導農場ニ於テ確認セル技術ノ實踐
(ロ) 作業班ノ編成
(ハ) 共同作業、共同苗代ノ管理、農機具及家畜ノ共同利用、一齊作業ノ強化

(ホ) (ニ)
其ノ他
適期適作業ノ完遂

八

二五



一 農業技術澄透施設ニ関スル経費 農政局農産課

區	分	数量	単価	金額	備
臨時部	(款)一般費			八三,一〇〇.〇〇 円	考
	(項)農産物増産費			四九,一九二.〇〇	
諸給與	給與			一五,一八四	
	嘱託中當	一人	一,〇〇〇 円	一,〇〇〇	
雇員給	職員其他			八六四	
	二給スル中當			四三三〇	
技術雇	技術雇	六	七二〇	四,三二〇	
	事務費			四七,六七三六	
廳費				六七三六	

區 分 数量 単価 金額

備 考

特別雇費
調査研究費

六七三六
五,〇〇〇

(1) 現地調査費

考

一箇所當一〇〇〇円 四六箇所分 四六,〇〇〇円
一箇所當一〇〇〇円 内訳

已分	数量	単価	金額	備
調査費	二	四〇〇	八〇〇	考
雑費	二	一〇〇	二〇〇	
計			一,〇〇〇	

(2) 調査成績取録印刷費 四,〇〇〇円
一箇所當四〇〇円 一部一月四〇〇部 分一〇種分

一箇所當三三三円弱 (四箇所一六六七月弱 二箇所一六六七月弱)

一箇所一四箇一六六七月弱 内訳

已分	数量	単価	金額	備
會場費	三日	一五〇	四五〇	考
講師費	六人	一五〇	九〇〇	
資料費	一〇〇	五	五〇〇	考
計			一,九〇〇	

普及及宣傳費 二〇,〇〇〇 一箇所八,〇〇〇円 (部三三三三三三三三) 五種分

普及及宣傳費

講習費

二〇,〇〇〇

普及及宣傳費 二〇,〇〇〇 一箇所八,〇〇〇円 (部三三三三三三三三) 五種分

(項) 農產物増産補助

食糧増産應急
施設補助
農業技術講習
施設補助
農業技術講習
保班施設補助

班長設置費	三六〇人 七三〇 一八〇〇	三二〇〇 一八〇〇	八二六〇九八〇 三六六八〇〇
班長訓練費	一〇九四班	一八〇〇	二四三三三〇〇 八二八〇〇
保班班活動費		一三〇〇	一三三三三〇〇

已	分	數量	單価	金額	備考
會場費	三	三	二〇〇	六〇〇	
講師費	六	六	一〇〇	六〇〇	
資料費	五	三	三〇	一五〇	
計				九〇〇	

一、班當 一、二〇〇円ノ内課
二、班當 九〇〇円ノ内課
三、班當 九〇〇円ノ内課
四、班當 九〇〇円ノ内課

區 分

農業技術指導
施設補助
技術指導員
場、設置員

技術指導員	五四七 五四七	一九四二〇 一九四二〇	一三九〇、三八〇 一三九〇、三八〇
場、設置員	五四七	五四二〇	一三、五七、四八〇

已	分	數量	單価	金額	備考
牛馬購入費	二	二	五〇〇	一、〇〇〇	
畜舎	一	一	五〇〇	五〇〇	
收購用具金	一	一	五〇〇	五〇〇	
計				一、〇〇〇	

一、臨時費
二、臨時費
三、臨時費
四、臨時費
五、臨時費
六、臨時費
七、臨時費
八、臨時費
九、臨時費
十、臨時費
十一、臨時費
十二、臨時費
十三、臨時費
十四、臨時費
十五、臨時費
十六、臨時費
十七、臨時費
十八、臨時費
十九、臨時費
二十、臨時費
二十一、臨時費
二十二、臨時費
二十三、臨時費
二十四、臨時費
二十五、臨時費
二十六、臨時費
二十七、臨時費
二十八、臨時費
二十九、臨時費
三十、臨時費
三十一、臨時費
三十二、臨時費
三十三、臨時費
三十四、臨時費
三十五、臨時費
三十六、臨時費
三十七、臨時費
三十八、臨時費
三十九、臨時費
四十、臨時費
四十一、臨時費
四十二、臨時費
四十三、臨時費
四十四、臨時費
四十五、臨時費
四十六、臨時費
四十七、臨時費
四十八、臨時費
四十九、臨時費
五十、臨時費
五十一、臨時費
五十二、臨時費
五十三、臨時費
五十四、臨時費
五十五、臨時費
五十六、臨時費
五十七、臨時費
五十八、臨時費
五十九、臨時費
六十、臨時費
六十一、臨時費
六十二、臨時費
六十三、臨時費
六十四、臨時費
六十五、臨時費
六十六、臨時費
六十七、臨時費
六十八、臨時費
六十九、臨時費
七十、臨時費
七十一、臨時費
七十二、臨時費
七十三、臨時費
七十四、臨時費
七十五、臨時費
七十六、臨時費
七十七、臨時費
七十八、臨時費
七十九、臨時費
八十、臨時費
八十一、臨時費
八十二、臨時費
八十三、臨時費
八十四、臨時費
八十五、臨時費
八十六、臨時費
八十七、臨時費
八十八、臨時費
八十九、臨時費
九十、臨時費
九十一、臨時費
九十二、臨時費
九十三、臨時費
九十四、臨時費
九十五、臨時費
九十六、臨時費
九十七、臨時費
九十八、臨時費
九十九、臨時費
一百、臨時費

指導督勵費	四六	六八〇〇	三一三八〇	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
技術修進実践 班施設補助	一〇三九三〇 九七五八〇	五〇〇〇 一〇〇〇	六四八四〇 六二七三〇〇	指導旅費 奉仕職員設置費 (俸給 三〇〇〇円 旅費 八〇〇円)
班長手当當	一三九三〇	三〇	三二七〇〇	三〇〇〇円 三八〇〇円
実践班促進費				

裏面白紙

要求ノ理由

食糧ノ急速ナル増産ヲ圖ランカ爲ニハ生産ノ諸條件ニ
即應シタル農業技術ヲ確立スルト共ニ之カ急速且的確ナ
ル普及浸透ニ関シ第一線指導力ノ刷新強化並ニ之ニ
直結スル末端実践組織ノ整備ヲ圖ルノ要極メテ緊
要ナリ

依テ別項ニ三ヶ年計畫ヲ以テ昭和二十年度着手セル
農業技術浸透施設ヲ繼續實施セントス

説明参考書整理表

一 職員事務分擔表	ナシ
二 経費区分表	ナシ
三 計畫年割額	別紙添附
四 経費支出年割額	別紙添附
五 收入豫定額	ナシ
六 豫算外契約ニ関スル要求書	ナシ
七 繰越明許ニ関スル要求書	ナシ
八 補充費途ニ関スル要求書	ナシ
九 補助金交付要項	農業生産奨励規則
一〇 補助金負担区分調	別紙添附
一一 説明参考書	別紙添附

裏面白紙

三年度計畫

區分	昭和三十二年 第二發備金	昭和三十二年 第一發備金	昭和三十二年 第二發備金	昭和三十二年 第一發備金	昭和三十二年 第二發備金
農業技術 解保班施設	五四七	五四七	一〇二〇	二一四	
技術指導班長施設	五四七	五四七	一〇二〇	二一四	
農業技術指導強化施設	五四七	五四七	一〇二〇	二一四	
技術指導班長施設	五四七	五四七	一〇二〇	二一四	
實踐班長施設	五九六五	五九六五	九七五八	二〇五一〇	

裏面白紙

四 経費支出年割額

區	臨時部	昭和二十一年度	昭和二十二年	昭和二十三年
(款) 一般費	一六、九九五〇〇 円	八三、一〇、〇〇〇 円	一四〇、六七、五〇〇 円	一三六、三九、五〇〇 円
(項) 農産物増産委員	四九、九二〇	四九、九二〇	四九、九二〇	四九、九二〇
諸給與	一五、一八四	一五、一八四	一五、一八四	一五、一八四
事務費	四七、七三六	四七、七三六	四七、七三六	四七、七三六
(項) 農産物増産補助 食糧増産應急施設補助 農業技術指導 農業技術補助 農業技術指導 班長設置費 班長訓練費	一六、九九五〇〇 六五、九九五 四一、二〇〇 三六、八〇〇	八二、六〇九、〇八〇 三、八八八、〇〇〇 三、四七三、二〇〇 八二、八〇〇	一四〇、一七九、五八〇 七、一九〇、六〇〇 四、五七一、〇〇〇 八二、八〇〇	一三、五、八九九、五八〇 七、一九〇、六〇〇 四、五七一、〇〇〇 八二、八〇〇

區	昭和二十一年度	昭和二十二年	昭和二十三年
隣保班活動費	二〇、五九五	一三、一三、八〇〇 円	三、五三六、八〇〇 円
農業技術指導 強化施設補助 技術指導費 班長設置費 指導監督費 技術指導費 班長牛當 実践班促進費	八、六四、五八二 八、六四、五八二 六、八九四、〇三三 六、八九四、〇三三 六、八九四、〇三三 三、一七、〇〇〇	一三、九〇〇、二八〇 一三、五八七、四八〇 三、一三、八〇〇 六四、八四〇、〇〇〇 六、七三三、〇〇〇 三、一七、〇〇〇	二六、一八八、六八〇 二五、七三七、八八〇 四、五〇、八〇〇 一〇六、八〇〇、三〇〇 一〇〇、七五五、〇〇〇 六、〇四五、三〇〇

一〇、補助金負担区分調

種別	事業費補助			国庫	国庫補助金	地方負担区分			備考
	基本額	事業主体	補助率			都道府県	市町村	其他	
農業技術指導班施設補助	三六六八〇〇	都道府県	十割	三六六八〇〇					
班長設置費	二四三三〇〇	農業會	十割	二四三三〇〇					
班長訓練費	八三、八〇〇	都道府県等	十割	八三、八〇〇					
隣保班活動費	一三三、三八〇	都道府県農業會	十割	一三三、三八〇					
農業技術指導強化施設補助	一三、九〇〇、三八〇	都道府県等	十割	一三、九〇〇、三八〇					
技術指導費	一三、五六七、四〇〇	都道府県等	十割	一三、五六七、四〇〇					
場設置費	三二、六〇〇	都道府県	十割	三二、六〇〇					
指導監督費	一三、八〇〇	都道府県	十割	一三、八〇〇					
専任職員設置費	一七、四八〇	都道府県	十割	一七、四八〇					
技術送達費	六四、八四〇、〇〇〇			六四、八四〇、〇〇〇					
施設補助									

種別	事業費補助			国庫	国庫補助金	地方負担区分			備考
	基本額	事業主体	補助率			都道府県	市町村	其他	
班長手当	六、七三三、〇〇〇	市町村農業會等	十割	六、七三三、〇〇〇					
班促進費	三、一七〇、〇〇〇	市町村農業會等	十割	三、一七〇、〇〇〇					
合計	八三、六〇九、〇八〇			八三、六〇九、〇八〇					

一一 説明参考書

事業實施計畫

甲、本省ニ於ケル施設

(一) 調査研究事業

收穫地位地或ハ技術ノ容具ニ渗透シ難キ地方ニ對シ
地方農事関係者並農業技術隣保班員等トシテ重長
細ニ指導セシムルハ勿論ナルモ更ニ高級専門家ノ技術的
調査研究ニ俟テテ到底問題ノ解決困難ナルモノアルコト以テ
本省自ラ又ハ大學專門學校其他ニ委託シ現地ニ付調
査研究ヲ行ハントス

(二) 講習會ノ開催

全國大ヶ所(概ネ本省農事試験場支場並トス)ニ於テ
春夏作及秋冬作ノ二回ニ都道府縣農事支庁技術者ヲ
招集シ講習會ヲ開催セントス

(三) 普及宣傳ニシテ

農業技術ニ關スル試験研究研調査成績関係統計資料
蒐集整理檢討並地方ニ於ケル増産事例等ノ調査等ニ
依リ指導資料ヲ作成配付シ以テ農業技術ノ普及宣
傳ヲ行ハントス

乙、地方ニ於ケル施設補助

(一) 農業技術隣保班施設ノ補助

農業技術ノ急速且的確ナル渗透ヲ回ランカ爲ニハ第一線
指導力ノ強化ニ俟ツトコト大ナリ 依ツテ前年度ニ引キ

續キ市町村農業會及技術ヲ中心トシ學校教職員食糧
検査員及指導力ナル精農家食糧増産班長等ヲ一丸ト
セル收力指導態勢ヲ確立センカ局概ネ五ヶ町村ヲ區域トス
ル隣保班ヲ締成シ各班毎ニ技術ニ堪能ナル班長一名ヲ置キ
技術指導農場ヲ據具トシテ常時班長ヲ中心ニ活動スル

技術、相互鍊磨ヲ為シメ以テ技術指導力ノ昂揚スルト共ニ
農事試験場等道畜ヲル機関ヲシテ年ニ回程度班長ヲ招
集シ春夏秋各作ニ付技術訓練ヲ施シ等濃厚ナル技術
指導ヲ加ヘシメ以テ第一線指導力ノ強化ヲ圖ラントス
而シテ本年度ニ於テハ前年度縮成セル五四七班ニ對シ更ニ
五四七班ヲ縮成セントス

(二) 農業技術指導強化施設補助

農業技術指導員ノ技術指導力ノ強化ヲ期センガ為ニハ常時實
地ニ付研究鍊磨ヲ為サシムルノ要アリテ以テ前年度ニ引キ續キ隣
保班單位ニ技術指導農場ヲ設置シ農事試験場ヲシテ
新增産技術ヲ地域的ニ確認セシムルト共ニ之ヲ據点トシ
テ隣保班員ニ對シ新技術ヲ實地ニ傳授セシメントス
尚技術指導農場ニ畜産関係技術員一名ヲ設置シ主トシ
テ畜力利用農法ニ付指導セシムルノ外班内市町村ニ於

ケル有畜経営、家畜衛生等ノ指導ニモ當ラシメントス
而シテ本年度ニ於テハ前年度設置セル五四七農場ニ對シ
更ニ五四七農場ヲ設置スルノ外新ニ農事試験場ニ専任技
術員一名ヲ設置シ技術指導農場ノ企劃運営ニ當ラシ
メントス

(三) 技術浸透實踐施設補助

農業技術ノ急速且的確ナル浸透實踐ヲ期センカ爲ニハ
部落農業團體ヲシテ末端ニ於ケル責任實踐體タル如ク
整備強化スルノ要アリテ以テ前年度ニ引續キ推進力アリ責任
感旺盛ナルモノヲ班長ニ任命シ部落農業團體ヲ更ニ隣組
區域トセル作業班ニ分テ石實踐班長ヲ中心トシテ班員
ノ志氣ヲ昂揚シテ作業班ヲ單位トシテ農作業ヲ爲サシメ
以テ技術ノ向上、作業能率ノ増進等ヲ圖リ、新期ノ増産目
標達成ニ遺憾ナキヲ期セントス



嘉 田 號 二 三 七 號

昭 和 二 十 七 年 二 月 廿 九 日

皇 林 大 臣 官 房 秘 書 長 官



內 務 大 臣 官 房 人 事 課 長 官

官 房 ノ 急 速 ナ ル 附 添 ニ 即 應 シ 學 業 技 術 ノ 各 理 的 確 ナ ル 者 及 滲 透 マ 關 ル
為 各 都 道 府 縣 ニ 專 任 職 員 ト シ テ 地 方 技 術 各 一 人 一 全 額 補 助 一 課 附 ノ 必
妥 切 ノ 案 ニ 付 テ ハ 地 方 官 官 制 等 改 正 方 策 取 計 細 成 取 此 段 及 傳 報 申 也

郵 道 部 一 一 社 會 部

皇 林 大 臣 官 房 秘 書 長 官
昭 和 二 十 七 年 二 月 廿 九 日
皇 林 大 臣 官 房 秘 書 長 官
昭 和 二 十 七 年 二 月 廿 九 日

裏 面 白 紙

戦復設第二一七號

昭和二十一年四月四日

戦災復興院次長

内務次官 殿



地方官官制等改正ノ件

今般聯合會最高司令部ノ為ス要求ニ係ル宿舍其ノ他ノ建造物及設備ノ
當格並ニ用品ノ調達ニ關スル事務ヲ掌ラシムル為地方廳ニ職員ヲ配置
スルコトト相成候條左ノ如東京部官制、北海道廳官制及地方官官制
改正方御取訂相願度

戦災復興院

裏面白紙

勅令第 號

都廳府縣臨時職員等設置制中左ノ邊改正ス

第一條中

「地方技官

專任

三人 二級

トアルヲ

地方事務官又ハ地方技官

專任 五百三十一人

三級

「地方技官

專任

七人

二級

ニ改ム

地方事務官又ハ地方技官

專任 五百四十九人

三級

戰災復興院

第一條ノ三中

「地方事務官

專任

二十九人

二級

地方技官

專任

百五人

二級

トアルヲ

地方事務官又ハ地方技官

專任 千八百九十八人

三級

「地方事務官

專任

三十人

二級

地方技官

專任

百八人

二級

ニ改ム

地方事務官又ハ地方技官

專任 千九百十七人

三級

第一條ノ四中

「地方事務官

專任 五百八人 二級

地方技官

百十一人 二級 トアルヲ

地方事務官又ハ地方技官

專任 五千十五人 三級

「地方事務官

專任 五百十二人 二級

地方技官

百四十六人 二級 ニ改ム

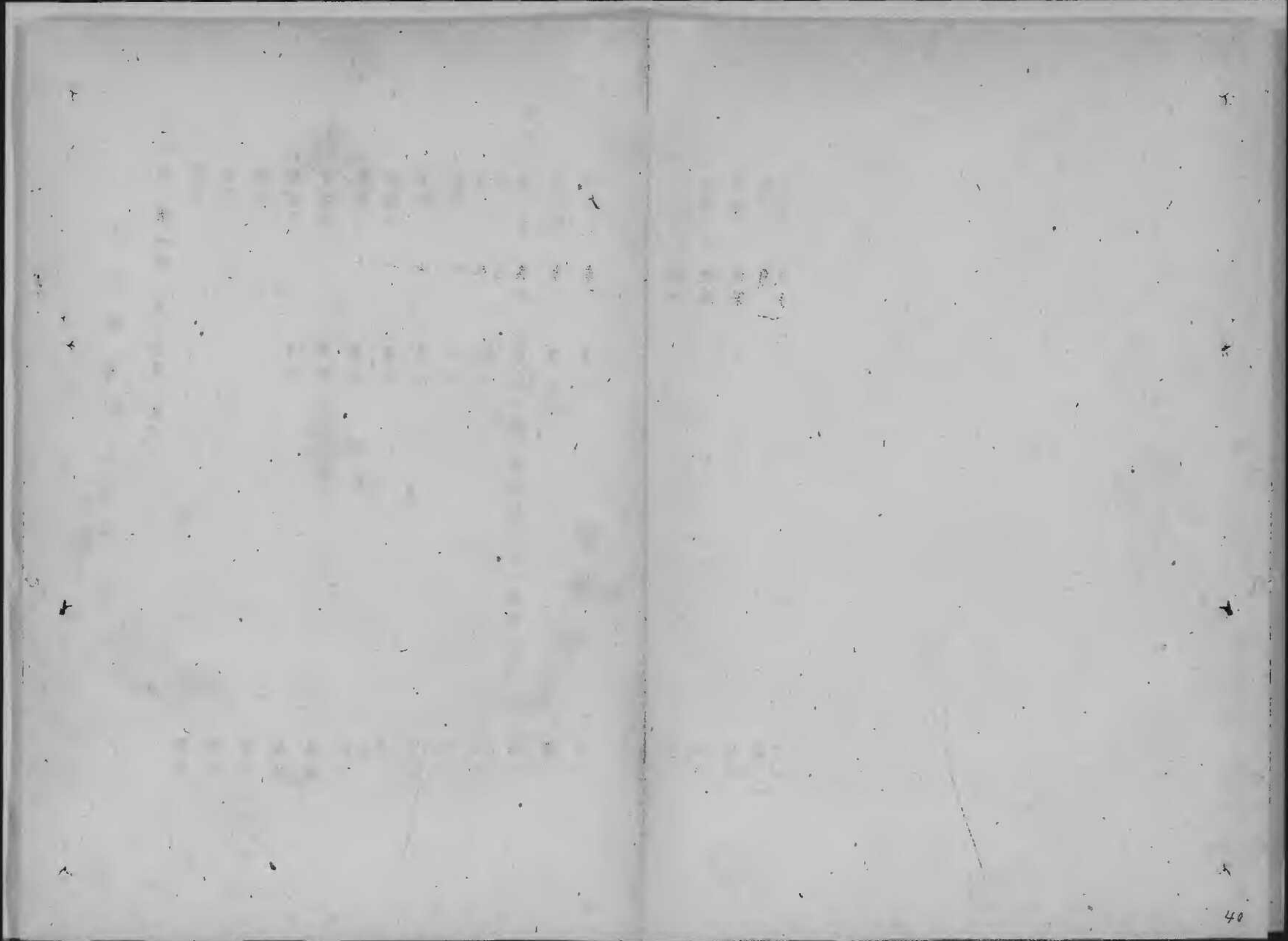
地方事務官又ハ地方技官

專任 五千二百十八人 三級

戦災復興院

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス



送	受	及	號	局	課	令	日	月	日	受	及	送	第
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日



昭和三年四月八日

日本文書課長

大臣

次官



局長



主査



東京市官制中改正案
 紙勅令案ヲ提出ス
 右閣議ヲ請フ

請議案

151
 4
 2
 2
 2

事務官

裏面あり

日	第	第	第
號	號	號	號
西	送	送	送
月	月	月	月
日	日	日	日

共
 一
 二
 三

内閣總理大臣
 年 月 日

大 臣

朕東京都官制中改正案一件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布ス

名 出 爾

年 四月 七日

内閣總理大臣

内務大臣

勅令第一〇一號

第一條 東京都官制中左ノ如ク改正ス

大日本帝國政府

第一條 二中、專任二百七十八人以内ヲ、專任二百九

十二人以内ニ、專任三百三十三人以内ヲ、專任四百

九十二人以内ニ、專任二千九百六十八人以内ヲ、專

任四千三十三人以内ニ、專任

第三條 北海道官制中左ノ如ク改正ス

第一條 一中、專任百三十人以内ヲ、專任百二

十一人以内ニ、專任七百五十一人以内ヲ、專任七百

4128
1795
4322 ✓

八十人以内ニ改ム

第十條中「文部」ヲ「文部」ニ「経済部」ヲ

「経済部」ニ改ム
南拓部

第十二條第三項中「第四條」及「第五條」ヲ削リ

同項ニ「第四條」トシテ「左」ノ次ヲ加フ

南拓部ニ於テハ「左」ノ事務ヲ掌ル

一 拓殖ニ関スル事項

大日本帝國政府

二 國有事業ノ管理及廣シニ関スル事項

第十三條第二項中「土木部」ヲ「南拓部」トシ

部ニ改ム

第十三條 地方官制中「左」ノ改正ス

第十二條中「專任九百二十一人以内」ヲ「專任

九百二十四人以内」ニ「專任四千三百二十八人以内

」ヲ「專任四千三百二十一人以内」ニ「專任二萬

六千六百三十四人以内ニシテ

第四條 新設社縣等臨時職員等設置新中

左ノ通りニ

第一條ノ三中「專任三十人」ヲ「專任三十人」ニ

「專任百八人」ヲ「專任百三十七人」ニ、内三人ヲ

内三人ニ、專任千九百十七人」ヲ「專任二千

百六十九人」ニ改ム

大日本帝國政府

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

戦災地、復興事業ニ従事シタル者ノ新道行線
 二道心ニシテ二級ノ地方事務員四十八人、二級ノ地方村官
 三百二十九人、三級ノ地方事務員及及地方村官二
 千四百四十九人ヲ増員スルト北海道ニ於テ開墾
 事業ヲ完ハスルニ爲シ二級ノ地方事務員五人、一級
 ノ地方村官一人、二級ノ地方村官二十八人、三級ノ
 大日本帝國政府

ノ地方事務員及及地方村官二百七十一人ヲ増員ス
 得也。又拓政廳長ニ附シテ事務員ヲ一ノ處手也。且
 爲此海運、航二開拓部ヲ設置スルノ事也。且
 爲此海運、航二開拓部ヲ設置スルノ事也。且

開拓部ノ經常官制ニ入レル理由

一、從前經常官制經濟部ノ所掌事務ヲ分離獨立セシメタルモノ、
ナルコト

二、北海道ニ於テハ拓殖並ニ國有未開地ノ管理及處分ノ事務ハ
不斷ニ從續スルモノニシテ決シテ一時的ナル事務ニ非ザルコト

三、中央ニ於テモ農林省開拓局ノ經常官制ニ規定シアルコト

四、學子徒勤ノ員局ハ經常ニ了リタリ

大日本帝國政府

(折上リ國定規程B5一五(ニ)至(七))

若今照

東京市制官制(抄)

第一条 東京市制ニ在リ職員ヲ置ク

田

第一条 三ノ所條ノ定メ外ニ於テ東京市制ニ在リ職員ヲ置ク

トヲ得

地方事務官

專任二百六十八人以内

二ノ

地方村官

專任三百三十三人以内

二ノ

地方事務官又ハ地方村官

專任二千九百六十七人以内

三ノ

田

大日本帝國政府

北海道(既ニ官制(抄))

第一条 三ノ所條ノ定メ外ニ於テ北海道(既ニ)左ノ職員ヲ

置クヲ得

地方事務官

專任二十七人以内

二ノ

地方村官

專任百二十人以内

二ノ

地方事務官又ハ地方村官

專任七百五十一人以内

三ノ

田

第十條 北海道(既ニ)若クハ東京市制ニ在リ

内務部

教育及衛生部

經濟部

1066 169 14

29 1

47

980

121

6033

692

292

212

土木部
林政部
農務部

第十三條

男

- 一 経済部ニ於テハ右ノ事務ヲ掌ル
- 二 出立ノ高小産ニ関スル事務
- 三 山林園地其ノ他出立ノ新用園地ノ管理ノ関
- 四 停ニ関スル事務
- 五 度量衡ニ関スル事務
- 六 拓殖ニ関スル事務
- 七 国相未開地ノ管理及ニ屬スル関スル事務

男

大日本帝國政府

第十三條 初在ハニ條ノ地方事務官ヲ以テ之ニ充テル也及
 一 命農ヲ承ケテ所部ノ事務ヲ掌ルニ部ノ下ノ官吏
 ヲ充テテ以テ之
 二 初在ノ規定ニ拘ラズ土木部又ハ林政部ノ初在ハ
 三 初在ニ條ノ地方事務官ヲ以テ之ニ充テル也及

男

地方官官制(初)

第十二條

男

前條ノ規定ノ外ニ右ノ事務官ニ充テル也及
 一 地方事務官
 二 農任九百三十人以内
 三 地方打及

1354 199

事任四千二百二十八人此内
地方事務者二千四百八十八人此内
事務二千五百八十八人此内
男

二
112

大日本帝國政府

26634 4329

49

大日本帝國政府

新設臨時職員等設置新

昭和十一年八月二十九日
勅令第三百八十五號

第一條 北海道廳職員ヲ四首ニシテ

地方事務官

事務官三十人

地方村長

兼任百八人

地方事務官又ハ地方村長

兼任千九百一人

252

二條 地方事務官

事務官三十人

地方村長

兼任百八人

地方事務官又ハ地方村長

兼任千九百一人

29

(1)

252

(規定規格F5二×二五七粒)

裏面白紙

打 手 三 打 考
 名 名 月 名 名
 2967+¹³¹¹2356 6033 323+169 2178+114-292
 =472
 751+27-980 120+¹²¹ 27
 25280+1364 =26644 4778+ 922+32=954
 =197-6327

鹿宮熊大福高愛香徳和山廣岡島富 計見
 島崎本分岡知授川島山口島山取山井森手島城

四	一	一	一	一	一	二	二	一	二	二	一	二	二	一	一	二				
三	二	四	四	二	二	一	三	一	九	六	六	八	六	一	九	一	一	九		
大	二	六	九	九	二	一	五	一	三	九	四	一	三	一	三	六	三	五	六	三
八	二	七	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

坂山	前	進	三	以	茨	千	洋	北	新	長	兵	神	大	東	北
早	梨	岡	知	重	木	城	葉	島	玉	湯	時	摩	川	阪	京
二	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	五	三	九	四	一	九	四	一	一	五	五	五	五	二	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

地方官官制第三條中(戦災復興関係)定員配置調書二二四一

昭和二十一年度豫算書

(街路並ニ土地區劃整理事業費補助分)

戦災復興院

總括表

事業名	事業費	補助率	國庫補助額	内 務 省 費	備 考
街路事業	三九、六一、三五〇	1/2	二二、三〇五、〇〇〇	一八、八五〇、〇〇〇	事業費八事業費
復興土地區劃整理事業	一三九、四五〇〇	5/10	一一、三九六、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇	
計	一七八、八五七、五〇〇		一三、七〇一、〇〇〇	八五、四五〇、〇〇〇	

一億四千九百餘

裏面白紙

昭和二十一年度街路事業費補助

款	項	目	金額	備考
戦災復興費	戦災復興事業費補助	街路事業費補助	二二〇〇〇〇〇	内訳別紙ノ通

事由

戦災都市ニ於ケル街路ノ新設並ニ復旧ノ爲地方公共団体ニ於テ施行スル街路事業費ニ対シ国库ヨリ補助スルノ事アリ依テ之ガ支出ヲ要ス。

昭和二十一年度新築事業費概算

費目	事業費	國庫補助額	摘要
築造費	三〇〇八〇五〇	一六八三五七〇	橋
其線費	七二八〇五〇	五三八五五〇	
橋梁費	二七二五〇〇	一六三五〇五〇	橋
其線費	一〇九〇〇〇	八一七五五〇	
附帶工事費	三三八〇五五〇	二八四七〇五〇	橋
其線費	六四三三五〇	六二〇三五〇	
雑工事費	一六四〇五〇	九三三五五〇	橋
其線費	四一三五〇〇	三一〇一五〇	
其他	六二二六八〇	六一三四〇〇	橋
合計	一、〇一、〇一、〇一〇	五、〇一、〇一、〇一〇	

外
ト
口

小計	事務費	合計
三七七二六九〇	一八八五六〇	二、〇六、〇二、〇〇〇
九五一、一〇〇	四七五三六〇	一、四八、〇八、〇〇〇
二八二、一五八〇	一四一、〇二六〇	四二三、一八四〇
二、〇六、〇二、〇〇〇	三、〇六、〇二、〇〇〇	五、〇二、〇四、〇〇〇
一、四八、〇八、〇〇〇	七〇五、一三〇	一、四八、〇八、〇〇〇
四二三、一八四〇	一四一、〇二六〇	五六四、二一〇〇

備考
補助率八
其、他 1/2
幹線 3/4

参考

街路事業費ハ都市復興計画ニ依ル土地整理事業ニ伴フ
 街路ノ新設注ニ復旧ニ要スル費用ニシテ幹線街路ニ在リ
 テハ幅員如米其ノ他ノ街路ニ在リテハ幅員五、五米ヲ砂利
 補装スルモノトシ單價一平方米当リ一〇円トス
 高街路交又點ニ於テハ混凝土排水溝ヲ設クルモノトシ單
 價一平方米ニ七円トス
 橋梁ハ幹線街路ニ属スルモノハ一平方米当リ三五円其ノ
 他街路ニ属スルモノハ三〇円トシテ算出ス

裏面白紙

昭和二十一年度戦災復興都市計畫土地整理事業費補助

款	項	目	金額	備考
戦災復興費	補	復興土地整理事業費	一三三六〇〇	内譯別紙ノ通

事由
 戦災都市ノ急速ナル復興ヲ圖ル爲都
 市計畫畫土地整理事業ヲ実施スルノ要
 アリ、依ツテ本經費ノ支出ヲ要ス

昭和二十一年度戦災復興都市計画土地整理事業費補助内訳

事 項 事業費 補助額 補助率 備考

戦災復興事業費

戦災復興事業費補助

復興地整理事業費補助

三三三三三 二二二二二 8/10

測量費 四八〇〇〇 三三三三三

八二〇〇〇坪 坪単價坪当五圓

清掃器地費 九七二〇〇 七八三三三

六五八〇〇坪 坪単價坪当五圓

鉄鋼座物其他除却費 一九六〇〇 一五六三三

六五八〇〇坪 坪単價坪当五圓

呉收補償費 一一三三〇 八八四八〇

用地費補償費 四〇〇〇 三三三三三

建物等補償費 九四三三三 六五四四〇

建物補償費 七二八〇〇 五七五五〇

官業補償費 六六九〇〇 六一五二〇

移転補償費 四八六〇〇 一八五六〇

墓址補償費 一五二〇〇 一三四八〇

一五二〇坪 坪単價一〇〇圓

事業費計 三三三三五〇〇 一〇六九二〇〇

事業費 六六三三〇〇〇 五三〇四〇〇〇

事業費ノ五分

裏面白紙

測量費坪當單價表

種別	單位	員數	單價	金額	備考
測量費	人	〇.〇二	—	四〇	
現形測量費	人	〇.〇一	—	二〇	
確定測量費	人	〇.〇一	—	一〇	
丈量測量費	人	〇.〇一	—	一〇	
材料費				四〇	測量費、一〇%
機械器具費				〇二	〃 五%
雜費				〇四	測量費材料費、撤撤器具費、一〇%
計				五〇	

三木 九貴 坪 坪 坪 單價表

種別	單位	員數	單價	金額	備
清掃費	人	〇三	一〇	三〇	互換平均六種平均〇三〇立米 蓋工切取坪多〇三〇立米 一日四角價立米三付五〇門 馬車運一噸 切取又蓋上及地均一六
墮物除却工	人	〇三	一〇	三〇	
運搬工	米	〇三	一〇	三〇	
整地費	人	〇三	一〇	三〇	
地均工	人	〇三	一〇	三〇	
道路工	人	〇三	一〇	三〇	
用水路工	人	〇三	一〇	三〇	
材料費					
附帶工事費					
補償費					
雜計					
				一五〇〇	

裏面白紙

参考

地方廳職員(事務費支弁)増加要求ニ関スル説明

本廳職員

一本廳職員ハ都市計画ノ決定ニ関スル準備調査及測量設計等ニ従事スルモノトス

一新要人員ノ算定規程概ネ凡ノ如シ

事務官 戦災大ナルニテ一府縣ニ各一人ヲ置キ東京都

ニハ二人ヲ置ク

技師

罹災面積ノ大小ニ依リ六府縣ヲ除ク各府縣

ニ一人 鹿児島 福岡 香島 三重 愛知 靜岡 六

府縣ハ二人 兵庫 神奈川 ハ三人 東京 大阪ハ

四人宛トス

技手

技師一人ニ付ニ一三人トス

屬

事務官一人ニ付一三人トス

現場職員

一事業執行廳ハ罹災面積ノ廣狹ニ應ジテ都市毎ニ現場事務官一十六名ヲ置ク 二市ニ執行ニ當ルモノトス

即チ東京ノ出張所 大阪ハ三出張所ヲ其他ノ都市ハ

一出張所ヲ設クルモノトス

一出張所ニ廣務、整地、土木ノ三係ヲ置クモノトス

一所要人員ノ算定規程概ネ凡ノ如シ

不整地関係

事務官 一出張所ノ担当区域面積六〇〇萬坪ヲ超スル場合ニ限リ一人置ク

技師

三〇万坪一人ノ割トス但罹災面積
又ナル場合ハ算出人員ノ六〇八割

技手

技師一人ニ付五人トス

属

技手總數ノ四分ノ一トス但シ人員小
ナル場合ハ適當修正ス

(四) 土木関係

事務官

ナシ

技師

六〇万坪一人ノ割トス但罹災面積
大ナル場合ハ算出人員ノ六〇八割トス

技手

技師一人ニ付五人トス

属

技手總數ノ一〇分ノ一トス但人員小
ナル場合ハ適當修正ス

(三) 庶務関係

事務官

一出張所ノ担当区域面積一五〇万坪以
上一人置ク

属

担当面積ノ瘡狭ニ依リ三〜九人置ク

一右ノ標準ニ依リ必要人員ヲ算定スレバ別表一機構ニ
關スル参考トシ如シ

一事業執行者ノ都廳府縣ナル場合ノ官吏ヲ配置
スルモノトシ市長執行ノ都市ニ於ケル人員ヲ除外スレハ所
要官吏ノ定員ハ別表ノ如シ

一縣市分担施工スル場合ノ分担割合ニ依リ人員ヲ算定ス

鹿	宮	尾	大	福	若	香	和	山	石	岡	島	吉	直	青	岩	計
鹿	宮	尾	大	福	若	香	和	山	石	岡	島	吉	直	青	岩	計
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三																
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	三	三	二			八	五	五	六	五		八	九	八	一
三	二	四	四	二	二	一	三	一	九	六	六	一	六	九	百	九
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	一	五	八	八			三	八	三	三	二		二	五	二	四
六	二	六	九	九	二	一	九	一	三	九	四	三	三	一	三	六
一	二	二	三	二	六	三	三	三	三	三	三	三	三	一	二	二
一	五	四	八	四			四	五	二	八	七	五	四	四	四	六
一	七	二	二	一	六	二	四	二	三	八	七	一	四	四	四	一

官	岐	山	靜	愛	三	秦	栲	茨	干	群	堺	新	長	兵	神	大	東	北	海	道	府	縣	官	職
城	早	梨	岡	知	重	良	木	城	葉	馬	玉	浮	崎	庫	川	陵	京	道	道	道	道	道	道	道
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	六	五	一	七	三		八	三		一	五	四	二	二	八	一	六	五	一	六	九	一	一	一
九	七	五	三	九	四		一	九	四	一	一	五	五	五	五	二	一	六	九	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

人件費調書

二一四一

区分	人員	俸給		旅費		賞與計
		単価	金額	単価	金額	
事務長	四六	二四〇〇	一一〇、四〇〇	六〇〇	二七、六〇〇	
庶務	三六九	二、七六〇	一、〇一八、四四〇	六〇〇	二二一、四〇〇	
係長	六三七	九六〇	六、一、九二〇	四〇〇	二五〇、八〇〇	
係手	一八三七	九六〇	一、七四九、二二〇	四〇〇	七二八、八〇〇	
小計			三、四七九、八八〇		一、三三三、六〇〇	一、〇四三、九六〇
職員	三、八八〇					五、七九二、〇〇〇
合計						三、三九一、二〇〇
						八、九八一、九六〇

裏面白紙

計	木	地	庶務	
二四	八	一六	一	技師
一二〇	四〇	八〇	一	技手
二	一	一	一	事務官
三二	四〇	三〇	八	属
一五八	五二	一七	九	計

一 藤原 名古屋 神戸 出張所 各一
 ④ 出張所担当面積
 六〇〇万坪

計	木	地		
二四	八	一六		
三六〇	一四〇	四〇	八〇	
六	一	一	一	
九六	三二	四〇	二〇	
五三四	一七八	五二	一七	

計	木	地	庶務	
一六三	二七	九	一八	一
八一〇	一三五	四五	九〇	一
一二	二	一	一	一
二二	三七	五	三	九
一二〇六	二〇一	五九	一三二	一〇

入 阪
 出張所三
 ④ 出張所担当面積
 八〇〇万坪

東京
 現場 地方 磯崎 園所 要人員
 出張所大
 地方磯崎園所参考

④ 出張所担当面積
 九〇〇万坪

四日崎 洪枚 廣島 岡山

一出張所担当面積
① 三〇万坪 一五万坪

計	主務	整地	農務	技師	技手	事務官	属	計
	一五	一〇	一		七五	二五	二六	一一三

王岐章 和歌山 姫路 靜岡 松山

一出張所担当面積
一〇万坪

計	主務	整地	農務	技師	技手	事務官	属	計
	二五	二〇	一	二	四五	二五	一四	七〇

六 西宮 水戸 堺 仙台 青森 福井 富山 徳島
一出張所担当面積
一五万坪

計	主務	整地	農務	技師	技手	事務官	属	計
	八	三	五	一	四	一五	二五	六一

二 尾崎 宇都宮 徳山 明石 高知 福岡 四日市 中壘橋 甲府
興 福山 大宰府 鹿兒島 熊本 清水 沼津 高松 八王子 長崎
長岡 前橋 日立 津

計	主務	整地	農務	技師	技手	事務官	属	計
	五	二	三	一	二五	一〇	三四	四〇

府縣名	都市名	區數	面積	執行者	事官	技師	屬	技手	摘要
府縣名	都市名	區數	面積	執行者	事官	技師	屬	技手	摘要
宮城	仙台	一	一六五,〇〇〇	縣	一	八	一	四〇	
福島	郡山	一	四〇〇,〇〇〇	縣	一	一	三	四〇	
	平	一	二五〇,〇〇〇	縣	一	一	二	三	
東京	東京	一	五,七〇〇,〇〇〇	都	一	二	二	八〇	
	八王子	一	八〇〇,〇〇〇	市	一	三	四	一五	區整
	計	一	六,〇〇〇,〇〇〇	市	一	五	六	八五	
神奈川	橫濱	一	四,〇〇〇,〇〇〇	市	一	一	一	一	
	川崎	一	四,〇〇〇,〇〇〇	市	一	一	一	一	
	平塚	一	一,四〇〇,〇〇〇	縣	一	二	八	一〇	
	小田原	一	一	市	一	二	一	一〇	
千葉	計	一	一一八〇,〇〇〇	市	一	二	八	一〇	

府縣名	都市名	區數	面積	執行者	事官	技師	屬	技手	摘要
府縣名	都市名	區數	面積	執行者	事官	技師	屬	技手	摘要
青森	八戸	一	三〇〇,〇〇〇	市	一	一	一	四〇	
	青森	一	一四〇,〇〇〇	縣	一	八	一	四〇	
	計	一	四四〇,〇〇〇	市	一	一	二	一五	
山形	盛岡	一	二二〇,〇〇〇	市	一	一	一	四	
	花巻	一	五〇〇,〇〇〇	縣	一	一	二	三	
	宮古	一	六二〇,〇〇〇	縣	一	一	二	三	
	釜石	一	二二〇,〇〇〇	市	一	一	一	一	
	計	一	一,〇六〇,〇〇〇	市	一	一	一	一	
岩手	盛岡	一	二二〇,〇〇〇	市	一	一	一	六	
	花巻	一	五〇〇,〇〇〇	縣	一	一	二	三	
	宮古	一	六二〇,〇〇〇	縣	一	一	二	三	
	釜石	一	二二〇,〇〇〇	市	一	一	一	一	
	計	一	一,五六〇,〇〇〇	市	一	一	一	一	

静岡		愛知		山梨		新潟		群馬		縣名													
清水	浜松	静岡	計	一宮	岡崎	豊橋	名古屋	計	甲府	計	長岡	計	伊勢崎	都市名	區	面積	執行者	警察官	技師	屬	技師	備考	
一三九,〇〇〇	三,一六六,〇〇〇	二,三〇四,〇〇〇		九六,〇〇〇	四一六,〇〇〇	一,二四六,〇〇〇	一三,三三〇,〇〇〇		一,五〇〇,〇〇〇		一,二〇〇,〇〇〇		一三九,〇〇〇										
市	市	市		市	市	縣	市		縣		縣		縣										
			七			五	五	五	五														
			一六		三	三	一〇		一〇	一〇	一〇	二	三	屬									
			三五		五	五	二	二	二	二	二	三	三	技師									

群馬		栃木		茨城				埼玉		千葉				
高崎	前橋	計	鹿沼	宇都宮	計	豊浦	多賀	高萩	日立	水戸	計	熊谷	計	鉦子
九六,〇〇〇	九六,〇〇〇		二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇		五三,〇〇〇	五〇,〇〇〇	七五,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇		五〇三,〇〇〇		八四五,〇〇〇
市	市		縣	市		縣	縣	縣	市	縣		縣		縣

愛媛		香川		鳥取		山口						府県名									
宇和島	松山	計	高松	計	境	計	岩国	光	下松	徳山	宇部	下関	計	都市名	正整面積	執行者	事務官	技師	属	技手	
七、七、〇、〇、〇	一、七、〇、〇、〇		一、六、七、七、〇		五、八、〇、二		一、五、九、〇、〇	一	一	七、四、五、〇、〇	六、五、〇、〇、〇	四、四、八、二、〇、〇		正整面積		執行者	事務官	技師	属	技手	
市	市		市		町		県	一	一	県	市	市		執行者		事務官		技師	属	技手	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	幹線																				

岡山		広島				福井		和歌山						
岡	山	計	福山	呉	廣島	計	敦賀	福井	計	勝浦	新宮	田辺	海南	和歌山
二、五、〇、〇、〇			一、七、五、〇、〇	八、八、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇、〇		一、一、五、〇、〇	一、八、〇、〇、〇		九、八、〇、〇				一、〇、九、五、八、〇、〇
県			市	市	市		県	県		町				市
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
			正整幹線	正整幹線										

宮崎					大分		熊本					
富島	油津	高鍋	都城	延岡	宮崎	計	計	宇土	小保	荒尾	熊本	計
四〇〇〇〇	六五〇〇〇	九六〇〇〇	五五五〇〇	六三〇〇〇	六二〇〇〇					一四九五七	三〇四〇〇〇 九二六〇〇〇	一八〇七〇〇〇
"	"	"	"	"	縣	縣					市 市 市	
1	1	1	1	1	1	1					1	1
1	1	1	1	1	=	=	三				1	1
=	=	=	三	三	三	八	八	八			1	1
三	三	三	五	五	五	一〇	一〇	一八			1	1
									街路事業	街路事業	區整並分	幹線

長崎		福岡					高知		徳島		今治			
佐世保	長崎	計	若松	久留米	大牟田	八幡	門司	福岡	計	高知	計	徳島	計	今治
六三〇〇〇	一七〇〇〇	五三八四七九	一六四三九	六九八六五	一三三三五〇	一五〇八〇〇	三九〇九六〇	一四〇〇〇〇〇	一五八三〇〇〇	一五八三〇〇〇	一五八三〇〇〇	六四二〇〇〇	三四九四〇〇〇	一七〇〇〇〇
市 市	市 縣		"	"	"	"	"	市	市			縣		市 縣
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
已劃整理	已劃整理													幹線

總計		鹿兒島											
三三	事務官	計	垂水	東市来	山川	枕崎	加治不	何久根	串木野	指宿	川内	鹿兒島	計
三二四	技師		一六〇〇〇	三六〇〇〇	八〇〇〇〇	五〇〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇五〇〇〇	三六〇〇〇〇		三九六六三	四五四八〇	
五七七	属		"	"	"	"	"	"	町		市	市	
一六九〇	技手	・	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		一	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	三
	摘	一	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	一五
		五	1	1	1	1	1	1	1	1	1	五	二四
	要											幹線	

裏面白紙

復興局官制 (大正三、三、三、勅令第三十六号)

第二條復興局ニ左ノ職負ヲ置ク

技師	事務官	書記官	部長	技監	長官
專任	專任	專任	專任	專任	專任
六五〇人	二二五人	一二〇人	一〇〇人	四〇人	一〇人
判任	判任	奏任	奏任	勅任	勅任

(内七人ヲ勅人トスルコトヲ得)

震災復興土地区劃整理局職員數表

現在年月日	大正四、四、二	大正四、六、二	大正五、四、二
所屬	本局	第一出張所 第二出張所 第三出張所 第四出張所 計	本局 第一出張所 第二出張所 第三出張所 第四出張所 計
主任技師	五	四	三
技師	二七	二七	二七
事務官	五	五	五
書記官	二	二	二
部長	一	一	一
技監	一	一	一
長官	一	一	一
判任	一七	一七	一七
奏任	一	一	一
勅任	一	一	一
小使	一	一	一
其他	六	六	六
計	六九	六九	六九

昭和二三三三					昭和二三三八					現在年月日				
計	才四	才三	才二	才一	計	才四	才三	才二	才一	計	才四	才三	才二	才一
本局	出張所	出張所	出張所	出張所	本局	出張所	出張所	出張所	出張所	本局	出張所	出張所	出張所	出張所
一〇	六	五	六	六	一〇	六	五	四	五	七	六	五	四	五
三三	三	三	三	三	三三	三	三	三	三	三三	三	三	三	三
二四六	六	五	四	四	三二五	六	五	四	四	二二五	六	五	四	四
四四七	一	九	八	一	三二五	九	六	六	六	二二七	九	六	六	六
一三三五	四	四	二	二	九六九	三	五	一	一	九九	四	五	一	一
三三	一	一	一	一	二九	五	三	一	一	一九	一	一	一	一
二四〇	六	五	三	四	三四一	一	九	五	四	二八	六	五	三	四
二六五七	七	七	四	五	二〇二〇	五	五	三	三	二四四	七	七	四	四

復興事業局職員數表

戰災復興院

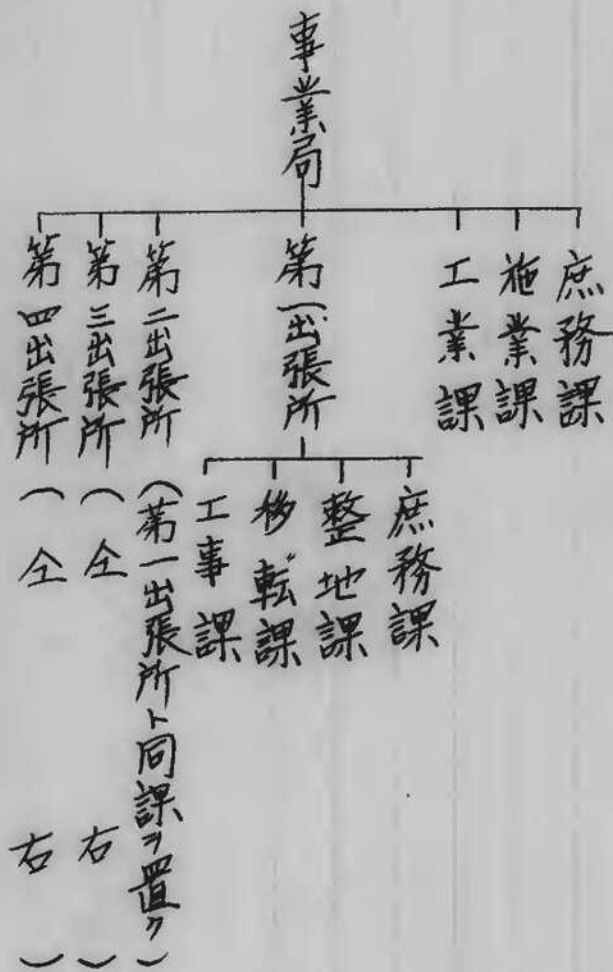
現在年月日	部長	主事	技師	事務員	技士	雇	給仕	計
大正四四一	一	一	一	一	一	一	一	一
大正五五四	一	一	一	一	一	一	一	一
現在年月日	一	一	一	一	一	一	一	一
計	三	五	八	三	二	五	四	三八

昭和五 三三		昭和四 三三				昭和四 一				昭和三 三三				昭和三 一				現在年月日		
計	本局	計	才四	才三	才二	才一	本局	計	才四	才三	才二	才一	本局	計	才四	才三	才二	才一	本局	所属
一四	一四	二九	五	五	五	五	一四	三三	六	六	三	七	三三	七	五	六	三	六	一〇	技主 師事
一三	一三	一六	三	一	三	四	一五	三三	八	七	五	五	三八	七	五	四	五	四	五	技主 事員
九七	九七	一二	三	一	七	六	二〇	二一	五	四	三	三	二七	五	四	五	五	五	三	雇
四三	四三	一〇	一	一	四	七	二八	一九	五	四	三	三	三三	五	八	一	一	一	一	嘱託
一〇	一〇	二七	七	一	九	三	五八	六	一	一	一	一	一〇	八	一	一	一	一	一	工手
三三	三三	三〇						二六					二六							小給 使仕
一四	一四	六六	一	一	一	三	二四	一三	三	五	三	二六	一三	三	三	三	三	三	三	其他
四三	四三	七五	八	一	五	五	一六	七	二	三	三	二	四	六	七	七	四	四	二	計

戦災復興院

備考

- 一、施行面積六百万坪
- 二、復興事業局課別



戦災復興院

第一條 本法ニ於テ特別都市計畫ト稱スルハ戰爭ニ因リ災害ヲ蒙リタル都市町村ノ都市計畫區域内ニ於ケル都市計畫ヲ謂フ

前項ノ都市町村ハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 公共團體ヲ統轄スル行政廳特別都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テハ廳庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ執行ニ要スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助ス

第三條 公共團體ヲ統轄スル行政廳特別都市計畫事業トシテ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ名勝地、舊蹟地及古蹟墓地ヲ除クノ外耕地整理法第四十三條第一項ニ掲グル土地ハ同條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得
前項ノ土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第三十一條ノ規定ニ拘ラズ處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 前條ノ土地區劃整理ニ付宅地ノ規模ヲ適正ナラシムル爲必要アルトキハ過小ノ宅地ニ對シ地積ヲ増シテ換地ヲ交付シ又ハ換地ヲ得セズ金錢ヲ以テ之ヲ清算スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ過小ノ宅地ニ對シ地積ヲ増シテ換地ヲ交付スル爲必要アルトキハ大ナル地積ノ宅地ニ付其ノ地積ヲ減ジテ換地ヲ交付スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ地積ヲ増シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テ其ノ地積ヲ増シタル部分ノ土地ニ付存スル地上權、賃借權、水小作權又ハ土仗權ノ全部又ハ一部ニ付テハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スベシ同項ノ規定ニ依リ換地ヲ交付セズ金錢ヲ以テ之ヲ清算スル場合亦同ジ

第五條 第三條ノ土地區劃整理ニ付借地權ノ規模ヲ適正ナラシムル爲必要アルトキハ過小ノ借地權ニ對シテ地積ヲ増シテ權利ヲ指定シ又ハ權利ヲ指定セズ金錢ヲ以テ之ヲ清算スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ過小ノ借地權ニ對シテ地積ヲ増シテ權利ヲ指定スル爲必要アルトキハ地上權、賃借權、水小作權又ハ地役權ニ付其ノ地積ヲ

派シテ權利ヲ指定スルコトヲ得

第一項ノ過小ノ信地權ニ對シテ地積ヲ増シテ權利ヲ指定スル場合ニ
ニ於テ其ノ地積ヲ増シタル部分ニ付テハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スベシ

第二項ノ指定ニ依リ地積ヲ派シテ權利ヲ指定スル場合ニ於テ其ノ地
積ヲ派シタル部分ニ付亦同ジ

第六條 第四條ノ過小ノ毛地及大ナル地積ノ宅地並ニ第五條ノ過小ノ
借地權ノ規模ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 第三條ノ土地區劃整理施行地區内ニ編入セラレタル土地ニシ
テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ換地ヲ交付セズ金錢ヲ以
テ之ヲ清算スルコトヲ得

一 國有地ニシテ換地ヲ必要トセサルモノ
二 民有地ニシテ從前ノ用途ニ供スルコト能ハサルニ因リ不用ニ歸シ
タルモノ

第八條 第三條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ換地ニ關スル
事項及第十二條ノ規定ニ依リ補償金ノ配當割合ニ關スル事項ハ勅令

ノ定ムル所ニ依リ土地所有者及信地權者ヲ以テ組織スル土地區劃整理
委員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム

前項ノ土地區劃整理委員會ノ組織ニ關スル勅令ノ適用ニ付テハ國有財
産法第二十四條ノ規定ニ依リ國有地ノ貸付ヲ受クル神社・寺院・佛堂
及學校並ニ公有又ハ公有ノ墳墓地ヲ官理スル寺院及佛堂ハ信地法ニ諸
ノ信地權者ト看做ス

第九條 第三條ノ土地區劃整理ノ爲必要アルトキハ換地予定地ヲ指定ス
ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ換地予定地ノ指定ヲ爲シタルトキハ從前ノ土地ノ所
有者ニ之ヲ通知シ且從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付地上權・賃借權・
永小作權地役權又ハ質權ヲ有スル者（以下關係者ト稱ス）アルトキハ
其ノ目的タル土地又ハ其ノ部分ヲ指定シテ權利者ニ之ヲ通知スベシ
第一項ノ規定ニ依リ換地予定地ノ指定ヲ爲シタルトキハ換地予定地ノ
所有者及關係者ニ對シテ之ヲ通知スベシ
前二項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フル

モノトス

第二項乃至第四項ノ規定ハ換地予定地ノ指定ノ要スルモノトシテ之ヲ準用ス

第十條 前條第二項ノ規定ニ依リ指定ノ通知ヲ受ケタル者ハ其ノ翌日ヨリ耕地整理法第三十條第四項ニ規定スル換地處分ノ告示ノ日迄換地予定地ヲ使用收益ノ目的ニ供スルコトヲ得ルモノトシテ前ノ土地ハ使用收益ノ目的ニ供スルコトヲ得ズ

前條第三項ノ規定ニ依リ指定ノ通知ヲ受ケタル者ハ其ノ翌日ヨリ耕地整理法第三十條第四項ニ規定スル換地處分ノ告示ノ日迄換地予定地ヲ使用收益ノ目的ニ供スルコトヲ得ズ此ノ場合當該換地豫定地ノ所有者及關係者之ヲ使用收益ノ目的ニ供スルコトヲ得サルニ因リ受クベキ損害ハ之ヲ補償スベシ

前二項ノ場合ニ於テ換地予定地ニ建築物其ノ他ノ工作物存スルトキ又ハ特別ノ事情ニ因リ之ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ従前ノ土地及當該換地予定地ノ土地所有者及關係者ニ對スル使用收益ニ關スル制限ハ使用開始ノ日ヨリ始マルモノトス

前項ノ場合ニ於テ従前ノ土地ノ所有者及關係者換地豫定地ノ使用開始ノ日ヲ別ニ定メタルニ因リ受クベキ損害ハ之ヲ補償スベシ

第十一條 第三條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ^{地方長官}地方長官ノ認可ヲ經テ街廓ヲ指定シ共有ノ換地ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ共有ノ換地ヲ受クベキ従前ノ土地ノ所有者及關係者ハ當該土地ニ前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル街廓内ニ於テ換地ヲ受クベキ土地所有者及關係者ノ持分ノ決定ハ當事者相互ノ協議ニ依ル也シ整理地行者ノ指定スル期間内ニ協議整ハサルトキハ整理地行者之ヲ定ム
已ムヲ得サル理由ニ因リ第一項ノ規定ニ依ル共有地ヲ分割使用セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十二條 第三條ノ土地區劃整理ノ爲必要アルトキハ土地區劃整理地行者ハ立退ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ第九條ノ規定ニ依リ換地豫定地ヲ指定シ且少クトモ三月前ニ所有者及占有者一其ノ旨豫告スベシ
前項ノ規定ニ依ル命令ヲ變更セントスルトキ亦同ジ。

第一項ノ移轉又ハ立退ニ因リ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ通常受クベキ損害ニ限り之ヲ補償スベシ但シ補償ヲ受ケサルコトヲ條件トシテ建築ノ認許ヲ受ケ又ハ他ノ法令ニ違反シテ建築シタル建築物ニ付テハ此ノ限ニ任ラズ

第十三條 第三條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ土地區劃整理施行地區内ニ於ケル施行後ノ宅地ノ總面積ガ施行前ノ宅地ノ總面積ヨリ一割五分以上ヲ減少スルニ至リタルトキハ其ノ一割五分ヲ超過スル部分ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付スルコトヲ要ス

第十四條 第十條第二項及第四項第十二條第三項並一割條ノ規定ニ依ル補償金ハ補償審査會之ヲ決定ス

第十五條 補償審査會ハ都道府縣毎一之ヲ置ク地方長官之ヲ監督ス

補償審査會ハ會長一人及委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス
會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係各縣高等官、都道府縣會議員、學識經驗アル者各四人ヲ以テ之ニ充ツ地方長官之ヲ委囑シ又ハ命ズ

地方長官ハ關係市町村長及關係市町村會議員ノ申ヨリ臨時委員ヲ委囑スルコトヲ得

臨時委員ハ關係市町村ニ關セザル事項ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ズ
補償審査會ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第十六條 本法一定ムルモノノ外補償審査會ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第十七條 第二條及第七條ノ規定ハ土地區劃整理組合ノ施行スル土地區劃整理ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條 耕地整理法第二十五條ノ規定ハ第四條及第五條ノ規定ニ依ル清算金及第十四條ノ補償金ニ關シ之ヲ準用ス

第十九條 本法一於テ宅地ト稱スルハ勅令ニ依リ公共ノ用ニ供スル土地ト定ムルモノ以外ノ土地ヲ謂ヒ借地權ト稱スルハ借地法ニ謂フ借地權ヲ謂フ

第十九條 都市計畫法第十三條第二項ノ規定ハ第三條ノ土地區劃整理ノ
之ヲ準用ス

第二十條 第十條第二項及第四項、第十一條第三項又ハ第十三條ノ規定
ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三
月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十二條 都市計畫法第二十三條乃至第二十六條ノ規定ハ本法又ハ本
法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

農地調整法第四條ノ四第四號中「都市計畫法」ノ下ニ「又ハ特別都市計
畫法」ヲ加フ

開拓部設置等ニ関スル官制改正理由

戦争終結後ニ於ケル國內ノ諸情勢ニ鑑ミ最モ緊急要務クシ
人口及食糧問題解決ノ一助トシテ昭和二十年十一月九日閣議
決定セル緊急開拓事業實施要領ニ基テ北海道ニ現存スル
國有及民有ノ未利用地並ニ牧野山林等中ノ農耕適地七十萬
ハ上可也
歩ヲ開放シ被災歸農者及ニ員其ノ他離職者等ノ復員依
ル過剩人口ヲ五箇年間ニ移住入植セシメ統制アル開拓ニ投身
セシメ以テ食糧ノ増産ニ邁進セシムルコトナリタリ
然ルニ現行拓殖計畫ニ依ル北海道ヘノ農業移住者ハ時局ノ影
響ヲ受ケ年歲其ノ數ヲ減ジ昭和十七年ノ如キハ來住一四二五戸
往住八二六戸ニシテ差引五九九戸ノ増加ニ過ギズ從ツテ之ガ拓殖ニ
関スル事務ハ現行北海道廳官制ニ依リ經濟部主管ノ企畫課及

開拓課ヲシテ分掌セシメ職員ハ事務官一名、技師一名、屬三名、
技手五九名(支廳配置ヲ含ム)ノ小數ニ過ギザル狀況ニシテ此ノ弱
体ナル陸容ヲ以テシテハ前記開拓計畫ノ如キ尅大且緊急ヲ
要スル事業ノ円滑ナル遂行ヲ期シ難ク豫期ノ成果ヲ收ムルコト至
難ナリ

仍ノ速ニ官制ヲ改正シ開拓部ヲ設置シテ企畫施設及開拓
三課ヲ置キ其ノ必要ナル職員ヲ増員配置スルト共ニ土木部主
管ノ土地改良並ニ道路事業實施ニ要スル職員ヲ増加シ急速
ニ陣容ヲ整ヘ事務並ニ事業ノ迅速適正ナル遂行ヲ期スル為
官制改正ヲ要請スルモノナリ

企畫課

開拓部設置卜各課分掌

土地選定ニ関スル事項

開拓地ノ決定ニ関スル事項

開拓地區劃測設ニ関スル事項

土地敷分ニ関スル事項

起業督勵検査ニ関スル事項

民有地買収ニ関スル事項

施設課

開拓地ノ紹介ニ関スル事項

開拓者ノ募集ニ関スル事項

開拓者ノ入植決定ニ関スル事項

開拓入植者ノ必需資材ニ関スル事項

内從 三少
二〇万戸

簡易軌道ニ関スル事項

用水施設ニ関スル事項

共同宿舍ニ関スル事項

教育施設ニ関スル事項

營農資金融通斡旋ニ関スル事項

利子補給ニ関スル事項

診療助産ニ関スル事項

世話指導ニ関スル事項

團體ノ活動ニ関スル事項

開墾課

開墾事業計畫ニ関スル事項

開墾施行ニ関スル事項

開墾補助ニ関スル事項

酸性地ノ矯正計畫ニ関スル事項

石灰購入輸送ニ関スル事項

酸性地ノ矯正事業實施ニ関スル事項

資材ニ関スル事項

勞務ニ関スル事項

土地改良課

土木部主管課ト其ノ分掌

排水計畫ニ関スル事項

排水工事ニ関スル事項

客土計畫ニ関スル事項

客土工事ニ関スル事項

排水及客土補助事務ニ関スル事項

工事資材ニ関スル事項

勞務ニ関スル事項

土木現業所ノ工事督勵ニ関スル事項

道路課

道路設計ニ関スル事項

道路工事ニ関スル事項

工事資材ニ関スル事項

労務ニ関スル事項

土木現業所ノ工事督勵ニ関スル事項

北海道開拓者集團入植施設計畫概要

一、方針

戦争終結後ノ國內事情ヲ案スルニ此後幾多ノ困難アルヘキ
モ就中食糧ノ窮迫ハ民心作興上將又戦後經營上最モ重
要事項ニシテ速ニ之カ對策ヲ樹立セサルヘカラス然ルニ反面今
ヤ國內ニハ一家ノ柱石ヲ失ヒタル戦歿者遺族、戦災者、徵集召
集解除者、工場事業場等ノ離職者、失地外地ヨリノ引上者等
ニシテ未ダ處ヲ得ザルモノ不尠之等ノ人々ヲ速ニ歸農セシメ
テ一ハ以テ食糧ノ増産ニ挺身セシメ一ハ以テ生活ヲ安定セシム
ルハ喫緊ノ要務ナルニ鑑ミ本道ニ於ケル國有及民有ノ未利用
地並ニ牧野山林等ニ亘リ悉ク農耕適地ヲ開放セシメ開拓者
ヲ集團入植セシムル爲之ニ必要ナル施設ヲ行ハントス

二、開拓地ノ造成

多数ノ開拓者ヲシテ速ニ食糧ノ増産ヲ爲サシムルタメニハ從來ノ
拓殖ノ例ヲ以テシテハ到底其ノ目的ヲ達シ難シ特ニ今後主トシテ
開拓セラルヘキ土地ノ狀況ニ鑑ミ國家ニ於テ直接機械力其ノ他
ヲ用ヒテ大規模ニ開墾(荒起)シ且土地改良ノ爲排水客土酸性
土壤矯正等ヲ實施スルモノトス
之ヲ爲開拓者ヲシテ其ノ入植スヘキ土地ノ開拓ニ付就勞セシム
ルハ勿論ナルモ一面軍又ハ軍需工場方面ニ於テ不要トナリタル土建
勞務及開拓ノ機能ヲ有スル凡エル機關ヲ強力ニ結集シテ之ニ當
ラシムルモノトス尚土地ノ狀況ニヨリテ開拓者ヲシテ開墾土地改良
等ヲサシムルヲ可トスルモノニ對シテハ之カ助成ヲ行フモノトス

(1) 土地調査

國有及民有ノ未利用地並ニ牧野山林地中農耕適地ヲ悉ク調査シ

國有土地ニ在リテハ區劃測設ヲ爲シ民有土地ニ對シテハ買收ノ上
 區劃測設ヲ行ヒ開拓入植者ニ無償貸付ヲ爲スモノトス
 (一) 國有地中 國有未開地及 國有林ヲ解除シテ 國有未開地ニ編入
 スルモノニ對シテハ 國有未開地處分法ニ依リ貸付處分ヲ爲ス
 (二) 其ノ他 國有地即チ從來ノ 軍用地 官有地 官有林等ニ在リテハ
 其ノ用途ヲ廢シタル後ハ 北海道廳長官ハ 賦務局長ト協議ノ
 上 道廳計畫ニ從ヒ直チニ開墾ニ着手スルヲ得ルノ措置ヲ
 講スルモノトス
 (三) 民有地ニ對シテハ 國ニ於テ買收シ之ヲ開拓者ニ貸付スルノ措置
 ヲ講スルヲ要ス

區	分	全農耕地 適地面積	調査面積	昭和十五年 度	昭和十五年 度	昭和十五年 度	昭和十五年 度	昭和十五年 度
國有未開地		一〇〇、〇〇〇町	八〇、〇〇〇町	三〇、〇〇〇町	二〇、〇〇〇町	二〇、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町
國有林暨他官有林地		一五〇、〇〇〇町	一二〇、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町	一六、〇〇〇町	六四、〇〇〇町	三〇、〇〇〇町	三〇、〇〇〇町

區	分	全農耕地 適地面積	調査面積	昭和十五年 度	昭和十五年 度	昭和十五年 度	昭和十五年 度	昭和十五年 度
軍用及官有地		六〇、〇〇〇町	五〇、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町	二〇、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町
未墾地		二三〇、〇〇〇町	一一五、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町	二五、〇〇〇町	二五、〇〇〇町	四〇、〇〇〇町	四〇、〇〇〇町
民有地		二〇〇、〇〇〇町	八〇、〇〇〇町	一〇、〇〇〇町	一五、〇〇〇町	一五、〇〇〇町	三〇、〇〇〇町	三五、〇〇〇町
山林地		四六〇、〇〇〇町	二五五、〇〇〇町	五〇、〇〇〇町	五六、〇〇〇町	一九四、〇〇〇町	八〇、〇〇〇町	一二五、〇〇〇町
合計		一、二〇〇、〇〇〇町	七〇〇、〇〇〇町	五〇、〇〇〇町	五六、〇〇〇町	一九四、〇〇〇町	二〇〇、〇〇〇町	二〇〇、〇〇〇町

備考 國有未開地中本表外ニ牧野適地一〇〇、〇〇〇町歩(二十五年一、〇〇〇町歩)
 二十二年各年度三七、〇〇〇町歩)ヲ調査スルモノトス
 二十四

開拓施設

開拓者ヲシテ速ニ食糧ノ増産ヲナサシムル爲ニ土地改良、道路及用水
 等ノ施設ヲ爲スト共ニ機械力ニ依ル荒起程度ノ開墾ヲ實施ス
 之カ事業ハ國ニ於テ直轄施行スルヲ建前トスルモ土地ノ狀況ニ應ジ
 一部補助事業トシテ入植者ニ實施セシム

區	分	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年
明石港水工事	三、五〇、〇〇〇 町	三、〇〇〇 町	五、〇〇〇 町	一、二四、〇〇〇 町	一、二四、〇〇〇 町	一、二四、〇〇〇 町
支線	四、五〇、〇〇〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	一、四七、五〇〇	一、四七、五〇〇	一、四七、五〇〇
旅客	五、六〇、〇〇〇	四、五〇〇	九、五〇〇	一、八二、〇〇〇	一、八二、〇〇〇	一、八二、〇〇〇
客土工事	二、七九、〇〇〇	一、〇〇〇	四、八〇〇	九一、〇〇〇	九一、〇〇〇	九一、〇〇〇
補道	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五、五〇〇	二、四、八〇〇	二、四、八〇〇	二、四、九〇〇
酸性土壌矯正	三、五〇、〇〇〇		五、五〇〇	一、二四、八〇〇	一、二四、八〇〇	一、二四、九〇〇
開墾事業	六、三〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	一、九〇、〇〇〇	一、九〇、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇
直補	七、〇〇〇		六、〇〇〇	二、一〇、〇〇〇	二、一〇、〇〇〇	二、一〇、〇〇〇
道路施設	一、一七、五〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、八二	三、八二	三、八三
幹線新設	四、四三〇	一、〇〇〇	七、五〇〇	一、四四、五〇〇	一、四四、五〇〇	一、四四、五〇〇
支線新設	三、三〇〇	三	二、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
改良補修	五、〇〇〇		二、五〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
用水施設						

三、開拓者ノ選定

(一)選定ノ對象

北海道ノ拓殖農業ニ積極的ニ挺身シ戰後經營民族復興ニ貢獻セン
トスル真摯ナル熱意ヲ有スルモノニシテ戰災者、工場事業場等ノ
離職者、失地外地等ヨリノ引上者、其ノ他適當ト認ルモノノ内ヨリ
選定スルモノトス

(二)選定戸数及人員

北海道ニ於ケル受入ノ施設及設備等ヲ勘案シ第一次計畫トシテ左
ノ戸数及人員ヲ目途トシテ選定ヲ行フモノトス (曩ニ決定セル戰災者
ヲ含ム)

(1)世帯 二十万戸
(2)人口 百万人

區	分	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	昭和三十二年	計
---	---	--------	--------	--------	--------	---

開拓者入植戸数	一六、〇〇〇戸	六〇、〇〇〇戸	六〇、〇〇〇戸	六四、〇〇〇戸	二〇、〇〇〇戸
開拓者入植人員	八〇、〇〇〇人	三〇、〇〇〇人	三〇、〇〇〇人	三二〇、〇〇〇人	一〇、〇〇〇人

四 開拓入植者耕作面積

開拓者ニ對シテハ國有未墾地又ハ民有未墾地概ネ二町歩乃至五町歩ヲ無償貸付シ墾成後ノ狀況ニ依リ年賦拂下ノ方法ヲ採リ計有セシムルモノトス一戸平均耕作面積三町五反トシ二十万户世帯ニテ五町歩ヲ要ス

五 開拓入植者受入施設

入植者ニ對シテハ入地ニ際シ必要ナル宿舍並ニ教育醫療等ノ施設ヲ爲ス外營農指導所ノ爲世詒指導員ヲ配置ス

(1) 宿舍ノ施設

開拓者入植ニ必要ナル共同假宿舍ハ學校寺院及市町村附屬公

舎ヲ無償貸與スヘク四万世帯二十万人ヲ豫定セルモ其他ノ八万世帯四十万人ハ農家ノ既設建物ヲ借受ケテ之ヲ使用シ尚不足ノ八万世帯四十万人ノ收容ニ一棟五世帯收容ノ共同居小屋一万六千棟ヲ建設ス

區	分	昭和二十年度	昭和二十一年度	昭和二十二年度	昭和二十三年度	昭和二十四年度	計
假宿舍施設		四〇、〇〇〇棟	五〇、〇〇〇棟	二二、〇〇〇棟	二一、〇〇〇棟	二五、〇〇〇棟	八〇、〇〇〇棟
共同居建設		八、〇〇〇棟	一、〇〇〇棟	四七、〇〇〇棟	四七、〇〇〇棟	四八、〇〇〇棟	一六、〇〇〇棟

(2) 教育施設

多数ノ開拓者ヲ入植セシムヘキ町村ニ於テハ國民學校ヲ設テ之ヲ設セシムルコトハ財政ノ許サル處ナルヲ以テ新ニ校舍及設備ヲ要シ其ノ町村ノ財政困難ト認ムルモノニ對シテハ國ニ於テ校舍及設備ヲ行ヒ町村ニ管理セシムル建前ヲ採リ一校六〇坪ノモノ五百校ヲ豫定セリ

區	分	昭和二十年度	昭和二十一年度	昭和二十二年度	昭和二十三年度	昭和二十四年度	計
---	---	--------	---------	---------	---------	---------	---

校舍及設備 就學児童数	四〇〇人 四〇校	一五〇〇人 一五〇校	一五〇〇人 一五〇校	一六〇〇人 一六〇校	五〇〇〇人 五〇校
----------------	-------------	---------------	---------------	---------------	--------------

医療施設

現在開業醫ノ所在地ヨリ三里以上ヲ隔テ且入植者百戸以上ニ達スル新開拓地ニ設置セントスル豫定ニシテ醫師三〇〇人及産婆一〇〇〇人ニ補助シテ開業セシムルト共ニ醫師配置箇所ニハ診療所ヲ建設ス

區分	昭和二十一年度	昭和二十二年度	昭和二十三年度	昭和二十四年度	計
診療所建設	四〇ヶ所	一五〇ヶ所	一五〇ヶ所	一六〇ヶ所	五〇〇ヶ所
醫師補助	五〇〇人	二〇〇〇人	三〇〇〇人	五〇〇〇人	
産婆補助	一〇〇〇人	四〇〇〇人	六八〇〇人	一、〇〇〇〇人	

(4) 世話指導施設

開拓入植者ノ土着心ヲ強固ナラシメ且速ニ起業ヲ確立セシムル爲

ニ良キ相談相手トナリ日常生活ノ百般ニ亘リ真ニ世話指導ヲ徹シ之ヲ誘掖スヘキ指導員ノ設置ヲ要スルヲ以テ世話指導員ニ千名ヲ配置スルト共ニ世話指導所ヲ建設セントス

區分	昭和二十一年度	昭和二十二年度	昭和二十三年度	昭和二十四年度	計
世話指導所建設	四〇棟	六五〇棟	六五〇棟	六六〇棟	二、〇〇〇棟
世話指導員配置	四〇〇人	六九〇人	一、三四〇人	二、〇〇〇人	

六、入植者受入協力団体助成

入植者ノ募集及宣傳並ニ入地ニ對スル斡旋ノ外入地後ノ生活指導ニ着手ニ関シ協力指導ノ衝ニ當ル関係団体ニ對シテ所要經費ノ一部ヲ助成ス其ノ団体名 北後道開拓協會、町村、道農業會、町村農業會、農事組合

七、營農資金利子補助

開拓入植者ノ住宅建設 農具種子肥料家畜等ノ購入其ノ他營農上

直接必要ナル施設ニ要スル經費ハ特ニ金融機関ヨリ貸付セシム
ルト共ニ之カ利子ヲ五箇年ニ亘リ補給セントス
要件

(一) 融通スヘキ貸付資金二十億円トシ一戸平均貸付金一〇、〇〇〇円
ノ二十万戸分ヲ豫定ス

區分	昭和二十一年度	昭和二十二年度	昭和二十三年度	昭和二十四年度	計
融通スヘキ金額	一六〇、〇〇〇、〇〇〇円	六〇〇、〇〇〇、〇〇〇円	六〇〇、〇〇〇、〇〇〇円	六四〇、〇〇〇、〇〇〇円	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
融通スヘキ戸数	一六、〇〇〇戸	六〇、〇〇〇戸	六〇、〇〇〇戸	六四、〇〇〇戸	二〇〇、〇〇〇戸

- (二) 利率 年利四分五厘
- (三) 償還期限 十五箇年 (据置期間五箇年ヲ含ム)
- (四) 利子補給ハ据置期間中トシ之カ補給金額ニ相當スル經費ハ豫
算外國庫負担ノ契約ニ依ルモノトス
- (五) 金融機関ニ對シテハ國ニ於テ損失補償ノ途ヲ講スルモノトス

都廳府縣臨時職員等設置制定員改定表

區分	現定		員計		增加定員		改正		員計	
	拓殖關係	其他關係	拓殖關係	其他關係	拓殖關係	其他關係	拓殖關係	其他關係	拓殖關係	其他關係
事務官	九人	一三人	二二人	五人	一三人	一三人	一三人	二二人	五人	
警視		六人	六人			六人	六人	六人		
技師	一〇一人	四人	一〇五人	二人	一三〇人	四人	一三四人	一〇一人	二人	
屬手	二五二人	一八七人	一六一二人	九七人	三四九人	一八七人	一八六四人	二五二人	七人	
警部	一七三人	一七人	一七人	一五五人	一三二八人	一七人	一三二八人	一七三人	七人	
小作官補		二人	二人			二人	二人			
森林主事	二〇六人		二〇六人		二〇六人		二〇六人	二〇六人		
河川監守	三六人		三六人		三六人		三六人	三六人		

(註) 開拓豫算ニ於テ事務官ノ定員增加五人ノ内一人ハ北海道廳官制改正ニ依リ

増員スベキ部長ノ定員ニ充ツルモノトス

昭和二十一年度北海道拓殖ニ関スル職員定員改定表

區分	現在定員	増加定員	改正定員	備考
海産拓殖産業費 勅任技師 事務官 技師 主任技師 事務官	八 一 一 八 三	一 一 一 一 一 一	九 二 二 九 五	
森林 主任技師 事務官 技師 主任技師 事務官	二 〇 一 二 〇 六	一 三 九 一 三 九	一 一 三 四 一 〇 八	
開(内) 勅任技師 事務官 技師 主任技師 事務官	七 三 二 三 二	一 二 七 三 二	一 九 六 五 五 一	増加定員内一人、開拓部長三〇〇
技師 主任技師 事務官 技師 主任技師 事務官	三 一 四 〇 一	一 七 四 五 〇 三	四 二 三 二 二	

區分	現在定員	増加定員	改正定員	備考
生 主任技師 事務官 技師 主任技師 事務官	二 〇 六 一 〇 〇	二 〇 六 一 〇 〇	二 〇 六 一 〇 〇	
森 主任技師 事務官 技師 主任技師 事務官	三 一 八 〇 〇 二	一 七 四 五 〇 三	四 二 三 二 二	
土 主任技師 事務官 技師 主任技師 事務官	一 七 四 五 〇 三	一 七 四 五 〇 三	一 七 四 五 〇 三	
地 主任技師 事務官 技師 主任技師 事務官	三 一 四 〇 一	一 七 四 五 〇 三	四 二 三 二 二	

合					北海道拓殖土木費				
河川	森林	技師	属手	事官	河川	技師	属手	事官	技師
三六	二〇	一七	二五	九二	三六	一七	五八	一六	一一
		一五	九二	五二		一六	〇三	一一	
三六	二〇	三三	三四	一七	三六	一九	六一	一九	一一
									一四

區分	土 地 改 良 部	土 木 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課	道 路 技 術 師 官 課
一															
二															
三															
計															
備															
考															

區分	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課	企 業 課
一															
二															
三															
計															
備															
考															

昭和二十一年度開拓關係部課定員改定表

增加定員一人(開拓部)

技手	属技手	事務官	勸任技師	合計	属
一八三	五二	一一	二一	七	
一〇五	四六	一	二一		
二八八	九八	一	四一	七	
一五五	九七	二	八五	九	
一八三	五二	一一	二一	七	
二六〇	一四三	二八	七二	九	
四四三	一九五	三九	九二	一六	

昭和三十一年度開拓関係定員事業別内譯

區分	勅任技師	事務官	技師	屬	技手	摘
土地調查分	1		2	2	3	38 事業分量 5000 所 技手 1 人 能率 10000 所
土地調查			1	1	1	屬 本廳 6 人 支廳 10 人
土地慶分			1	1	1	屬 本廳 2 人 支廳 10 人
庶務會計			1	1	1	
計			2	2	3	
在末人員			1	1	1	
新規人員			1	1	1	
計			2	2	2	
有地買收處理						事業分量 10000 所 1 人能率 10000 所
新規						
直轄開墾			1	1	1	50 事業分量 5000 所 技手 1 人能率 10000 所
補助開墾			1	1	1	6 事業分量 6000 所 技手 1 人能率 10000 所
庶務會計			1	1	1	本廳 3 人 支廳 7 人 現業所 10 人

區分	勅任技師	事務官	技師	屬	技手	摘
用水施設			3	3	4	2500 事業分量 2500 所 技手 1 人能率 10000 所
設計調査			1	1	1	2500 事業分量 2500 所 技手 1 人能率 10000 所
庶務會計			1	1	1	2500 事業分量 2500 所 技手 1 人能率 10000 所
計			3	3	4	
(新規)						
在末人員			1	1	1	
新規人員			1	1	1	
計			2	2	2	
入植者受入施設						16 技手 本廳 2 人 支廳 10 人
宿舍施設						16 技手 本廳 2 人 支廳 10 人
教育施設						
診療所建設						
世帯指導所建設						

世話指導		農事指導		補助事務及業務會計		豫算編成經理		在来人員		新規人員		管農資金貸付 (新規)		土地改良施設	
計															
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

備補

土地改良施設

土地改良施設
排水工事
客土工事
酸性土壤矯正
豫算編成經理
業務會計

區分		在来人員		新規人員		道路施設		幹線道路新設		支線道路新設		既成道路改良		豫算編成經理		業務會計		在来人員		新規人員		合計	

事務官増員五人内一人は開拓部長ニ充ツルモノトス

本廳 四人 現業所 一人

一四事業分量 二里 技手 一人 能年 一里 五

一九事業分量 七五里 技手 一人 能年 四里

一三事業分量 二五里 技手 一人 能年 二里

屬
技手
本廳 二人 支廳 一人
本廳 二人 支廳 一人
本廳 二人 支廳 一人
本廳 二人 支廳 一人

昭和三年度北海道拓殖ニ関スル經費追加豫算書

科		目		金額		摘要	
		般費		三五、三四九、〇〇〇			
		北海道拓殖産業費		一九四、四七二、〇〇〇			
		俸給		三〇、七二〇			
		勅任俸給		四九二			
		奏任俸給		七八、八四〇			
		技師		一人			
		内課					
		區		分人員		下年額金	
		事務官		一人		九、八四〇	
		甲		一人		三、三六〇	
		乙		三人		六、四八〇	
		技師		一人		六、九〇〇	
		計		二人		七、八四〇	

科		目		金額		摘要	
		判任俸給		二二六、九六〇			
		賞與		一〇、八三五九			
		旅給		六、七四二			
		費與		三、九四八			
		區		分人員		下年額金	
		勅任		一人		一、二〇〇	
		奏任		二人		七、七〇〇	
		判任		三人		二〇、八八〇	
		雇員		三人		一〇、八四〇	
		計		七人		三三、六六〇	
		區		分人員		下年額金	
		屬		八人		八三、五二〇	
		技師		一人		一三、三四〇	
		手		二人		三、六九六	
		計		九人		一〇〇、五五六	

事務費		給與		科
費		與		目
一〇四五、一七九		七〇、三〇二		金
一二三、〇四〇				額
普通廳費	区内課	慰勞金	区内課	臨時人夫
人員	人員	一人	一人	一人
二年額	二年額	二年額	二年額	二年額
九〇	二四、〇〇〇	三三、〇〇〇	二四、〇〇〇	三〇、〇〇〇
二二、〇〇〇	二四、〇〇〇	九六、〇〇〇	二四、〇〇〇	七、一〇〇
二二、〇〇〇	二四、〇〇〇	三六、七〇二	二四、〇〇〇	三〇、〇〇〇
二二、〇〇〇	二四、〇〇〇	七〇、三〇二	二四、〇〇〇	七、一〇〇

僱人料		雇員給		科
七、一〇〇		八、二四〇		目
				金
				額
小給	区内課	技術新	区内課	臨時人夫
夫使仕	人員	一人	一人	一人
二年額	二年額	二年額	二年額	二年額
三〇、三七〇	七二	七二〇	六〇〇	三〇、〇〇〇
七二〇	七二〇	七二〇	六〇〇	七、一〇〇
二一、六〇〇	八、二四〇	五、八四〇	二九、四〇〇	三〇、〇〇〇
二一、六〇〇	八、二四〇	五、八四〇	二九、四〇〇	七、一〇〇

被服費		各科新登費	
1	二〇九四		八三〇〇〇
特別聴費	一〇〇,〇〇〇	甲官廳	五〇〇,〇〇〇
計	一三三,〇四〇	乙	三三〇,〇〇〇
		丙	六〇,〇〇〇
		計	九〇〇,〇〇〇
区内	人員	区内	人員
給仕料	三四人	給仕料	三四人
小使被服	二七人	小使被服	二七人
計	九一人	計	九一人
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七

雜業費		各科新登費	
1	九一〇四五		八三〇〇〇
計	一九二四〇、四〇〇		八三〇〇〇
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七
区内	人員	区内	人員
給仕料	二五	給仕料	二五
小使被服	二	小使被服	二
計	二七	計	二七

依ルモトス
依ルモトス
依ルモトス

料
目
金
額

料目	金額	區	摘要
土地改良施設費	七三、四六六	測量	
明渠排水工事費	三八、六三三	測量	
測量	一〇、一三五	測量	
幹線排水	五五、〇〇〇	測量	
支線排水	一六、二五五	測量	
支線排水	三〇、八七五	測量	
工	二七、三四五	測量	
幹線排水	三九、九〇〇	測量	
支線排水	七六、八〇〇	測量	
支線排水	一五、五七〇	測量	
雜費	八〇、三三五	測量	
客土工事費	四六、六八〇	測量	
測量調查	五九、五〇〇	測量	
軌道客土	二七、六八〇	測量	
普通客土	一七、七八六	測量	

開墾費	一〇三、〇〇〇	測量	
開墾事業費	一〇〇、〇〇〇	測量	
雜費	三、〇〇〇	測量	
用水施設費	六八、〇〇〇	測量	
工	六〇、〇〇〇	測量	
雜費	一八、〇〇〇	測量	
種植者受入施設費	一〇、三五八	測量	
宿舍施設	五、〇〇〇	測量	
共同居小屋建設	五、〇〇〇	測量	
假宿泊所施設	二〇、〇〇〇	測量	
教育施設	二八、〇〇〇	測量	
醫療施設	一四、八〇〇	測量	
診療所建設	一、三八四	測量	
世話指導	一〇、八〇〇	測量	
世話指導建設	三、四〇〇	測量	
世話指導資給料	二〇、〇〇〇	測量	
世話指導資給料	五、〇〇〇	測量	

賞與		給與		旅費		賞與		給與		旅費		賞與		給與		旅費		科	目	金額	
一三、七四〇		一三、一八八		五七、四八〇		一六、八〇〇															
區		區		區		區		區		區		區		區		區		區		區	
技		技		技		技		技		技		技		技		技		技		技	
手		手		手		手		手		手		手		手		手		手		手	
分		分		分		分		分		分		分		分		分		分		分	
人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員	
額		額		額		額		額		額		額		額		額		額		額	
要		要		要		要		要		要		要		要		要		要		要	
額		額		額		額		額		額		額		額		額		額		額	
一、三、七四〇		一、三、一八八		五七、四八〇		一六、八〇〇															
一、三、七四〇		一、三、一八八		五七、四八〇		一六、八〇〇															
一、三、七四〇		一、三、一八八		五七、四八〇		一六、八〇〇															
一、三、七四〇		一、三、一八八		五七、四八〇		一六、八〇〇															
一、三、七四〇		一、三、一八八		五七、四八〇		一六、八〇〇															

判任俸給		給與		旅費		賞與		給與		旅費		賞與		給與		旅費		賞與		給與	
二四、九六〇		一〇、四四〇		三五、四〇〇		四七、五四五、〇〇〇															
區		區		區		區		區		區		區		區		區		區		區	
技		技		技		技		技		技		技		技		技		技		技	
手		手		手		手		手		手		手		手		手		手		手	
分		分		分		分		分		分		分		分		分		分		分	
人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員		人員	
額		額		額		額		額		額		額		額		額		額		額	
要		要		要		要		要		要		要		要		要		要		要	
額		額		額		額		額		額		額		額		額		額		額	
二四、九六〇		一〇、四四〇		三五、四〇〇		四七、五四五、〇〇〇															
二四、九六〇		一〇、四四〇		三五、四〇〇		四七、五四五、〇〇〇															
二四、九六〇		一〇、四四〇		三五、四〇〇		四七、五四五、〇〇〇															
二四、九六〇		一〇、四四〇		三五、四〇〇		四七、五四五、〇〇〇															
二四、九六〇		一〇、四四〇		三五、四〇〇		四七、五四五、〇〇〇															

各科		科目		金額		摘要	
各所新營費		被服費		聽費			
一五、〇〇〇		五〇二		一三、七〇〇			
内譯	計	内譯	計	内譯	計	内譯	計
	給仕靴料	區分人員	普通聽費	區分人員	特殊聽費	區分人員	普通聽費
	六六	六	三〇	三	九	三	三〇
	二〇	二	二〇	二	二〇	二	二〇
三〇	三	三〇	三	三〇	三	三〇	
五〇二	五〇二	一三、七〇〇	一三、七〇〇	一三、七〇〇	一三、七〇〇	一三、七〇〇	一三、七〇〇

事務		備人料		金額		摘要	
費與		料		額			
一七四、八六八		二六、三〇〇		一〇、五四八			
内譯	計	内譯	計	内譯	計	内譯	計
	給仕靴料	區分人員	臨時人夫	區分人員	定人夫	區分人員	臨時人夫
	六六	六	二〇	二	二〇	二	二〇
	二〇	二	七二〇	七	二〇	二	二〇
二六、三六〇	二六、三六〇	二六、三〇〇	二六、三〇〇	二六、三〇〇	二六、三〇〇	二六、三〇〇	二六、三〇〇

科目		金額
拓殖補助 開港補助		一六、三三六、〇〇〇 一六、三三二、〇〇〇
區	摘	金額
区内課	幹線新設 支線新設 改良工事費 測量 工費 雜費	二、〇〇〇、〇〇〇 四、九六〇、〇〇〇 一、〇九六、〇〇〇 九、二四二、〇〇〇 四、七五〇、〇〇〇 八、八〇〇、〇〇〇 三、五五〇、〇〇〇
区内課	開港費補助 警察施設費補助	二、〇〇〇、〇〇〇 一、九二〇、〇〇〇
数量	數量	金額
六、〇〇〇	五、五	二、〇〇〇、〇〇〇
二、〇〇〇	五、五	一、〇九六、〇〇〇
一、〇〇〇	五、五	九、二四二、〇〇〇
一、〇〇〇	五、五	四、七五〇、〇〇〇
一、〇〇〇	五、五	八、八〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇	五、五	三、五五〇、〇〇〇

科目		金額
雜業費		二、六六六、〇〇〇 四、三三〇、八〇〇
區	摘	金額
区内課	道路工事費 新設工事費 測量 幹線新設 支線新設 工費	四、七二〇、八〇〇 三、八九六、六〇〇 一、七〇〇、〇〇〇 三、九〇〇、〇〇〇 四、八〇〇、〇〇〇 三、八九六、〇〇〇
区内課	官廳 乙舎 丙舎 計	六、〇〇〇、〇〇〇 九、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇、〇〇〇 一、五〇〇、〇〇〇
数量	數量	金額
二、〇〇〇	二、〇〇〇	四、七二〇、八〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、八九六、六〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、九〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、八九六、〇〇〇

計	産婆補助	醫師補助	入植者受入関係補助	農林部管掌補助	北海道開拓協会補助
	一〇〇	五〇	七〇	一	七〇
	七三〇	二四〇〇			
一六三三、〇〇〇	七六、〇〇〇	二二、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	四〇、〇〇〇

六、〇〇〇、〇〇〇
 六、〇〇〇、〇〇〇
 六、〇〇〇、〇〇〇
 六、〇〇〇、〇〇〇
 六、〇〇〇、〇〇〇
 六、〇〇〇、〇〇〇

豫算外國庫ノ負担トナルヘキ契約ニ関スル件

營農資金利子補給

一 北海道開拓集團入植者ノ入地後直接營農上必要ナル諸施設ニ要スル資金借入ニ對スル利子ノ補給ハ昭和二十一年度以辭五箇年間ニ亘リ支出ノ要アルヲ以テ豫メ之カ經費ノ支出ニ関シ豫算外國庫負担ノ契約ヲ締結スルヲ要ス

昭和	年度	利子補給額	摘要
二一	二一	三六〇、〇〇〇	一 昭和二十一年度借入資金 一六〇、〇〇〇、〇〇〇円 (一戸一〇、〇〇〇円ノ六、〇〇〇戸)
二二	二二	七、二〇〇、〇〇〇	一 年利率 四分五厘
二三	二三	七、二〇〇、〇〇〇	一 償還期限 五箇年据置十五箇年償還
二四	二四	七、二〇〇、〇〇〇	一 利子補給 据置期間中利子ノ補給ヲ爲シ
二五	二五	七、二〇〇、〇〇〇	
二六	二六	三、四〇〇、〇〇〇	
計			

戦復令第二一八號

昭和廿一年四月四日

戦災復興院次



内務大臣官廳

地方官官制等改正方ニ關スル件

戦災地ノ復興事業ニ従事スベキ地方職員ノ設置ヲ要スルヲ以テ標記ノ件別表ニ依リ改正方御取計相成度

337

池村

戦災復興院

裏面白紙

地發乙第一八三號

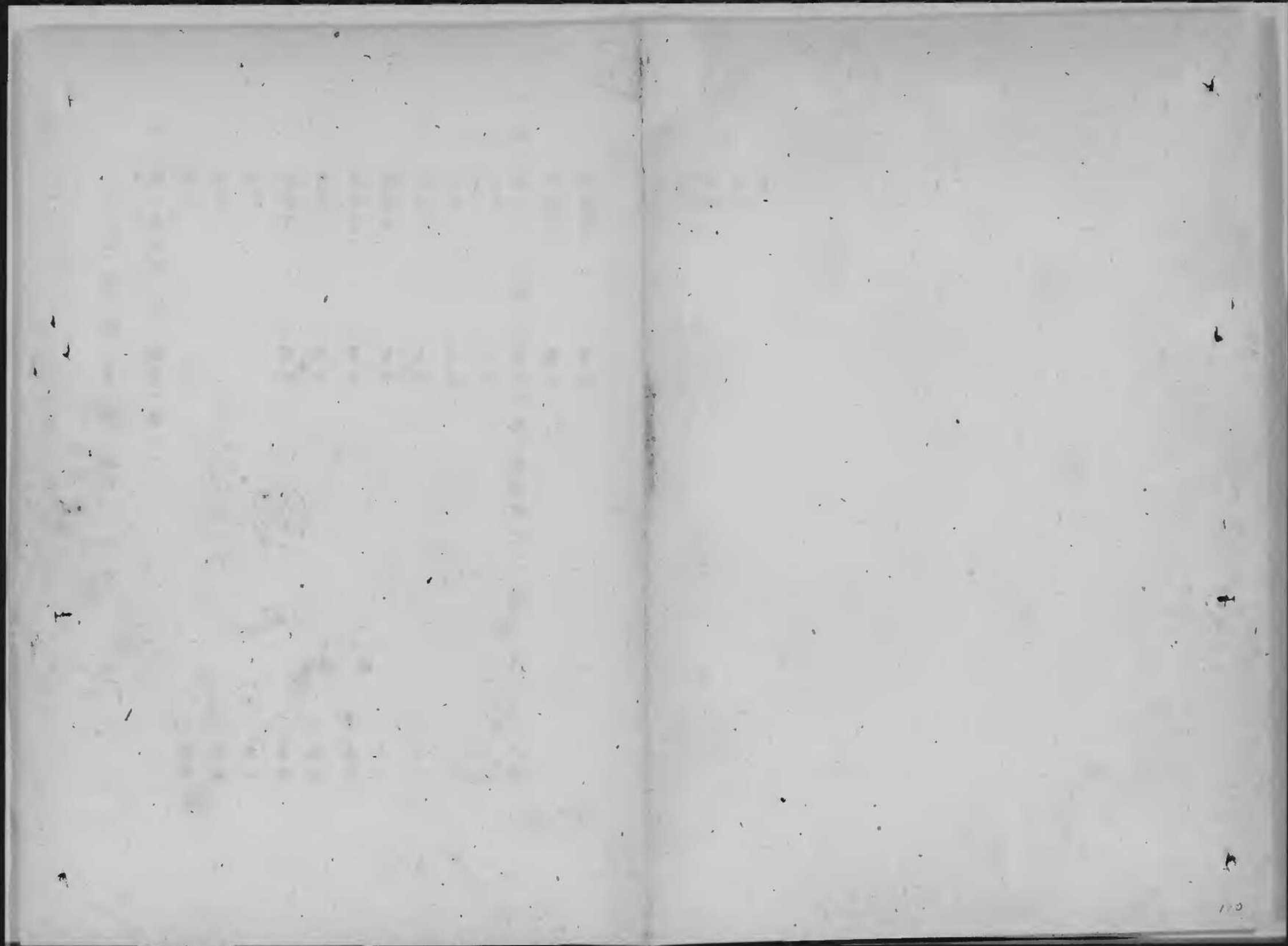
昭和二十一年四月十三日

人事課長 殿
内務省地方局長

北海道廳官制等改正ニ関スル件

昭和二十年十月九日閣議決定ヲ緊急開拓事業実施要領ニ基テ北海道開拓予算決定ニ伴ヒ開拓部、設置並ニ関係職員増員、要アルニ爲北海道廳官制及都廳府縣臨時職員等設置制別冊、通改正方北海道廳長官ヨリ稟請有之候條至急御取計相成度候

裏面白紙



第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號
受	受	受	受	受	受	受	受
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日



昭和二十年四月十八日
 付
 号
 月
 日
 月
 日
 日

法判
 日文書
 長
 行
 月
 日
 日

大臣

次官

人事課長

主任事務官

委員

乙二二〇三
 今
 乙二二三〇
 へ

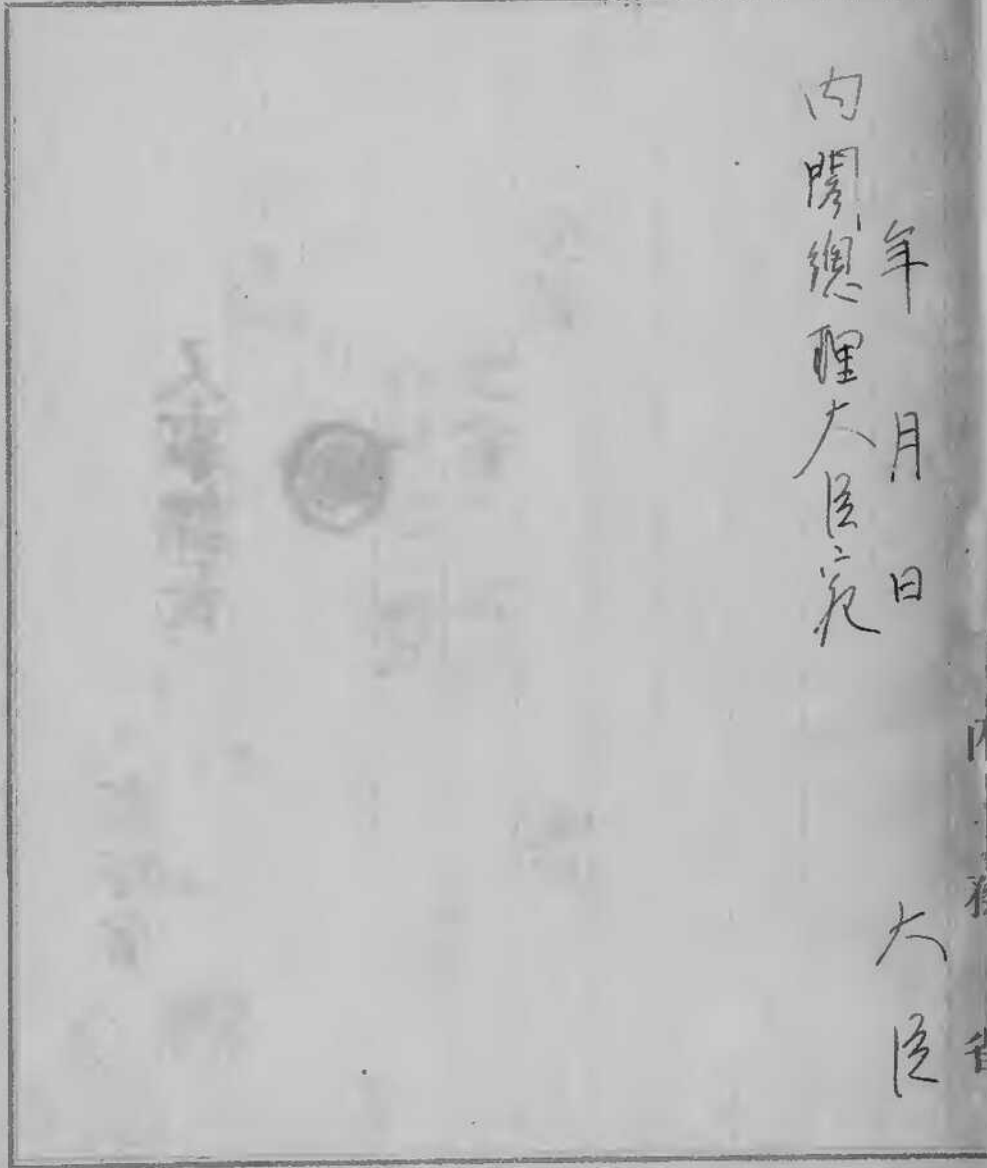
東京
 別
 右
 閣
 議
 ヲ
 請
 出
 久
 要
 あり

裏面あり

日
 第 第 第
 號 號 號
 送 送 送
 月 月 月
 日 日 日

内閣總理大臣
 年 月 日

大臣



朕東京市官制中改正案一件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セム

市 名 市 廳

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

勅令第 号 第 号

大日本帝國政府

第一條 東京市官制中左ノ通り改正ス

第一條ノ二中「專任四百九十五人以内」ヲ「專任四
百九十三人以内」ニ改ム

第二條 地方官官制中左ノ通り改正ス

第二條中「專任四千三百二十七人以内」ヲ「專任
四千三百三十八人以内」ニ「專任二萬六千六百三
十四人以内」ヲ「二萬六千六百四十五人以内」ニ改ム

第三條 勅諭行時其臨時職員其數是別中

左ノ通改止又

第一條甲 專任二十七人 乙 專任二十八人 丙

專任二百九十九人 乙 專任二百九十四人 丙 改

△

第一條ノ三中 專任三十九人 乙 專任三十九人

二、 專任二百九十九人 乙 專任二百九十九人

大日本帝國政府

二人 乙 改 △

第一條ノ四第一中 專任二百九十九人 乙 專任

二百九十九人 乙 專任二百九十九人 乙 專任二百九十九人

百九十九人 乙 改 △

第四條 左ニ掲ケル勅令中 其等又官 乙 一併又八二

級ノ官吏 乙 改 △

土地收用法施行令

明治三十三年勅令第百一號

明治三十三年勅令第百二號

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大日本帝國政府

理由

聯合國軍ノ進駐ニ伴ヒ郡道村縣ノ事務繁雜ノ状況
 ニ鑑ミ之ノ圓滑ナル處理ヲ期スル為メ地方事務官ニ依リテ
 二十人ニ依リテ者百人ヲ増員シ又青果物ノ出荷配給統制
 ノ圓滑ナル處理ヲ圖ル為メ大都市所在郡村縣等ニ地方
 技官ニ依リテ者十人ニ依リテ者十人ヲ増員スルト官吏任用分令
 施行ニ伴ヒ之ニ依リテ用法施行令等中改正ノ要マルニ依ル

東京都官制

第一條 東京都ニ左ノ職員ヲ置ク

昭和十八年六月十九日
勅令第百四號

長官

一人

次長

一人

局長

一人

秘書官

一人

地方事務官

一人

地方技官

一人

專任

一人

地方事務官

一人

地方技官

一人

專任

一人

地方事務官

一人

地方技官

一人

專任

一人

地方事務官

一人

地方技官

一人

專任

一人

地方事務官

一人

地方技官

一人

地方官官制

第一條 府縣ニハ通ジテ

大正十五年六月四日
勅令第百四十七號

知事

部長

地方事務官

專任

專任

地方技官

專任

專任

第二條 前條ノ職員ヲ置クコトヲ得

府縣ニ於テ

地方事務官

人

人

人

人

二級
三級

二級
三級

二級
三級

二級
三級

地方技官 專任 二級

地方事務官 專任 二級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

地方事務官 專任 三級

都廳府縣等臨時職員等設置制

昭和二年八月二十九日
勅令第三百八十五號

第一條 東京都二丘ノ職員ヲ置ク 二級

地方事務官 二級

專任 二十一人

地方技官 二級

專任 七人

地方事務官又ハ地方技官 二級

專任 女百九十四人

第一條ノ二 警視廳二丘ノ職員ヲ置ク 三級

地方事務官 二級

專任 一人

地方技官 二級

專任 一人

地方事務官又ハ地方技官 三級

專任 一人

警視 一人

警部 一人

第一條ノ三 北海道廳二丘ノ職員ヲ置ク

地方事務官 二級

專任 三十五人

地方技官 二級

專任 百三十七人

地方事務官又ハ地方技官 二級

專任 二百七十九人

警視 一人

警部 一人

第一條ノ四 府縣ニ通シテ在リ職員ヲ置

地方事務官

専任 二百三十人

二級

地方技官

専任 百六十四人

二級

地方事務官

専任 五十四人

警視

警部

人

前項職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣
之ヲ定ム

裏面白紙

大日本帝國政府

土地收用法施行令

明治三十三年
改正昭和二年勅令第七三三號
勅令 第七三三號

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ニル所ニ依ル
高等文官ニ非サル委員ハ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制才
九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル條
明治三十三年 勅令 才一〇一號

第十四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ都府縣ノ負擔スルキ
モノノ中高等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬都府縣ノ
負擔トシ其ノ他ハ關係都府縣ノ負担トス

裏面白紙

大日本帝國政府

土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ニ伴フ

明治三十三年勅令第一〇二號

第二條 收用審査會ノ費用ハ收用審査會會長及高等文
官ニシテ本官員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ヲ經費ヨリ以テ之
ニ支辨ス

裏面白紙

仙臺、山形、秋田、岩手、青森、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、徳島、香川、高松、愛媛、高知、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

秘食第 二九

昭和十一年四月十三日

農林大臣官房秘書



内務大臣官房人事課長 殿

百未初ノ出請配補就訓ノ調習ナル是管ヲ圖ル爲得ニ大市市所出都府
縣及六市市ニ近接スル特種縣ニ對シ左記ノ通等區職員（二分ノ一補助
職員ノ必要者之缺額至ニ地方官官制中改正ノ上條員配當方調取計相
反此段及改制候也

記

地方官 (二級) (三級)

六人 一人

（手記）
（手記）
（手記）

農 商 官

102

裏面白紙

以下別紙

要求理由

青果物ノ出荷配給既由ノ關係ナル處ニハ萬方應ノ活動緊
要ナルヲ以テ特ニ青果物需者ノ増進ニシテ且ツ秩序アル出荷最モ困
難ナル六大都市所在都府縣ニ地方事務目又ハ夜間ヲ大都市ニ近接ス
ル産地ノ特産縣ニ至テハ夜間ヲ自ラシメ青果物ノ出荷並ニ需者ノ
調整ニ關スル指針等勸ニ請ラシメントス

農 商 省

裏面白紙

合計	地方名																			
	沖鹿宮大熊長佐福高愛香德山廣岡鳥島和奈兵大京滋三愛	兒	總島崎分本崎賀岡知媛川島口島由根取山良庫阪都賀重知	歌	靜岐長山福石富新神東千崎郡栃茨福山秋宮岩青北	海	道	岡阜野梨井川山湯川京業玉馬木城島形田城手森	道											



管米物出何七新... 農務省 農務局 庶務課 庶務係

食糧管理局

(昭和二十一年度追加豫算)

一 青果物出荷配給統制施設ニ要スル経費

食料局

区分	臨時部	一般	莫	(項)臨時諸要費	俸給	奏任俸給	農林事務官	農林技師	判任俸給	農林属	農林技手
数量						一	三	一			五
單價						二〇〇	三〇〇	一〇〇			一〇〇
金額				一七四	一〇〇	二〇〇	九〇〇	六〇〇			五〇〇
備考											

区分	賞與	諸給與	内國旅費	判任	兼官奉仕	兼官判任	産員給	事務産	技術産	嘱託手當	俸人料
数量		八	六	六	六	一		一	五	一	
單價		二〇〇	六〇〇	四〇〇	三〇〇	三〇〇		六〇〇	七〇〇	一〇〇	
金額		一六〇〇	三六〇〇	二四〇〇	一八〇〇	三〇〇		六〇〇	三五〇〇	一〇〇	
備考											

給仕	小使	事務費	慶費	人員三位慶費	特別慶費	備西費	圖書印刷費	筆紙文具費	前在留費	高津出費	宿帳費
1	1			1							
300	400			110							
300	400			110							
300	400			110							

區	小使	給仕	給仕飲料	雜費	雜費
1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1

區分	區分	區分	區分	區分	區分	區分
區分	區分	區分	區分	區分	區分	區分
區分	區分	區分	區分	區分	區分	區分
區分	區分	區分	區分	區分	區分	區分
區分	區分	區分	區分	區分	區分	區分

區	小使	給仕	給仕飲料	雜費	雜費
1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1

<p>(三) 諸給費 一五、四、八〇〇 円 正金 一、八〇〇 円 金類 七、三〇〇 円 八、二八〇 円 一、五四八 円</p>		<p>(四) 協賛會費 一〇、二〇〇 円 正金 一、〇〇〇 円 金類 三、〇〇〇 円 三、〇〇〇 円</p>		<p>(五) 道信印刷費 六、〇〇〇 円 正金 一、〇〇〇 円 金類 一、四〇〇 円 一、三二〇 円 三、三〇〇 円</p>		<p>(六) 消在品費 二二、八〇〇 円 正金 二、〇〇〇 円 金類 二二、八〇〇 円</p>		<p>(七) 事務折費 一六、八〇〇 円 支所平均 二、四〇〇 円 支所分 一六、八〇〇 円</p>		<p>(八) 雜費 二四、〇〇〇 円 正金 四、〇〇〇 円 金類 二〇、〇〇〇 円</p>	
<p>備 大 五〇〇 支 三〇〇 大 一〇〇 柳 四〇〇 九州 六〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>		

<p>(三) 諸給費 一五、四、八〇〇 円 正金 一、八〇〇 円 金類 七、三〇〇 円 八、二八〇 円 一、五四八 円</p>		<p>(四) 協賛會費 一〇、二〇〇 円 正金 一、〇〇〇 円 金類 三、〇〇〇 円 三、〇〇〇 円</p>		<p>(五) 道信印刷費 六、〇〇〇 円 正金 一、〇〇〇 円 金類 一、四〇〇 円 一、三二〇 円 三、三〇〇 円</p>		<p>(六) 消在品費 二二、八〇〇 円 正金 二、〇〇〇 円 金類 二二、八〇〇 円</p>		<p>(七) 事務折費 一六、八〇〇 円 支所平均 二、四〇〇 円 支所分 一六、八〇〇 円</p>		<p>(八) 雜費 二四、〇〇〇 円 正金 四、〇〇〇 円 金類 二〇、〇〇〇 円</p>	
<p>備 大 五〇〇 支 三〇〇 大 一〇〇 柳 四〇〇 九州 六〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>	<p>大 六、〇〇〇 支 三、三〇〇 大 一、三二〇 柳 四、八〇〇 九州 七、二〇〇 計 八、〇〇〇</p>		

諸百七拾五元	地方公共団体補助	俸給補助金	奏任	列任	鳴托	事務費補助金	列任	奏任	出納所費
一五〇、〇〇〇	三三、二一〇	六二、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	九〇〇	二八〇、〇〇〇	一、八〇〇	二、二〇〇	四、六〇〇
四八七、〇〇〇	三、四一、一〇〇	六二、一〇〇	一〇〇	九〇〇	四一、四〇〇	一、八〇〇	二、二〇〇	二七六、〇〇〇	
合計									
三、〇〇〇									
二四、〇〇〇									
八〇、〇〇〇 円									

事務費又投一人手費六、〇〇〇円、二分一補助一人分六人分
馬又投一人手費六、〇〇〇円、二分一補助一人分
一人手費八、〇〇〇円、二分一補助四一人分

事務費又投一人手費六、〇〇〇円、二分一補助六人分
又投一人手費四、〇〇〇円、二分一補助一人分
一部は六縣當六、〇〇〇円金庫補助四元都道府縣分

夏五回河甚花補助	區	分	数	量	額	金	額	商
地方公共団体補助						四、五二八、八〇〇	四、一七七、八〇〇	(イ) 地方農業會本部
地方公共団体補助								一部は三府縣農會本部補助金五、八〇〇円
								正今更級更級金渡補助金補助金
								投手 一 三、三〇〇 三、三〇〇 二分一
								投手 二 一、八〇〇 一、八〇〇 二分一
								旅費
								投手 一 八〇〇 八〇〇 二分一
								投手 二 六〇〇 六〇〇 二分一
								通算計支
								日一〇〇 一、二〇〇 二分一
								全額 一、〇〇〇
								計 五、八〇〇
								四ノ都道府縣分 二、六八、八〇〇円
								(ロ) 地方農業會本部
								一農業會本部補助金 二、八五〇円
								正今更級更級金渡補助金補助金
								俸給 一 一、八〇〇 一、八〇〇 二分一
								投手 一 一、八〇〇 一、八〇〇 二分一
								出納所費
								一、二〇〇 全額 一、二〇〇
								通算計支
								七、五〇 全額 七、五〇

夏五回河甚花補助	區	分	数	量	額	金	額	商
地方公共団体補助						四、五二八、八〇〇	四、一七七、八〇〇	(イ) 地方農業會本部
地方公共団体補助								一部は三府縣農會本部補助金五、八〇〇円
								正今更級更級金渡補助金補助金
								投手 一 三、三〇〇 三、三〇〇 二分一
								投手 二 一、八〇〇 一、八〇〇 二分一
								旅費
								投手 一 八〇〇 八〇〇 二分一
								投手 二 六〇〇 六〇〇 二分一
								通算計支
								日一〇〇 一、二〇〇 二分一
								全額 一、〇〇〇
								計 五、八〇〇
								四ノ都道府縣分 二、六八、八〇〇円
								(ロ) 地方農業會本部
								一農業會本部補助金 二、八五〇円
								正今更級更級金渡補助金補助金
								俸給 一 一、八〇〇 一、八〇〇 二分一
								投手 一 一、八〇〇 一、八〇〇 二分一
								出納所費
								一、二〇〇 全額 一、二〇〇
								通算計支
								七、五〇 全額 七、五〇

町村出向団体
勤労進捗補助金

労働貯蓄補助金
物資調製補助
歳末福袋奉還補助
補助金

二五五,二〇〇

一三八,二三五

計 一三二,六二五
全額 八〇〇,七〇〇
補助金合計 一九七,八〇〇

一 国体等補助金 二,一〇〇
二 労働貯蓄補助金 九〇〇
三 物資調製補助金 二〇〇
四 歳末福袋奉還補助金 一,一〇〇
五 勤労進捗補助金 一,一〇〇
六 団体金 二,五五二,〇〇〇

(一) 六大都市地域及関東北九州地域
四月(三十分金) 五四四,五〇〇
五月(三十分金) 七五〇,〇〇〇
計 八,五五二,〇〇〇
(二) 中小都市地域
四月(三十分金) 一七,八二〇,〇〇〇
五月(三十分金) 一四,七二〇,〇〇〇
計 八,五五二,〇〇〇

計 八,七二〇,〇〇〇
補助金計 一六八,二三五,〇〇〇

要政要聞

野米物ニ付テハ終戦後ノ新米志ニ即應ツテ穀類騰貴ノ甚世豫見ナル所
 動ヲ可能ナラシメ以テ在座及諸地ノ國貨ナル促進ヲ圖ルコトトシ
 期及公定價格ハ昨年十一月二十日ヨリ之ヲ撤消セリ 然ルニ米ノ後ノ諸
 物勢ハ米類ノ騰貴ノ影響ハ今口俄ニ相替シ得難ク秩序ナル取引
 市場ハ米類ノ騰貴ノ影響ノ不利因以價格ノ暴落ヲ來シ我國經濟秩序ヲ混
 亂セシメタリ

新米騰貴ノ起立ニ即應ツテ米價ニ付テハ口荷騰貴ノ影響ニ價格ノ安
 走ヲ圖リ我國經濟ノ再興ニ資セントス

此ノ有米物騰貴ノ起立ニ即應ツテ米價ニ付テハ口荷騰貴ノ影響ニ價格ノ安
 走ヲ圖リ我國經濟ノ再興ニ資セントス

シテ補給費ヲ交付シ蔬菜運賃騰貴ヲ抑制セルガ別費キ五月迄本正成ニ於
 ナモ本通商ラ實施セントス

一、職員給分増表

等	項	課	官	以	師	技	手	計
一	育米物ノ由荷記給統制 計費獨立ニ關スル事務				二		三	六
二	育米物ノ由荷個體ノ整 備強化ニ關スル事務				一		二	四
計				三	一		五	一〇

一、補助金自費増分表

種	種	補助金	課	官	以	師	技	手	計
地方公共團體共 他補助金	八一九九二〇〇	都道府縣	一分全額	四八〇〇〇〇〇	二四七〇〇	三三〇〇〇〇〇			三三〇〇〇〇〇
地方公共團體補助	三六六八〇〇	都道府縣	一分三分ノ一	三三三〇〇〇	二四七〇〇				三三三〇〇〇
農林漁業其他補助	六八二二〇〇〇	都道府縣	一分全額	四三二八八〇〇	二四七〇〇				四三二八八〇〇
地方育米物由荷 施設補助金	二七二八〇〇〇	都道府縣	一分全額	一七七八八〇〇					一七七八八〇〇
町村由荷由荷 施設補助金	五一〇〇〇〇〇	都道府縣	一分ノ一	三三五三〇〇〇					三三五三〇〇〇
物資調整補助									
農林漁業實地費 補助金	三二、四五〇〇〇〇	都道府縣	補助金 大補助金 中補助金 小補助金 五月 四月 三月 二月	一六八三三〇〇〇					一六八三三〇〇〇
合計	三二、六六六、九三〇〇			一、七三〇、四二〇、〇〇〇	二、四七、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇			三、三〇〇、〇〇〇

一、二、説明参考書

要旨訂義

(一) 調査週報及配給統制委託

三、安青果物ニ付テハ青果物ニ出ルル品目ニ基キ全農務委員會ヲシテ大消費地ニ到スル各産地ヨリノ出荷計額ヲ算立セシメ各産地ヨリ計額内荷ヲ爲サシムルコトトスルモ青果物ハ天候ニ依リ生産量ニ出荷ニ大ナル変動ヲ来スコトトシメテ多キヲ以テ全農務委員會ニ委託シ六大都市等大消費地ニ於ケル青果物ノ需給状況關係産地ノ生産状況等ヲ常時調査セシムルト共ニ大消費地ノ青果物ノ需給ノ調停ト出荷ノ調整ヲ圖ラントス

(二) 調査指導

青果物ハ其ノ性質上出荷及配給ノ困難甚メテ困難ナルニ出資資材ノ不足感送ノ不調等ニ依リ計額内出荷ノ進行甚々困難ナルモノアルヲ以テ出荷計費取ニ感送計費算立ノ指導内荷取ニ輸送ノ青果物ノ他青果物ノ出荷取給上必要ナル事項ニ付調査取ニ指導ヲ行ハントス

(三) 地方公共団體補助

青果物ノ出荷配給統制ノ調停ナル趣旨ヲ圖ル爲ニハ従ニ地方廳ノ活動案要ナルヲ以テ地方廳ニ助成シ青果物配給統制専任職員ヲ設置セシメ出荷取ノ整理及出荷促進等ニ配給ノ指導各助成ニ當ラシメントス

(四) 地方行政団體補助

都道府縣農會ニ助成シ其ノ本部ニ青果物出荷ニ關スル専任職員ヲ主安支那ニ出資職員ヲ設置セシメ都道府縣ニ於ケル青果物ノ出荷計費ノ減立取ニ之等ニ關スル資料ヲ調査蒐集セシメ更ニ出荷統制實施ニ當リアハ生産者及出荷者其ノ他關係方面ト隨時状況及出荷ニ關スル協議會ヲ開催シ市町村農會及出荷組合等ノ活動ノ促進計費出荷ノ督勵ヲ爲シ以テ青果物ノ調停ナル出荷統制ニ遺憾ナカラシメントス

(五) 町村出荷団體活動促進助成

青果物ノ強力ナル統制出荷ヲ爲サシメ以テ一般消費者ニ對スル供給ノ確保ヲシタル爲ニハ下部組織タル出荷團體ノ整備強化ヲ圖ルコト最モ重要ナルニ依リ特ニ蔬菜ノ主要産地ニ付テハ其ノ出荷調整ニ助成シ之ガ活動ヲ促進セントス

如 經 餘 諸 國 亦 有 細 記

六 天 部 諸 國 中 小 部 而 二 部 實 處 其 中 亦 量 之 其 後 諸 國 亦 有 諸 國 之 實 或 復 格 卜
謂 實 有 成 之 諸 國 格 卜 之 諸 國 也 其 後 諸 國 亦 有 諸 國 之 實 或 復 格 卜 之 諸 國 也
授 之 其 後 諸 國 亦 有 諸 國 之 實 或 復 格 卜 之 諸 國 也 其 後 諸 國 亦 有 諸 國 之 實 或 復 格 卜
ノ 心 同 本 部 諸 國 亦 有 諸 國 之 實 或 復 格 卜 之 諸 國 也 其 後 諸 國 亦 有 諸 國 之 實 或 復 格 卜

原 本 不 明 瞭

煤炭臨時廉賣施設地域別月別補助額

地域	数量	平均買電	金額	補助平均單價		補助金額
				補助平均單價	補助金額	
東京	四月	11.1	2,614,000.00	5.9	2,375,000.00	
	五月	11.0	2,750,000.00	5.9	1,825,000.00	
廣瀨	四月	10.8	1,410,000.00	5.9	1,501,000.00	
	五月	10.8	1,800,000.00	5.9	1,825,000.00	
名古屋	四月	10.4	1,000,000.00	5.9	1,140,000.00	
	五月	10.4	1,100,000.00	5.9	1,040,000.00	
京都	四月	10.4	1,400,000.00	5.9	1,400,000.00	
	五月	10.4	1,500,000.00	5.9	1,000,000.00	
大阪	四月	11.0	1,400,000.00	5.9	1,500,000.00	
	五月	10.9	1,500,000.00	5.9	1,400,000.00	

地域	数量	平均買電	金額	補助平均單價		補助金額
				補助平均單價	補助金額	
神戶	四月	10.4	1,400,000.00	5.9	1,001,000.00	
	五月	10.4	1,500,000.00	5.9	1,040,000.00	
關門及北九州	四月	10.5	1,540,000.00	5.9	1,400,000.00	
	五月	10.5	1,600,000.00	5.9	1,100,000.00	
小計	四月	10.4	1,400,000.00	5.9	1,400,000.00	
	五月	10.4	1,500,000.00	5.9	1,000,000.00	
中小計	四月	10.4	1,400,000.00	5.9	1,400,000.00	
	五月	10.4	1,500,000.00	5.9	1,000,000.00	
計	四月	10.4	1,400,000.00	5.9	1,400,000.00	
	五月	10.4	1,500,000.00	5.9	1,000,000.00	

地發乙第一八九號

昭和二十一年四月十五日

地方局

長



大臣官房人奉課長 殿

都府縣等臨時職員事務官制中改正ニ關スル件
今般聯合國軍備駐ニ伴ヒ職員左記ノ補給費等條規訂定官制中改
正方可然御取計相成所

二級事務官
三級事務官

記
二〇名
一〇〇名

内務別紙ノ通

内務省

規格其五

裏面白紙

一 配當標準

二級市務官

聯合軍進駐人数概不四〇〇人以上ノ府

縣ニ各一名宛

三級市務官

一〇〇〇人未満

二級市務官ヲ令ニ概不 二名

二〇〇〇人未満

二名

四〇〇〇人未満

三名

四〇〇〇人以上

五名

一 増置理由

聯合國軍ノ本邦内進駐ニ伴ヒ都道府縣廳ノ事務激増ノ狀況ニ鑑ミ之ニ必要ナル職員ヲ増置之該事務ノ圓滑處理ヲ期スルノ要ナルニ因ル

大日本帝國政府

聯合國軍近駐ニ伴フ經費

聯合國軍ノ本邦内ニ於ケル駐屯ニ伴フ所費ノ經費ハ日銀貳拾萬圓ヨリ別途支出セラレタル
 在道駐屯ニ因リ國及都道府縣廳自體ニ於ケル事務極メテ多量ナルノミナラス、中央官廳ト
 地方廳トノ相互連絡事項都道府縣廳管下市町村ノ督勵事項等甚ダ多ク之ノ關係事務ノ處
 理ニ要スル經費ハ相當多額ナルモノアリ、又地方団体トシテ濫ズシモ近駐軍ノ申入ヲ待
 タズシテ近駐軍費入ノ名支辨セザルベカラザル經費亦尠カラズ之ノ財源悉出ノ途ナクモ
 以下所費經費ニ對シ國庫ニ於テ納成ノ要アル此ノ經費ヲ要ス

臨時部	款	金額	算出内譯
一般費	臨時諸要務費	一三九四七〇〇〇	別紙ノ通り

本經費ハ皆暫借減ノ經費ナリ(前年度第ニ予備金)

聯合軍進駐ニ伴フ經費内譯

區	分	人員	一人年額	金	類	備	考
臨 時 部	本 省 分						
	飛 渡 費			八三、〇〇〇			
給 與	臨時請受務費			四二、八八八			
	給與			三七、一三八			
臨時手當	臨時手當			三五、四〇〇			
	臨時手當			一七、二八			
臨時勞金	臨時勞金			五、七六〇			
	臨時勞金			五、七六〇			
臨時員給	臨時員給			四〇、一一二			
	臨時員給			五、七六〇			
臨時長給	臨時長給			四〇、一一二			
	臨時長給			五、七六〇			
臨時事務費	臨時事務費			四〇、一一二			
	臨時事務費			五、七六〇			

臨時事務費	八			三、七一一		
臨時員給				四、一一二		
臨時長給				四、一一二		
臨時勞金				五、七六〇		
臨時手當				五、七六〇		
臨時勞金				五、七六〇		
臨時員給				五、七六〇		
臨時長給				五、七六〇		
臨時事務費				五、七六〇		
臨時員給				五、七六〇		
臨時長給				五、七六〇		
臨時勞金				五、七六〇		
臨時手當				五、七六〇		
臨時勞金				五、七六〇		
臨時員給				五、七六〇		
臨時長給				五、七六〇		
臨時事務費				五、七六〇		

前送運搬費三六、〇〇〇

聯合國軍進駐ニ伴フ所要經費算出内譯

地方廳分

一、内國旅費

(1) 中央トノ連絡ニ要スル旅費(一應當)

區分	日數	當		料		計	此内分金額
		軍	官	旅	車		
旅任	五	三	一五	二〇	八〇	五〇三	四一八
奏任	五	六	三〇	二六	一〇四	四〇八	二一六
計							

(2) 臨時連絡等ニ要スル經費

一、連絡ニ要スル經費

一ヶ所月四回 五ヶ所十月延 二〇四分ヲ所要延人員二四〇人
一人一回 平均一月トシテテ金額三、六〇〇円

二、駐在職員旅費

一人一月五〇〇円 一ヶ所二人三ヶ所六人コノ十三月分金額一〇、八〇〇円

三、地方事務所等ヨリ府縣廳ヘノ連絡ノ爲ノ旅費

進駐ヶ所

一ヶ所三付、一月三回 一府縣五ヶ所十二月延 八〇四コノ所要人員一六〇人
一人一回ニ〇円トシテテ金額三、六〇〇円

一、二、三ノ計

一八、〇〇〇円

(4)、(5)、(6)ノ計

三三、一八〇円 コノ三分ノ二額 一四、七七八円(三分ノ一額七、三九三円ハ
都道府縣補助中ニ計上)コノ四大廳分ト八〇、二〇二円

二、應當(特殊)内譯

本領分

三六、〇〇〇円

内譯

通信運搬費 三六、〇〇〇円

電信料月二、〇〇〇円 一月三、〇〇〇円
郵便電話料月一、〇〇〇円 一月一、〇〇〇円

地方廳分一應當

内譯

通信運搬費 七、二〇〇円 月六、〇〇〇円

一、雜費(特殊)内譯

本省分 三、七一二円

内譯 自動車席上料 其ノ他

地方廳分 (廳當 一六、八〇〇円)

内譯 賄 費 其ノ他

三、七一二円

四、八〇〇円 月 四〇〇円
一三、〇〇〇円 月 一、〇〇〇円

地方費補助

(1) 都道府縣補助一ノ當 一七、三九三円

内譯 府縣費職員旅費

自動車席上費

雇人 費

清掃 費

人夫賃車費及給食費

其ノ他 雑 費

七、三九三円 (特殊ヲ含ム)

四五、〇〇〇円 一月 三、七五〇円
了 十一月 九日 分

一、二〇、〇〇〇円

(四) 市町村補助 (市町村當)

内譯 職員設置費

旅 費

通信運搬費

雑 費

三、〇〇〇円

一、九二〇円 一市町村ニ及一ノ平均九六円

三〇〇円

五〇〇円

二八〇円

乙第ニニニ人ナクニ三ノ事ナリト合併シタルモノ
朕東京部官制中改正等ノ件ヲ豫可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

白文

内閣総理大臣
内務大臣

勅令第三〇五十四號

四月三十日公佈

第一條 東京部官制中左ノ通改正ス

第一條中「専任二十人」ヲ「専任十九人」ニ改ム

第一條ノ二中「専任二百七十八人以内」ヲ「専任二百九十二人以内

」ニ、「専任三百二十三人以内」ヲ「専任四百九十三人以内」ニ、

「専任二千九百六十七人以内」ヲ「専任四千三十三人以内」ニ改ム

第二條 北海道官制中左ノ通改正ス

第一條中「専任五十八人」ヲ「専任五十九人」ニ改ム

第一條ノ二中「専任百二十人以内」ヲ「専任百二十一人以内」ニ、「

専任七百五十一人以内」ヲ「専任七百八十人以内」ニ改ム

第十條中「六部」ヲ「七部」ニ、「經濟部」ヲ「經濟部」ニ改ム

第十二條第三項中第四號及第五號ヲ削リ同條中第四項トシテ左ノ一

項ヲ加フ

開拓部ニ於テハ左ノ事ヲ掌ル

一 拓殖ニ關スル事項

二 隨有未開地ノ管轄及處分ニ關スル事項

第三條 地方官官制中左ノ通改正ス

第一條中「専任千七百七十二人」ヲ「専任千七百七十一人」ニ改ム

第二條中「専任九百二十二以内」ヲ「専任九百五十四人以内」ニ、

「專任四千二百二十八人以内」ヲ「專任四千三百三十二人以内」ニ、
 「專任二萬五千二百八十人以内」ヲ「專任二萬六千六百四十五人以
 内」ニ改ム

第四條 都府縣等臨時職員等設置制中左ノ通改正ス

第一條中「專任二十七人」ヲ「專任二十八人」ニ、「專任五百五十
 人」ヲ「專任五百五十四人」ニ改ム

第一條ノ三中「專任三十人」ヲ「專任三十六人」ニ、「專任百八人
 」ヲ「專任百三十七人」ニ、「專任千九百十七人」ヲ「專任二千百
 七十二人」ニ改ム

第一條ノ四第一項中「專任五百十二人」ヲ「專任五百三十人」ニ、

「專任五千十二人」ヲ「專任五千五百五人」ニ改ム

第一條ノ五ヲ第一條ノ六トシ第一條ノ六ヲ第一條ノ七トス

第一條ノ五 各縣職員選考令ノ適用ヲ受クルニ級ノ地方事務官タル

者ハ第一條ノ二、第一條ノ三又ハ第一條ノ四第一項ニ定ムル者

ハノ定員外トシ此等ノ規定ニ定ムル者ハ各定員内トス

第五條 左ニ掲グル勅令中「高等文官」ヲ「一級又ハ二級ノ官吏」ニ
 改ム

土地收用法施行令

明治三十三年勅令第百一號

明治三十三年勅令第百二號

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

4	252	29	5
93	100	252	29

戦災地ノ復興事業ニ従事セシムル爲都道府縣ニ通ジテ二級ノ地方事務
 官四十六人、二級ノ地方役官三百六十九人及三級ノ地方事務官又ハ地
 方技官二千四百四十九人ヲ、北海道ニ於テ開墾事業ヲ實施スル爲二級
 ノ地方事務官五人、二級ノ地方技官二十九人及三級ノ地方事務官又ハ
 地方役官二百五十二人ヲ各増員シ併セテ北海道縣經濟部ノ所掌事項中
 拓殖ニ關有未開地ノ管理及處分ニ關スルモノヲ分離シ新ニ開拓部ヲ
 設置スルノ要アルト聯合國軍ノ進駐ニ伴ヒ都道府縣ノ事務増徴ノ狀況
 ニ鑑ミ之カ圓滑ナル事務處置ヲ期スル爲二級ノ地方事務官二十人、三
 級ノ地方事務官百人ヲ、齊集物ノ出何配給統制ノ圓滑ナル運営ヲ圖ル
 爲六都府所在府縣等ニ二級ノ地方技官六人、三級ノ地方技官十一人
 ヲ各増員スル等ノ要アルニ依ル

省長府廳發給證書

第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號
送	送	送	送	送	送	送	送
受	受	受	受	受	受	受	受
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日

右閣議ヲ請フ
 年 月 日
 大臣
 因務ノ中臨時職目録自製中
 出
 出
 出

大臣
 次官
 人事課長

主査事務官

昭和二十一年 五月 八日 付 局 受
 月 日 月 日 月 日

甲乙之符號
 決判
 日 文 書 課 長
 行

裏面あり

日	月	
第	第	第
號	號	號
送受	送受	送受
月	月	月
日	日	日

内閣總理大臣宛

内務省

朕は、内務部内臨時職員設置制の一部を改正する等の勅令を裁可し、ここにこれを公布せしめる。

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

勅令第 号

第一條 内務部内臨時職員設置制の一部を次のやうに改正する。

「専任百六十五人」を「専任百六十七人」に、「専任七百四十二人」を「専任七百五十人」に改める。

第二條 東京都官制の一部を次のやうに改正する。

第一條ノ二中「専任二百九十二人以内」を「専任二百九十三人以内」に、「専任四百九十三人以内」を「専任四百九十四人以内」に、「専任四千三十三人以内」を「専任四千三十六人以内」に改める。

第三條 北海道廳官制の一部を次のやうに改正する。

第一條ノ二中「専任百二十一人以内」を「専任百二十二人以内」に、「専任七百八十人以内」を「専任七百八十三人以内」に改める。

第四條 地方官官制の一部を次のやうに改正する。

第二條中「専任九百五十四人以内」を「専任九百五十九人以内」に、「専任四千三百三十二人以内」を「専任四千三百七十六人以内」に、「専任二萬六千六百四十五人以内」を「専任二萬六千七百九十人以内」に改める。

第五條 都廳府縣等臨時職員等設置制の一部を次のやうに改正する。

第一條中「専任五百五十四人」を「専任五百五十三人」に改める。

第一條ノ三中「専任二千百七十二人」を「専任二千百六十九人」に改める。

第一條ノ四第一項中「専任五百三十人」を「専任五百二十七人」に、「専任五千百五人」を「専任五千九十二人」に改める。

第五條第四項中「地方事務官」の下に「又ハ地方技官」を加へる。

第六條 家畜傳染病豫防ニ關スル事務ニ従事セシムル爲東京都、北海道廳及府縣ニ通ジテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得
地方技官

- 専任三人以内 二級
- 専任三十一人以内 三級

前項職員ノ東京都、北海道廳又ハ府縣ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム
第六條 都市計畫委員會官制の一部を次のやうに改正する。

第十九條中「本令中」を「第十七條ノ規定ヲ除キ本令中」に改める。

第七條 昭和二十年勅令第六百二十四號の一部を次のやうに改正する。
第一項中「第十條」を「第八條」に改める。

第十條 附則
この勅令は、公布の日からこれを施行する。

この勅令施行の際現に家畜防疫職員ノ職に在る者は、別に辭令を發せられないときは、地方技官に任ぜられ、奉任官待遇の者は二級に、
奉任官待遇の者は三級に叙せられたものとする。

この勅令施行の際現に家畜防疫職員で休職中のものは、別に辭令を發せられないときは、休職のまま前項の例により地方技官に任ぜられ、各々相當の級に叙せられたものとする。

前二項の規定は、官吏任用級級の資格に関する規定の適用を妨げない。

この勅令施行の際、現に家畜防疫職員たる者は、別に辭令を發せられないときは、現に受ける俸給額に相當する官吏俸給令の號俸を受取るものとする。但し、現に受ける俸給額に相當する號俸がないときは、従前の俸給を受けるものとする。

前項の俸給額とは、本俸の月額とし、年額で本俸を定める場合には、その十二分の一に相當する額とする。

家畜防疫職員制は、これを廢止する。

理 由

五十鈴川改修及び府縣災害土木工事の指導監督に關する事務に従事させるために、二級の内務技官二人、三級の内務事務官又は内務技官八人を、失業者の職業輔導施設の整備擴充を圖るために、二級の地方事務官六人、三級の地方事務官十八人を、森林資源造成法施行に關する事務に従事させるために、二級の地方技官四十六人、三級の地方技官五十二人を、従前都道府縣に配置されてあつた、家畜防疫職員制による防疫獸醫を本官に振替へるために、二級の地方技官三人、三級の地方技官三十一人を各々増員するとともに船員職業紹介に關する事務の運輸省への移管に伴つて、二級の地方事務官三人、三級の地方事務官十七人を減員する必要がある、又、最近の經驗に鑑み地方商工局長に地方技官を充てる途を拓く等の必要があるからである。

手紙

内務部内臨時職員設置制

大正九年九月十日
勅令第三百二十九号

内務部内臨時職員設置制

所管行政事務ニ從事セシムル為内務省ニ在リ職員ヲ置ス

内務技官

專任 百六十五人

一級 由八人ヲ一級ト
二級 由八人ヲ一級ト
三級 由八人ヲ一級ト

内務事務官 又ハ内務技官
專任 百四十二人

裏面白紙

地方商工局官制

昭和二十一年一月七日
勅令第一〇一號
改正昭和二十一年才二二一號

略

第七條 部長及總務課長ハ二級、地方事務官又ハ地方技官ヲ以テ之ニ充ツ局長ノ命ヲ承ケ部務又ハ課務ヲ掌理ス

地方事務官及地方技官ニシテ部長又ハ總務課長ニ充テラルルモノハ一人ヲ限リ之ヲ一級ト為スコトヲ得
略

裏面白紙

東京都官制

第一條 東京都ニ左ノ職員ヲ置ク

昭和十八年六月十九日
勅令第百四號

長官

次長

局長

秘書官

地方事務官

地方技官

專任

專任

地方事務官

地方技官

專任

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一人

一級

二級

一級

二級

一級

二級

人三級

第一條 前條ノ是員外ニ於テ東京都ニ

左ノ職員ヲ置クコトヲ得

地方事務官

地方技官

專任

專任

地方事務官

地方技官

專任

二級

二級

二級

二級

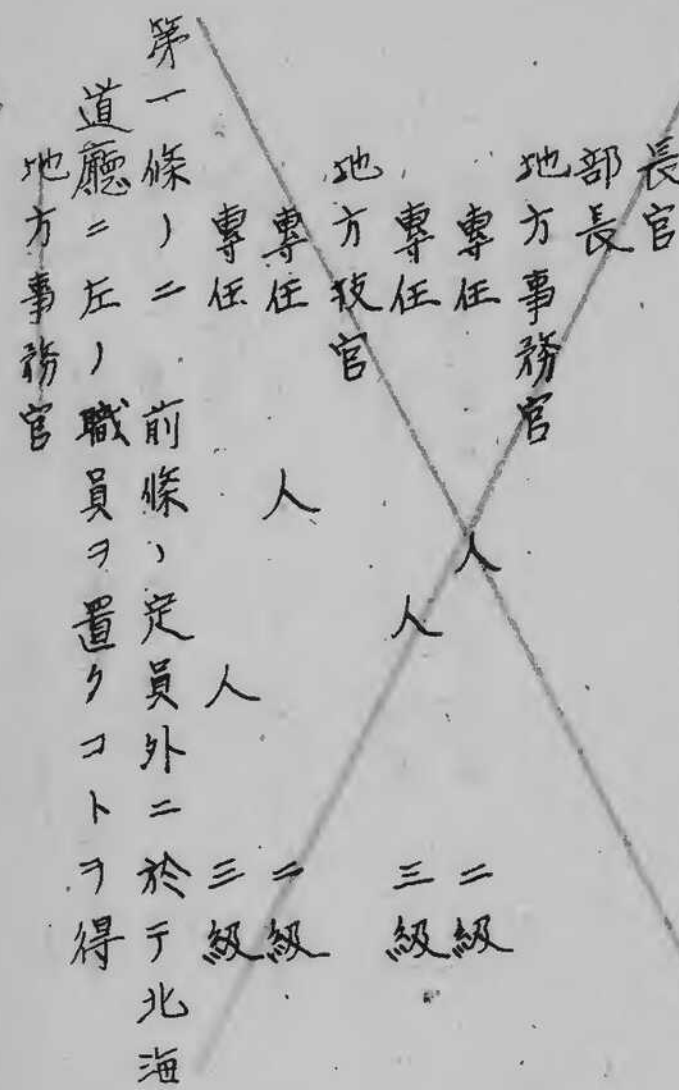
三級

三級

北海道廳官制

第一條 北海道廳 = 左ノ職員ヲ置ク

大正二年六月十三日
勅令第百五十一號



專任 二級
地方技官 二級
地方事務官 又ハ地方技官 三級
專任七百八十人以内

地方官官制

第一條 府縣ニハ通ジテ

大正十五年六月四日
勅令第百四十七號

知事

部長

地方事務官

專任

專任

地方技官

專任

專任

第二條 前條ノ定員外ニ於テ府縣ニ通ジ

テ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

地方事務官

人

人

人

人

二級
三級

二級
三級

專任 九百五十四人以内

二級

地方技官 專任 四千三百三十一人以内

二級

地方事務官 專任 二萬九千六百四十五人以内

三級

14

50 44

都廳府縣等臨時職員等設置制

昭和十一年八月二十九日
勅令第三百八十五號

第一條 東京都二丘ノ職員ヲ置ク

地方事務官 二人

地方技官 二人

專任 七人

地方事務官又ハ地方技官

專任 廿四人

警視廳ニ丘ノ職員ヲ置ク

地方事務官 一人

地方技官 一人

專任 二人

地方事務官又ハ地方技官

專任 一人

地方事務官又ハ地方技官

專任 一人

警視廳 一人

警部 一人

第一條ノ三 北海道廳ニ丘ノ職員ヲ置ク

地方事務官 一人

地方技官 一人

專任 二人

地方事務官又ハ地方技官

專任 一人

地方事務官又ハ地方技官

專任 二人

地方事務官又ハ地方技官

專任 二人

警視廳 一人

警部 一人

第一條ノ四 府縣ニ通シテ在ノ職員ヲ置

地方事務官

專任 五百三十人

二級

地方技官

專任 八人

二級

地方事務官又ハ地方技官

專任 九百九十二人

警視

警部

人

前項職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣
本ヲ定ム

裏面白紙

都市計畫委員會官制

大正八年十一月二十八日
勅令第四百八十三号

略

第十七條

委員會ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

地方事務官

專任 十九人

二級

專任 七十七人

三級

地方技官

專任 六十二人

二級

專任 二百三人

三級

前項ニ掲グル職員ノ各委員會ニ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

略

第十九條

本令中内務大臣トナルハ東京都北海道

茲ニ京都府奈良縣滋賀縣長野縣山形縣秋田縣石川縣島根縣及佐賀縣以外ノ府縣ニ在リテ内閣總理大臣及内務大臣トス

略

本條ハ昭和二十年十一月二十九日勅令才六百七十一号都市計畫法及同法施行令戰時條例中改正件ニ依ル追加

裏面白紙

勅令第六百二十四號 (昭和二十年十一月七日公布)
 北海道長官ハ權及北海道ニ於ケル名譽ノ行政ノ綜合連絡調整ヲ掌ル
 地方行政事務局設置制第三條第一項、第四條、第五條及第十條ノ規定ハ
 第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
 第一項ノ規定ニ依リ北海道廳長官ノ職權ニ屬スル事項ニ關スル事務
 ハ北海道廳内政課ニ於テ之ヲ掌ル
 北海道廳ニ臨時ニ書記官專任一人、事務官專任一人及島專任五人ヲ置キ
 第一項ニ規定スル事務ニ從事セシム
 附 則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

家畜防疫職員制

(大正十五年五月二十一日
勅令第百三十二號)

朕家畜防疫職員制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

家畜防疫職員制

第一條 農林大臣ハ家畜傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ臨時應

府縣ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

防疫獸醫 專任二十四人以上 二級官待遇又ハ三級官待遇

前項ノ規定ニ依ルニ級官待遇ノ防疫獸醫ノ數ハ連シテ三人以内トス

第二條 防疫獸醫ハ上官ノ命ヲ承ケ家畜傳染病豫防ニ關スル技術ニ從

事ス

第三條 防疫獸醫ヲ置クベキ府縣及其ノ定員ハ農林大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裏面白紙



明治二十一年三月三日

内務大臣

地方官制



地方官制改正法律第二十号
第一條 地方官制は、地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第二條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第三條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第四條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第五條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第六條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第七條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第八條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第九條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。
第十條 地方官制改正法律第二十号の定めるところによつて之を改定す。

明治二十一年三月三日

内務大臣

裏面白紙



防疫獸醫配置表 (行政整理後配置)

道府縣	奏任待遇	判任待遇
北海道	一	一
青森	一	一
岩手	一	一
秋田	一	一
山形	一	一
福島	一	一
茨城	一	一
栃木	一	一
群馬	一	一
新潟	一	一
富山	一	一
石川	一	一
福井	一	一
山梨	一	一
長野	一	一
岐阜	一	一
愛知	一	一
三重	一	一
滋賀	一	一
京都	一	一
大阪	一	一
奈良	一	一
和歌山	一	一
徳島	一	一
香川	一	一
高松	一	一
愛媛	一	一
高知	一	一
福岡	一	一
佐賀	一	一
熊本	一	一
大分	一	一
宮崎	一	一
鹿兒島	一	一
沖縄	三	一

昭和十五年五月

畜畜傳染病防疫所		經費		防疫獸醫給	
區分	數量	單價	金額	備	序
臨時部					
一般費			四三、一七八		
臨時請要務員俸			三五、一六〇		
俸給			五、四〇〇		
奉在俸給			五、四〇〇		
防疫獸醫	三人	一、八〇〇	二九、七六〇		
判在俸給			二九、七六〇		
防疫獸醫	三人	九六〇	二九、七六〇		
賞與			七、〇一八		

農 商 省

防疫獣醫俸給年額豫算及定員配置表

昭和二〇、四六

区分	定員年額		俸給年額		計
	定員	年額	定員	年額	
北海道	1	1800	1	960	2760
青森				960	960
岩手				960	960
宮城				960	960
秋田				960	960
山形				960	960
福島				960	960
茨城				960	960
栃木				960	960
群馬				960	960
埼玉				960	960
千葉				960	960
東京				960	960
神奈川				960	960
新潟				960	960
富山				960	960
石川				960	960
福井				960	960
山梨				960	960
長野				960	960
岐阜				960	960
静岡				960	960
愛知				960	960
三重				960	960
滋賀				960	960
京都				960	960
大阪				960	960
兵庫				960	960
奈良				960	960
和歌山				960	960
鳥取				960	960
島根				960	960
岡山				960	960
広島				960	960
山口				960	960
徳島				960	960
香川				960	960
愛媛				960	960
高知				960	960
福岡				960	960
佐賀				960	960
長崎				960	960
熊本				960	960
大分				960	960
宮崎				960	960
鹿児島				960	960
沖縄				960	960
計	3	5400	31	29760	35160

(昭和二〇)



陸軍甲第...
...

内務省...
...

...

...

...

山本...

(2)



裏面白紙

官制定員要求人員

事務

地方技師

地方技手

森林資源造成法施行様式費

四六

五二

山林局

大正()年()月()日

農
商
省

森林採真源造成法施行に伴う経費

上月一日
月分

區	分	數	量	單	價	金	額	備	考
(款) 一般費						一三、一六〇、〇〇〇			
(項) 採真源造成法						一〇、九三〇			
俸給		一人			三、〇〇〇	六、二〇〇			
農務技師		一人			三、〇〇〇	三、〇〇〇			
農務技師		三人			一、〇八〇	三、二四〇			
農務技師		一人			一、〇八〇	一、〇八〇			
農務技師		二人			一、〇八〇	二、一六〇			
賞與						一、二四八			
諸給與						二、六〇〇			
内國旅費		一人			八〇〇	八〇〇			
判任		三人			六〇〇	一、八〇〇			

區	分	數	量	單	價	金	額	備	考
事務費		四人			一一〇	四四〇			
人員二件		四人				四〇二			
雜費									
(項) 産業振興補助						一、三二〇、七一一〇			
林業振興補助						一、二二〇、七一一〇			
補助金						一一九、七九五〇			
補助金						二二七、六一〇			
(項) 地方公共團體林業補助						九四、九六〇			
地方公共團體林業補助						一〇四、三六〇			
都道府縣補助金						一〇四、三六〇			
俸給						八〇、一六〇			
奏任									
技師		四人				五五、二〇〇			
判任									
							二分一補助		

區分	數量	價	金額	備考
技手	五二八	九六〇	二四九六〇	二分一補助
事務費			二四二〇〇	
旅費	九八八	六〇〇	二四二〇〇	
養任	四六八	四〇〇	一三八〇〇	二分一補助
判任	五二八	四〇〇	一〇四〇〇	
農林省林務課補助金 造林行為(力)に入ら ず、大行認定費六	二七九三〇	三	八三七六〇	全額補助
合計			一三二六〇〇〇	

要求事由

第二第八十九議案ニ於テ成立スルニ見タル本林務課林務課法
 施行ニ伴フ事務ヲ処理スルタメ本省及地方廳ニ職員ヲ
 設置スルモノニシテ地方ニ於テハ證書消化ニ要スル実地、
 指導等ノ事務ヲ担任スル共ニ本林務課組合ニ造林行為
 ノ実行ノ認定ニ要スル費用ヲ補助シ以テ造林法、
 田圃ナル運用ヲ俟テテ本林務課資源造成ノ大業展進ノ
 爲メニ要スルモノニシテ
 完壁ラ期スル要アリ
 仍テ右ノ經費ヲ要ス

参考

一、職員事務分担表

官名	員數	分担事項
農林技師	一人	一般監督指導獎勵事務
農林技師	一人	監督指導事務
農林技師	二人	技師補佐
計	四人	

二、補助金交付要綱

施設事項	補助施設ノ範圍	補助金交付標準
造林法施行事務	一、造林法施行ニ関スル技術的指導獎勵ノ爲地方廳ニ設置スル職員費 二、森林組合技術員旅費ニ要スル都道府縣補助金	費用二分一以内 費用全額以内

三、計畫ノ概要

証考ニ依ル二十年年度以降造林計畫表

年度	人工植栽	人工播種	天然下種補整	合計	備考
計	九七〇〇〇	三四〇〇	四四〇〇	一四四四〇〇	造林
二〇	二二四〇〇〇	五二〇〇	五〇〇〇〇	二七九二〇〇	
二一	二四六一〇〇	五二〇〇	五〇〇〇〇	三〇一三〇〇	
二二	一五九〇〇〇	五一〇〇	四九五〇〇	二一三六〇〇	
二三	(九七〇〇〇)	(三四〇〇)	(四四〇〇〇)	(一四四四〇〇)	(以下州手入)
二四	(二二四〇〇〇)	(五二〇〇)	(五〇〇〇〇)	(二七九二〇〇)	
二五	(二四六一〇〇)	(五二〇〇)	(五〇〇〇〇)	(三〇一三〇〇)	
二六	(一五九〇〇〇)	(五一〇〇)	(四九五〇〇)	(二一三六〇〇)	
二七	六二九二〇〇	一五五〇〇	一四九五〇〇	七九四一〇〇	
計	(七三六〇〇〇)	(一八九〇〇)	(一九三五〇)	(九三八五〇〇)	

四 造林行為費執行總定額算定基礎

種別	年度	算定額	備考
造林費	一日	三〇〇〇〇	造林費二日二日間二三日等調査 調査補助
人天費	一日	二〇〇〇	
計		一〇、五〇〇	

依予三町歩ヲ以テ除スバ一町歩当三月五〇〇トナル
故ニ之ヲ三月〇〇ト決定ス

證券補給金表

年度	人工植栽	人工播種	天候補給費	計	備考
二〇	一〇、八五〇〇〇	一四、四五〇〇	一、六五〇〇〇	一、九七九、五〇〇	△印ハ 下州ニテ入 トス
二一	二、三五〇〇〇	二、二一〇〇〇	一、八七五〇〇	二、五六一六、〇〇〇	
二二	二、五八四〇、〇〇〇	二、二一〇〇〇	一、八七五〇〇	二、七九五六、五〇〇	
二三	一、六六九五〇〇〇	二、二六七五〇	一、八五六、三五〇	一、八七六、八〇〇	
二四	△六、七九〇、〇〇〇	△二、三八〇〇〇	△三、〇八〇、〇〇〇	△一〇、〇八〇、〇〇〇	
二五	△五、六八〇、〇〇〇	△三、六四〇〇〇	△三、五〇〇、〇〇〇	△一、九三五〇、〇〇〇	
二六	△一、七三三、七〇〇	△三、六四〇〇〇	△三、五〇〇、〇〇〇	△二、一〇九、一〇〇〇	
二七	△一、二一三、〇〇〇	△三、五七〇〇〇	△三、四六五、〇〇〇	△一、四九三、〇〇〇	
二八	七、六三四、五〇〇	八〇、二三五〇	七、二五六、三五〇	八、四三〇、〇〇〇	
計	△五、〇八七、〇〇〇	△一、三三三、〇〇〇	△一、三五五、〇〇〇	△六、五六一六、〇〇〇	
	一、三七〇、六七、五〇〇	二、一三六、三五〇	二、〇八〇、二五〇	一、四九三、〇〇〇	

證券補給金利表

年度	人工植栽	人工播種	天然下種補整	計	備考
二〇	一九三五・五	三・七四五	三・三五〇	三二七・六一〇	△印ハ 下州平入ト ス
二一	四四六・八八〇	四一九九	三五・六二五	四八六・七〇四	
二二	四九〇・九六九	四一九九	三五・六二五	五三〇・七九三	
二三	三二七・二〇五	四一八	三五・二六八	三五六・五九一	
二四	一一九・〇一〇	四・五三二	五・五二〇	一九二・〇五二	
二五	二九七・九二〇	六・九一六	六・五〇〇	三七一・三三六	
二六	三三七・三三三	六・九一六	六・六三〇	四〇〇・七二九	
二七	二二一・四七〇	六・七八三	六・五八三	二八四・〇八八	
二八	一四八・五六九	一・五二六一	一・三七・八六八	一六〇・六九八	
計	△九六五・七一三 二四一四・二八二	△二五・一三七 四〇・三九八	△三・五七・三五五 三九・五・二二三	△一・三四八・二〇五 二八四九・九〇三	

裏面白紙

送林而後
私加林

府縣別	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	
地方技官（二級）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地方技官（三級）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

森林資源造成法施行ニ伴フ事務定員配置表

農林省

大塚鈞

鹿兒島	宮崎	大分	熊本	長野	佐賀	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	山口	廣島	岡山	鳥根	鳥取	和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都	滋賀	三重	愛知	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
												農 林 省												

(大塚鈞)

計

四六

五二

農
林
省

大塚

勅發才二八四號

昭和二十一年五月六日

事務大臣官房秘書課長 殿

勅 等 局



東京都官制中改正ノ件

今回職業補導學業實地ニ伴ヒ地方補助職員ヲ新ニ設置スルコト、
相成候條之ニ伴ヒ東京都官制別紙ニ依リ改正方可然御取計相成度

東京府知事 官

東京府知事 官

保 院

裏面白紙

東京都官制中改正等の件

(勅令昭和二十一年十月)

東京都官制第一條ノ二

地方事務官の部中

専任 一人 二級 を加へること。

地方事務官又ハ地方技官の部中

専任 二人 三級 を加へること。

北得道縣官制第一條ノ二

地方事務官又ハ地方技官の部中

専任 二人 二級 を加へること。

地方官制第二條

地方事務官の部中

専任 五人 二級 を加へること。

裏面白紙

保 險 院

五川

178

地方事務目次ハ地方役官の部中
専任 一四人 三級 を加へること。

保
險
法

裏面白紙

裏面白紙

理 由

般業補區専業資願に伴つて地方補助費用たる二級又は三級の地方
事務官及び三級の地方技官を増員することよになつたためこれが縣
係官制を改正する必要がある。

保
險
院

計	長	武	河	北	石	神	千	長	新	武	北	大	京	東	府
	河	河	山	河	川	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河
															別
二															二
一															一
二															二
計															計
備															備
															考

各系補導畢業總係職員配置表

(昭和二十六年)

保
險
局

裏面白紙

職業補導ニ要スル経費

戦年終結ニ伴ヒ産業離職者復員軍人海外引揚民戦災者等多數、失業者増加シツルヲ以テ之等失業中真ニ就職シ得ガルモノニ對シ所要職業補導ヲ行ヒ健全ナル職業ニ就カシメシムルガ爲メ職業補導施設、整正備振等ヲ図ル要アリ以テ此ノ経費を支出ヲ要ス

Handwritten notes in Japanese, including the number '17' and various illegible characters, likely providing additional context or calculations for the table.

款 項	金額	算 出 内 譯		備 考
		区 分	三年度計上額	
臨時部				
一 般 費	三九八四〇四八	臨時給與	三九八四〇〇〇	内訳別紙(一)通
臨時諸事務費	六九〇〇	職業補導事務費	三五〇〇	
臨時諸補助金	三九七七一四八	職業補導補助金	三、四〇〇	
		職業補導地方職員費補助	二九、九七七一四八	
		職業補導協同職員補助	四九、六三〇	内訳別紙(二)通
		職業補導補助費	七九、一七〇四	内訳別紙(三)通
		職業補導補助費	二九、三三八二四	内訳別紙(四)通

別紙(一) 事務費内譯

区	分	員数	単價	年額	備考
計	諸給喫 内國旅費 高等官 判任官 事務費 雜費	七	三〇〇 二〇〇	三、五〇〇 二、一〇〇 一、四〇〇	七地方
	中六打合費 地方協議合費	一	一、〇〇〇 三〇〇	一、〇〇〇 三、四〇〇	八地方

別紙(二) 職業輔導地方職員費補助内譯

区	分	員数	単價	年額	備考
計	事務官(三級) 事務官(三級) 技官(三級)	六	三、二〇〇 一、九〇〇 一、六九〇	一九、二〇〇 一、八〇〇 一、〇〇〇 三、八〇〇	
		二		四九、六二〇	

區別(三) 廠業輔導協會補助内譯
 區 介員數 單價 年額 備考

事務費	本部事務費	會議費	諸員手給	雜給	理事	參事	主事	書記	事務	備人	巡視
三	一五	一五	一〇〇	一五〇〇〇	一〇〇〇〇	六〇〇〇	四八〇〇	二四〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二四〇〇	七九、七〇四	一九九、〇〇〇	三、〇〇〇	一八九、五六二	一、五〇〇	一、二〇〇	二、二八〇	二、五〇〇	二、四〇〇	一、九二〇	二、四〇〇
二、一六〇											
八、八八〇											
二、一六〇											

電 話	交 換 手 給 仕	慰 勞 金	家 族 手 當	旅 費	郵 費	書 記	需 要 費	人 件 費	被 服 費	雜 費	借 館 料	諸 雜 費	其 他
二	六	三	三	一	三	三	三	三	六	五	三	三	三
一、二〇〇	七二〇	二四〇	二四〇	六〇〇	四〇〇	四〇〇	二五二八	二四二〇	一〇八	三、九〇〇	一、六二〇	一、七〇〇	五八〇
二、四〇〇	四、三二〇	四、一一二	八、八八〇	一〇、八〇〇	六、〇〇〇	四、八〇〇	二、五二八	二、四二〇	一〇八	三、九〇〇	一、六二〇	一、七〇〇	五八〇

雜給(四割)
 一人一月一五元、二五人分
 (運轉費、事務費、書記手使)

1909.9.27
 1910.1.1
 1910.1.1
 1910.1.1
 1910.1.1

支部事務費	諸	雜	坂	書	事務	慰勞	家族	旅	技師	書記	需要	人件	雜費
五九二七〇四	五五四九六〇	三四五、六〇〇	二八、八〇〇	二〇、六四〇	一一〇、四〇〇	一三八、二四〇	三三、一二〇	三、六〇〇	三、四〇〇	一〇、一三〇	九二	九二	九二
價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額
株	株	株	株	株	株	株	株	株	株	株	株	株	株
考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考	考

雑給、印刷
 雑費、印刷
 (技術、書記)

借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇
借雑料	諸雜費	一八四	五〇	一八、四三四	九、二〇〇

區	分	職業輔導費補助内訳		年	個所當経費内訳別計
		個所数	経費		
建	築工(甲)	一	一、四〇八、二七六	一、四〇八、二七六	(2)
〃	(乙)	一	一、八六、二六八	一、八六、二六八	(3)
〃	(丙)	一	一、〇八、九二八	一、〇八、九二八	(4)
建	木	一	一、〇、五二八	一、〇、五二八	(5)
通	工	一	七、四、一六七	七、四、一六七	(6)
半	工	一	一、五、八七	一、五、八七	(7)
業	工	一	一、七、九二	一、七、九二	(8)
授	産	一	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	(9)
計			支補助	三、九、三、六八二、四	

別紙(四)
職業輔導費補助内訳

裏面白紙

- (7) 輸送関係技能者ノ補導(自動車修理技士、自動車運輸手)
- (8) 鉱業関係技能者ノ補導
- (9) 農器具製造、機械器具修型技能者ノ補導
- (10) 漁船製造修型技能者ノ補導
- (11) 事務関係補導(簿記、速記、録取、英大タイプライター等)
- (12) 前項ノ補導種目ニ付補導ヲ行フノ外投産施設ニ依ル職業補導、就業資金ノ給與又ハ貸與並ニ増産ノ種目ノ補導吟詠等ノ事業ヲ併セ行フモノトス

三、突地組織

本計画ニ基ク職業補導ノ突地、新ニ財団法人職業補導協会ヲ設立シテ之ニ當ラシムルモノトス

職業補導協会ハ厚生大臣ノ指導監督ノ下ニ其ノ事業ヲ行フモノトシ人事、予算、事業丙表等全岐一直小厚生大臣ノ命ニ受フルモノトス

四、本計画突地ニ因シ必要ナル経費ハ国庫ニ於テ充テスル如ク予算的措置ヲ講ズルモノトス

参考資料(一)

職業輔導協會組織

- 一、名稱ハ財團法人職業輔導協會ト稱スルコト
- 二、職業輔導協會ハ戰爭終結ニ伴フ失業対策遂行ノ一段トシテ失業者中直ニ就職シ難キ者ニ対シ所要ノ職業輔導ヲ加ヘ政府ノ施策ト相俟テ之ガ失業者ヲ圓滑且急速ニ就職セシムルコトヲ目的トスルコト
- 三、職業輔導協會ハ前掲ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フモノナルコト
 - 一、職業輔導ノ相談指導ニ関スル事項
 - 二、職業輔導進ニ至ニ半ヒ必要ナル教育ノ経営ニ関スル事項
 - 三、就業資金ニ関スル事項
 - 四、其ノ他目的達成上必要ナル事項
- 四、職業輔導協會ハ財団法人トスルコト
- 五、職業輔導協會ハ中央職業輔導協會又地方職業輔導協會トス
 - (一) 中央職業輔導協會ハ東京ニ置ク

中央職業輔導協會ニ會長、副會長、理事、監事、評議員等ノ役員ヲ置ク

會長及副會長ハ評議會ノ推薦ニ基キ學生大臣ニヲ委嘱スルコト
 理事、監事、評議員等ノ役員ハ學生有其ノ他關係官廳ノ官吏並ニ學識經驗者ヲ以テ之ニ充ツルコト

前項以外ノ職員ハ一般民間人ヲ以テ充ツルコト
 二、地方職業輔導協會ハ各都道府縣ニ置クコト
 地方職業輔導協會ハ中央職業輔導協會ノ支那トシ會長、理事、監事等ノ役員ヲ置クコト

會長ハ評議會ニ推薦スルコト
 理事等ノ役員ハ關係官吏並ニ學識經驗者ヲ以テ之ニ充ツルコト
 職員ハ一般民間人ヲ以テ之ニ充ツルコト

六、職業輔導協會ノ經費ハ左ノ如ク以テ之ニ充ツルコト
 (一) 補助金及助成金

- (二) 資産ヨリ生スル收入
- (三) 寄附金
- (四) 事業ニ係ル收入及其ノ他ノ收入

- (一) 資産ヨリ生スル收入
- (二) 寄附金
- (三) 事業ニ係ル收入及其ノ配ノ收入
- (四)

參考資料三

職業輔導計画実施二箇年ノ予算概算
 一、指導監督ノ為本省並地方廳ニ要スル経費

年度別	区分	
	本省	地方廳
二十年度	四八八七	三三二四〇
二十一年度	五八六五〇	二七九一二二
		計
		二八一二七
		三三七、七六二

二、職業輔導協會予算

年度別	区分	事務費			事業費	總計
		本部	支部	本部		
二十年度		二三九五七三〇	三一、三二七	二〇八四四〇三	五九、三三七、〇七六	
二十一年度		一〇、六三、一七六	一四二四、〇九六	九、九九〇、八〇	二四、三〇九、一四四	
					六、七二、八〇六	
					五、一九三、三二〇	

備考 事業費内訳別紙ノ通

職業輔導協會事業費内譯

區	分	二十五年	二十一年度	備	考
事	業	賞			
職業輔導相談施設費		五九三、七〇七六	二四一、三〇九、一四四		
建築関係技能者職業輔導		一八三、三、二六四	八六六、三三二〇		
建築工職業輔導費		五七、二八、七〇二	二、五七四、〇四〇		
建築工職業輔導費		二、九六八、七〇二	九〇、二九、六一六		
建具工職業輔導費		九二〇、〇〇〇	四五、一四、八〇八		
興材工職業輔導費		九二〇、〇〇〇	四五、一四、八〇八		
電氣水道通信技術工職業輔導費		九二〇、〇〇〇	四五、一四、八〇八		
和洋裁関係技能者職業輔導		五五、二〇〇〇	四、一八三、六〇八		
手工業関係技能者職業輔導		四、七九三、七〇六	一、二、五五〇、八二四		

食品加工業関係技能者職業輔導費	六六、九〇〇〇	二六、七六、〇〇〇		
製造指導者職業輔導費	五七、四〇〇〇	二、二一、四〇〇		
農林水畜産関係技能者職業輔導費	四四〇、四〇〇〇	一、二五、一六、四三三		
農業指導者職業輔導費	二八〇、〇〇〇	三七、二、四〇〇		
林業指導者職業輔導費	九六、〇〇〇	一、一六、六、四〇〇		
林業従事者職業輔導費	三〇〇、〇〇〇	三、二四、八、八八〇		
漁撈技術者職業輔導費	二、五六八、〇〇〇	二、一三六、〇〇〇		
船舶技術者職業輔導費	一、一六〇、〇〇〇	一、五二〇、三五二		
畜産指導者職業輔導費	一	七、三、二、四〇〇		
輸送関係技能者職業輔導費	四、八三〇、〇〇〇	一、八七六、八〇〇		
鉱業関係技能者職業輔導費	三五、〇〇〇	一、二九九、〇〇〇		

農器具製造機材器具修 理技能者職業補導賞	農器具工職業補導賞	機材修理工職業補導賞	鍛冶工職業補導賞	事務関係従事者職業補導賞	英文分子職業補導賞	通訳筆記速記簿 記職業補導賞	授産補助導賞	就業資金給與受貸與賞	歸農入植者幹線補導賞
五〇一七、四〇四	二、〇四八、七〇二	九二〇、〇〇〇	二、〇四八、七〇二	七八二、〇〇〇	五五三、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	一	二八、〇〇〇、〇〇〇	二、一〇八、〇〇〇
一三、五四四、四二四	四、五一四、八〇八	四、五一四、八〇八	四、五一四、八〇八	七、三五四、二九六	四、一八三、六〇八	三、一七〇、六八八	二九、三〇二、〇〇〇	一、一八〇、〇〇〇、〇〇〇	六、五四八、〇〇〇

裏面白紙

一、本失業者推計ハ昭和二十年十二月一日臨時國民登録一般無業者數
 ヲ基據トシテ推計セリ
 二、本失業者推計ニハ所謂潜在失業者含ムセトス
 三、本失業者推計ハ昭和二十年層即チ男子十八歳以上六十歳以下女子十
 三歳以上四十一歳迄ノ範圍ニ付テ、セ、ナアル
 四、人口ニ恰ト比例スルセトス

保
險
院

朕内閣都内臨時職員設置制中改正等ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

勅令第 號

第一條 内務部内臨時職員 設置制中左ノ通改正ス

「専任百六十五人」ヲ「専任百六十七人」ニシテ、「専任七百四十二人

」ヲ「専任七百五十人」ニ改ム

第二條 地方商工局官制中左ノ通改正ス

第七條第一項中「二級」ヲ「一級又ハ二級」ニ改ム

第三條 東京都官制中左ノ通改正ス

第一條ノ二中「専任二百九十二人以内」ヲ「専任二百九十三人以内

」ニシテ、「専任四百九十三人以内」ヲ「専任四百九十四人以内」ニシテ、

「専任四千三十三人以内」ヲ「専任四千三十六人以内」ニ改ム

第四條 北海道廳官制中左ノ通改正ス

第一條ノ二中「専任百二十一人以内」ヲ「専任百二十二人以上」ニ改ム

「専任七百八十人以上」ヲ「専任七百八十三人以上」ニ改ム

第五條 地方官官制中左ノ通改正ス

第二條中「専任九百五十四人以上」ヲ「専任九百五十九人以上」ニ改ム

「専任四千三百三十二人以上」ヲ「専任四千三百七十六人以上」ニ改ム

「専任二萬六千六百四十五人以上」ヲ「専任二萬六千七百九人以上」ニ改ム

第六條

都廳府縣等臨時職員等設置制中左ノ通改正ス

第一條中「專任五百五十四人」ヲ「專任五百五十三人」ニ改ム
第一條ノ三中「專任二千百七十二人」ヲ「專任二千百六十九人」ニ改ム

第一條ノ四第一項中「專任五百三十人」ヲ「專任五百二十七人」ニ改ム

「專任五千百五人」ヲ「專任五千九十二人」ニ改ム

第六條 家畜傳染病豫防ニ關スル事務ニ從事セシムル爲北海道廳及

府縣ニ通ジテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

地方技官

專任三人以内 二級

專任三十一人以内 三級

前項職員ノ北海道廳又ハ府縣ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 都市計畫地方委員會官制中左ノ通改正ス

第十九條中「本令中」ヲ「第十七條ノ規定ヲ除キ本令中」ニ改ム

第八條 昭和二十年勅令第六百二十四號中左ノ通改正ス

第一項中「第十條」ヲ「第八條」ニ改ム

第九條 家畜防疫職員制中左ノ廢止ス

附則

本令ハ公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ家畜防疫職員ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザル

トキハ地方技官ニ任ゼラレ奏任官待遇ノ者ハ二級ニ、判任官待遇ノ者

ハ三級ニ任ゼラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ家畜防疫職員ニシテ休職中ノモノ別ニ辭令ヲ發セラ

レザルトキハ休職ノ儘前項ノ例ニ依リ地方技官ニ任ゼラレ各相當ノ級

ニ任ゼラレタルモノトス

前二項の規定ハ官吏任用級級ノ資格ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ゲズ
 本令施行ノ際現キ家畜防疫職員タル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ
 現キ受クル俸給額ニ相當スル官吏俸給令ノ號俸ヲ受クルモノトス但シ
 現キ受クル俸給額ニ相當スル號俸ナキトキハ從前ノ俸給ヲ受クルモノ
 トス
 前項ノ俸給額トハ本俸ノ月額トシ年額ヲ以テ本俸ヲ定ムル場合ニ在リ
 テハ其ノ十二分ノ一ニ相當スル額トス

理由

五十鈴川改修及府縣災害土木工事ノ指導監督ニ關スル事務ニ從事セシムル爲メ二級ノ内務技官二人三級ノ内務事務官又ハ内務技官八人ヲ、失業者ノ職業輔導施設ノ整備擴充ヲ圖ル爲メ國庫補助職員タル二級ノ地方事務官六人三級ノ地方事務官十八人ヲ、森林資源造成法施行ニ關スル事務ニ從事セシムル爲メ國庫補助職員タル二級ノ地方技官四十六人三級の地方技官五十二人ヲ及官吏任用級令施行等キ件ニ從前都道府縣ニ配置セラレタル家畜防疫職員ニ依ル防疫獸醫ヲ本官ニ振替へル爲メ二級の地方技官三人三級の地方技官三十一人ヲ各増員ニ同時キ家畜防疫職員制ヲ廢止スルト共ニ職員職業紹介ニ關スル事務ノ運輸管ヘノ移管ニ伴ヒ之ニ從事セル國費支辨ノ二級の地方事務官三人三級の地方事務官十七人ヲ減員スル等ノ要アルニ依ル

日	月	第	第	第
號	號	號	號	號
受	送	送	送	受
月	月	月	月	月
日	日	日	日	日

白
閣
總
理
大
臣
宛

年
月
日

大
臣

朕内務部内臨時職員設置制中改正の件既
裁可し、茲に各省の事也しむる。

勅令 第 〇〇 号

昭和 〇 年 〇 月 〇 日

内閣總理大臣

内務大臣

勅令 第 〇〇 号

臨時

内務部内臨時職員設置制中改正の件既

裁可し、茲に各省の事也しむる。

勅令 第 〇〇 号

昭和 〇 年 〇 月 〇 日

内閣總理大臣

大日本帝國政府

理由

五下各川改修及府縣官署土木工事の推進等
督官間務事官に從事する者及び事務官
二人の内務事務官又は事務官三名の各一人
を以て事務官とす。

内務部内臨時職員改選制

大正九年九月十日

勅令第三百五十九号

内務部内臨時職員改選制

新設臨時職員改選制
職員員二百五十九

男

内務部内官

要員一人

一員

要員百五十人

二員

内務部事務員及内務部行員

要員二百四十人

三員

大日本帝國政府

大日本帝國政府

昭和二十一年四月二十日

人事課長 閣下



由内務部臨時職名決定案、定員増加之件
昭和二十一年三月、暫定臨時算増加之件、官制定員
削減調査、追加削減、追加削減、追加削減

裏面白紙

大日本帝國政府

官名	現任	改定	改正官名	備考
內務事務官	三級	二級	一六一	(官名)
中務事務官	二級	一級	一五七	(中務事務官)
同	三級	二級	一五七	(中務事務官)
				(中務事務官)
				(中務事務官)
				(中務事務官)

內務部內臨時職員姓名表

(因土り分)

裏面白紙

大日本帝國政府

費目	物理	文書	計	物理	文書	計	物理	文書	計	備考
出水上等費	八一	一	八二	出水上等費	六六	八〇	物理	二二〇	二二三	予費川以五五中 (夏秋)一(冬)一(春)三
送給中等費	一〇	一	一一	送給中等費	一	一	物理	一三二	一三二	1
臨時送給費	三〇	一	三一	臨時送給費	一	一	物理	一一九	一二二	1
計	一五五	二	一五七	計	一五九	一六一	物理	一九九	四九七	1
備考				備考			物理	六	二二六	1

物理
文書
計

物理
文書
計

物理
文書
計

備考

裏面白紙

昭和二十一年三月

昭和二十一年度追加豫算説明書

国土局河川課

昭和二十一年度河川関係追加豫算決定額調

国土局河川課
二一三二九

事業	項	管	初	所	要	額	前	定	額	差	引	復	額	備	考
中央部河川事業	要スル経費	二五〇、六六三												事務費ヲ含ム	
五十鈴川改修	要スル	二二〇、〇〇〇												事務費ヲ含ム	
鳴尾海崖堤防築造	要スル	二〇〇、〇〇〇												査定通	
北海沿岸防波堤築造	要スル	二二九、五〇〇												査定通	
昭和三十二年道河懸災害土	本費補助ニ要スル経費	六九〇、〇〇〇												査定通(補助率八普通補助ニ依ル)	
昭和三十二年災害土木事業	助成ニ要スル経費	二一六、〇〇〇												査定通	
昭和三十二年災害対策	防費補助ニ要スル経費	二六六、八八九												査定通	
昭和三十二年直轄河川以	外復旧ニ要スル経費	五六六、五五〇												査定通	
福岡縣道路橋梁其ノ他	災害復旧ニ要スル経費	一四、五二八三九												査定通	
災害土木工事指導監督	ニ要スル経費	二五、五一五〇												査定通	
地理調査所移轉	ニ要スル経費	四、五三三七												査定通	
測地基準点調査	ニ要スル経費	一三〇、三四四一												査定通	

土木事業用経費	二四、四三八二〇													査定通	
要スル経費															
計	一、三〇八、七二〇	一、五〇四、九〇〇	一、三〇八、七二〇												

臨時部
一般費

治外費

六四〇〇〇

内訳

項
金
額
算
出
内
訳

五十領川改修に要する経費

213

裏面白紙

裏面白紙

五十鈴川改修費内訳

二	年度		
一	総額		
六四〇〇〇	工事費	内	
六一〇〇〇	事務費	訳	
三三〇〇〇	国費	分	
四四〇三三三	地方費	内	
二〇三六六七	備	考	
三三三	縣		

備考

分担金ハ工事費ノ三分ノ一

五十鈴川改修計画要項

位置 三重縣 宇治山田

流域面積 山地 七六 平地 八五

計

灌溉面積

水害面積

改修区域

改修計画

正岸 三重縣 宇治山田 市以下海に至る
 五十鈴川 八国民堂前、的、皇太神宮、神域ヲ流域中ニ
 含ミ御手洗ノ源流タル特殊事情ヲ有スル河川ナリ近年屢々
 受クル洪水ニテ水源地方ノ荒廢甚シク而モ河積ノ狭少堤防
 ノ脆弱ト相俟テ破壊冠水ノ災害ヲ蒙ル事多クナリ
 此ノ対策トシテ上流部ニテ所ノ土砂行止用堰堤ヲ築築造スルト
 共ニ宇治橋以下新堤ノ築造既設堤防ノ修築河道ノ整理

河幅

堤防

ヲ行ニテ洪水ノ疏通ヲ計リ河岸崩壞ノ虞ヒル部分ニハ更
 大護岸ノ施シ堤防及河岸ノ安固ヲ期セントス
 尚依川ノ締切ヲ施行シ耕池開拓ニ寄與セントスルベシ
 凡五米及至一六〇米
 天端幅四米表向表向表割コ以テ築設シ天端余餘高ハ一三米
 乃至一五米トシ尚地盤脆弱ニシテ箇所ニハ適當ナル小段ヲ附ス
 ルベトス

流量

工費

上流 毎秒 七四〇立方米
 下流 一〇三〇
 六百八拾萬圓
 昭和二十一年度ニ於テハ第一期工事一部ヲ 六十萬圓
 以テ施スベトス

其効果

一 不改良之害 竣工ノ後ニハ一千ニノ後水並ニ六〇〇ヘクタルノ新地

ニ於テハ深水地帯ヲ除ク事ヲ得ルニ依リ年々災害復旧費並ニ

新地地帯其額諸損耗ニ基ク水害損失ヲ免シ農作物生産

額ハ著シク増加ス

三 派川ノ締切ニ至ル 廣川敷四〇ヘクタルハ将来新地地帯トナリ得ル

三 土砂ノ流出ヲ軽減スルニ至リ河床ヲ安定シ以テ内河御多

洗ノ清澄ヲ維持ス

四 飲道 遊樂等ノ重要ナルハ通商ノ安全ヲ確保ス

五 各種産業ノ發達 衛生狀態ノ改善 沿岸住民ノ福利

ナル利益莫大ニ

附子園後... 内閣府

鳴尾海岸堤防築造費年度割表

ニムツ	總額		
五〇〇	二十年度		
二〇〇	二十一年度		
	備		
	考		

裏面白紙

鳴尾海岸堤防築造工事費豫算

一金三、五〇〇、〇〇〇圓

内

一、九六六、八〇〇圓

二、六〇〇、〇〇〇圓

九八〇、〇〇〇圓

一、〇〇〇、〇〇〇圓

二、〇〇〇、〇〇〇圓

一、四〇〇、〇〇〇圓

總額

本工事費

附帶工事費

船舶及機械費

測量費

營繕費

雜費

裏面白紙

工事概要

海岸堤防延長
表護岸 石積
防浪壁コンクリート
堤上舗装コンクリート
根固捨石
附帯工事(滑走路)

一、一四米
六、九六四四米
一、一四米
一、一四米
一、四一九立米
一、〇〇米

裏面白紙

鳴尾海岸堤防築造費要求理由

本堤防築設地先ハ昭和十八年海軍鳴尾飛行場トシテ施
設セルニ當リ舊堤防タル前海防潮堤ヲ撤去シ新堤防ヲ
築設シタルモ施設不完全ナリシタメ昭和十九年九月高潮ニ
因リ災害ヲ被リ更ニ昨二十年九月ノ颱風ニハ前回ニ勝ル大災
害ヲ被リ鳴尾村大半ハ浸水ノ大被害ヲ惹起セリ
然レ本飛行場ハ終戦ト共ニ大蔵省ニ引継ガレ現在進駐軍
ニヨリ使用セラレツアルモ海岸堤防ノ完全築造ハ飛行場防
護上ハ勿論國土保全上且又民生安定上緊急タルヲ以テ
進駐軍出先當局ト打合せ築造位置ヲ後退シ海岸堤
防ヲ築設セントスルモニシテ之ガ所要經費ヲ要求セン
トス

昭和三十年災害北海道道路補修費其他災害復舊ニ要スル經費

一級費	款	項	金額	算入内	備考
災害未事業費			二、三二九、〇〇〇		此款別記ノ進

裏面白紙

23

裏面白紙

昭和三十年次災害北海道道路橋梁其他災害復旧費年度別内訳

(十一月次災害7金(全額))

目	額	昭和三十年度	昭和三十一年度	備考
総額	七九〇、五〇〇	五七六、〇〇〇	二一三、九〇〇	
災害土木事業費	二九〇、五〇〇	五七六、〇〇〇	二一三、九〇〇	
事務費(雑費)	一、七〇〇	三二四、七六六	一三二、二五五	
工事費	二七四、一六九	五四一、五三四	二一九、七六四	
道路	八七、七八九	七六、六〇〇	七九、一八八	
橋梁	二三三、八〇五	六六、六五四	一三七、一七一	
河川	一四九、七〇〇	四〇、〇二七	一〇九、六五三	
港湾	一四二、六八〇			

昭和二十一年通府縣火災損失費額及受入経費

款	項	金額	算出割合
一般費	火災損失費補助	1,272,210	
	火災損失費補助		

別紙年度別・通府縣火災損失費額及受入

裏面白紙

昭和二十年 八卷 土木部 國庫補助 財源別表

地方	二〇	二一	二二	二三	二四	備考
北海道	1,000,000	1,500,000	2,000,000	2,500,000	3,000,000	
東北	1,200,000	1,800,000	2,400,000	3,000,000	3,600,000	
関東	1,500,000	2,200,000	2,900,000	3,600,000	4,300,000	
中部	1,800,000	2,600,000	3,400,000	4,200,000	5,000,000	
近畿	2,000,000	2,900,000	3,800,000	4,700,000	5,600,000	
中国	2,200,000	3,200,000	4,200,000	5,200,000	6,200,000	
四国	2,400,000	3,500,000	4,600,000	5,700,000	6,800,000	
九州	2,600,000	3,800,000	5,000,000	6,200,000	7,400,000	
支那	3,000,000	4,200,000	5,400,000	6,600,000	7,800,000	
南洋	3,500,000	4,800,000	6,100,000	7,400,000	8,700,000	
海外	4,000,000	5,400,000	6,800,000	8,200,000	9,600,000	
合計	20,000,000	28,000,000	36,000,000	44,000,000	52,000,000	

地方	二〇	二一	二二	二三	二四	備考
北海道	1,000,000	1,500,000	2,000,000	2,500,000	3,000,000	
東北	1,200,000	1,800,000	2,400,000	3,000,000	3,600,000	
関東	1,500,000	2,200,000	2,900,000	3,600,000	4,300,000	
中部	1,800,000	2,600,000	3,400,000	4,200,000	5,000,000	
近畿	2,000,000	2,900,000	3,800,000	4,700,000	5,600,000	
中国	2,200,000	3,200,000	4,200,000	5,200,000	6,200,000	
四国	2,400,000	3,500,000	4,600,000	5,700,000	6,800,000	
九州	2,600,000	3,800,000	5,000,000	6,200,000	7,400,000	
支那	3,000,000	4,200,000	5,400,000	6,600,000	7,800,000	
南洋	3,500,000	4,800,000	6,100,000	7,400,000	8,700,000	
海外	4,000,000	5,400,000	6,800,000	8,200,000	9,600,000	
合計	20,000,000	28,000,000	36,000,000	44,000,000	52,000,000	

七

新 縣 名	縣 工 事 費	補 助 費	計 費	地 租 年 額	全 土 之 分 割	農 業 費	林 業 費	水 道 費	其 他 費
青 森	三 四 八 六 五 七	五 〇 五 五 三	三 五 五 二 一	三 五 五 五 四	一 〇 一 五 九 三	一 五 四 八 〇 〇	八 九 五 〇 〇 〇	八 九 五 〇 〇 〇	八 九 五 〇 〇 〇
岩 手	八 一 一 四 三 八	二 九 九 九 六	五 九 六 〇 〇	四 〇 〇 二 九	一 四 五 四 八	九 六 七 〇 〇 〇	六 四 五 一 七 〇	六 四 五 一 七 〇	六 四 五 一 七 〇
秋 田	八 八 五 五 七	七 四 一 五 六	三 九 七 九 五	九 九 七 一 八 〇	一 七 〇 三 九 九	九 八 三 〇 〇 〇	六 五 四 八 九 〇	六 五 四 八 九 〇	六 五 四 八 九 〇
新 潟	三 六 五 七 〇 〇	五 九 九 〇 〇	九 五 五 〇 〇	一 三 五 五 〇 〇	三 八 七 三 九 四	一 五 〇 一 〇 〇 〇	九 三 三 〇 〇 〇	九 三 三 〇 〇 〇	九 三 三 〇 〇 〇
富 山	三 〇 七 六 一 三	六 六 九 〇 七	一 三 四 七 〇 〇	五 九 一 九 三 六	一 六 九 一 四 〇	一 五 〇 八 〇 〇 〇	一 七 五 七 〇 〇 〇	一 七 五 七 〇 〇 〇	一 七 五 七 〇 〇 〇
福 井	六 五 四 〇 二	七 七 五 〇 八	七 〇 八 五 三	六 八 九 九 八	一 三 三 九 三	六 七 〇 六 〇 〇 〇	四 四 九 七 〇 〇 〇	四 四 九 七 〇 〇 〇	四 四 九 七 〇 〇 〇
山 梨	一 一 三 七 三 九 一	四 〇 六 三 四 三 三	六 九 四 〇 八	一 四 九 五 一 五	八 七 五 五 五	一 四 〇 八 〇 〇 〇 〇	九 九 〇 八 〇 〇 〇	九 九 〇 八 〇 〇 〇	九 九 〇 八 〇 〇 〇
長 野	五 五 二 四 一 一 五	四 〇 〇 〇 〇	一 六 五 三 〇 〇	四 一 三 六 三 九 六	六 七 一 〇 七	四 一 九 五 八 五 五	三 七 三 九 七 三 三 六	三 七 三 九 七 三 三 六	三 七 三 九 七 三 三 六
岐 阜	一 一 五 八 四 五 八	五 八 五 五 〇	五 〇 一 五 九 九	一 六 六 六 五 三 三	三 五 三 五 九 四	一 五 〇 五 〇 〇 〇 〇	八 三 〇 〇 〇 〇 〇	八 三 〇 〇 〇 〇 〇	八 三 〇 〇 〇 〇 〇
靜 岡	一 一 五 八 九 八 五	九 八 五 〇 〇	五 〇 九 五 九 九	一 三 八 〇 〇 〇 〇	一 〇 一 三 九 八	一 五 〇 八 〇 〇 〇 〇	八 四 九 八 九 〇 〇	八 四 九 八 九 〇 〇	八 四 九 八 九 〇 〇
兵 庫	八 九 九 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇	六 四 八 三 八	一 五 〇 〇 〇 〇 〇 〇	七 五 九 〇 〇 〇 〇	七 五 九 〇 〇 〇 〇	七 五 九 〇 〇 〇 〇
鳥 取	一 五 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	七 七 六 四 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
島 根	四 〇 〇 〇 〇 〇	一 五 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
岡 山	四 〇 〇 〇 〇 〇	一 五 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
廣 島	八 五 〇 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇 〇 〇	七 九 六 一 〇 〇	一 一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
山 口	六 〇 〇 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇 〇	六 七 七 三 一	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
徳 島	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	九 五 五 三 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
香 川	四 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	八 八 四 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
愛 媛	四 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
高 知	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇	九 八 七 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

裏 面 白 紙

縣名	工費	村費	計費	租年額	國庫補助額
鹿見	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
宮城	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
山形	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
福島	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
茨城	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
栃木	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
千葉	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
神奈川	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
石川	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
愛知	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
三重	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
滋賀	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
京都	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
大阪	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇
奈良	一、一七、三九	一、〇、〇八	二、一七、四七	八、二、〇六	一、八、九、九〇

裏面白紙

行縣名	縣工事費	命田	田租	雜費	賞	計及管主不費	地租年額	全上ノ七分二	全上ノ三分七	國庫補助額	
和歌山	一、四九、九〇〇	一、四、七〇〇	四、四三三	七、八〇〇	一、五、八〇〇	八、八八七	三、二八〇	一、三三、四八〇	一、四九、一七二	九、四、二〇一	九、三、六〇〇
島根	八、八八、四〇〇	一、〇、五三〇	一、〇、五三〇	九、三、七〇〇	二、五、五〇〇	一、九、〇、七三三	八、八、七〇〇	一、九、〇、三三三	一、九、〇、五九三	一、三、九、九〇〇	一、三、九、九〇〇
熊本	一、三、六、八〇〇	一、〇、三、一〇〇	一、〇、三、一〇〇	八、七、七〇〇	一、九、〇、七三三	一、九、〇、七三三	一、〇、三、四〇〇	三、七、八〇〇	一、〇、七、四四三	一、一、一、六三六	一、一、一、六〇〇
計	六、九、四、八〇〇	一、五、五、三〇〇	一、五、五、三〇〇	一、八、〇、〇〇〇	一、八、〇、〇〇〇	一、八、〇、〇〇〇	一、〇、〇、〇〇〇	九、一、七、三、八〇〇	九、〇、〇、〇〇〇	一、〇、〇、〇〇〇	一、〇、〇、〇〇〇

外北端邊分

一、〇、〇、〇〇〇

裏面白紙

昭和三十年災害土木工事市町村組合工事補助費計算書

府縣名 検査工費 地租額 全上 十分ノ二 超過額 全上 十分ノ七 補助額

青森	七三六九八九	六六七八四	一三三三五六	七三三六三三	五〇六五四三	五〇六五四三
岩手	一八六八四一九	五九四七八	一八八九五	一八五六五三四	一三九九五六六	一三九九五六六
秋田	一〇九八、一六六	一九四、一四四	三八八、八	一、五九三三八	七四一、五三六	七四一、五三六
新潟	六八六、九四七	二三八、二五六	四七六、六一	六三九、三九五	四四七、五〇六	三六九、八六四
富山	二五八、八六六	一三四、八八五	二四九、三七	一、二二三、九九九	七九三、七七	七八六、九〇七
福井	一三〇、〇三〇	四七九、五一	九、五九〇	一、〇、四四〇	七七三、〇八	七七三、〇八
山梨	四四〇、五三三	二四四、八四〇	二八九、九六八	四三七、六三三	三、〇六三、四三三	三、〇六三、四三三
長野	六六七、九七三	四四九、六三九	八九九、二五	六、五八九、三四八	四六一、三、五四三	四六一、三、五四三
岐阜	八九六、八六	一一五、一一〇	二五、〇三四	八七一、一六二	六〇九、八一三	五八三、九二〇
静岡	一、四六九、三九三	三三三、七四九	六六、七四九	一、四一、六四四	九八八、一五〇	九八八、一五〇
兵庫	三三三、七六五	一八六、一五四	三七三、三〇九	三四五、二四四	三四一、六、八一三	二三四、六、五九三
鳥取	一、九八八、七四四	一一七、九一六	二五、五八三	一、九六五、〇六一	一、三七五、五四二	一、三七五、五四二

鳥根	二、五九、一、二六	二五九、六六二	五、九三三	二、一五、七、三三二	一五、〇五五、〇五五	一五、〇五五、〇五五
岡山	六、七、二、八〇	三、二、一、四二	六、五、三、三八	七、四、一、八七八	五、二、〇、九、三三四	四、四、四、五七三
広島	七、三、四、二、六	五九三、三〇、五	一一三、一八八	五、九、四、五、四三九	三、三、二、〇、八、七三二	一、八、七、三、八七
山口	五、六、一、〇、八、五、七、三	五、六、〇、九、四、三	二九、八、八、四	八、五、九、九、四、四	四、一、六、一、七、四〇〇	三、九、〇、五、三、三三八
徳島	八、八、九、七、九、八	一四九、七、七、三	二九、八、八、四	八、五、九、九、四、四	六、〇、一、九、六、〇	六、〇、一、九、六、〇
香川	八、六、三、四、二、五	九四、〇、六、八	一八、八、一、三	二、一、八、四、四、〇、七	一、五、三、九、〇、八、四	四、三、三、七、〇、二
愛媛	一、三、三、九、七、九、五	一、四、〇、七、〇、二、七	七、四、七、四、七	一、一、九、三、三、〇、八一	八、三、四、六、一、五、六	八、〇、六、五、一、五、〇
高知	二、五、三、〇、〇	一、二、八、七、三	二、五、七、四	二、五、〇、四、三、六	一、七、五、三、九、八	一、七、五、〇、八、九
福岡	一、〇、六、二、六、七、三	七、七、八、五、七、〇	一、五、七、一、四	一、一、三、一、六、七、六、六	七、九、三、一、七、三、六	七、三、九、一、二、六、九
佐賀	六、四、八、三、四、六	一、四、五、三、一	二、九、〇、六	六、四、五、三、四、〇	四、五、一、七、三、八	三、二、四、一、一、三
大分	六、四、五、九、五、八、五	三、六、六、一、八、七	七、三、二、三、七	六、三、八、六、三、四、八	四、四、七、〇、四、四、三	四、四、七、〇、四、四、三
宮崎	二、二、四、二、七、〇、九	一、五、三、五、七、二	三、〇、七、一、四	二、二、一、九、九、五	一、五、四、八、三、九、六	一、五、四、八、三、九、六
鹿児島	二、八、五、九、三、四、七	二、五、七、八、二、八	五、一、五、六、五	二、九、九、九、六、五、二	三、〇、七、一、七、五、六	一、九、六、一、七、一、八
計	二、三、六、八、五、三、九、〇、四	七、七、〇、三、八、〇、〇	一、五、四、〇、七、五、〇、〇	二、三、三、四、一、九、四、二、〇	一、六、三、八、八、四、五、八、二	一、五、七、五、一、一、三、六、四

府縣名		検査工費	地租額	全上 十分ノ二	超過額	全上 十分ノ七	補助額
宣城	一三〇、四五〇	一八、六六三	三七、三三二	一三、六七一	八、八七〇	八、八七〇	八、八七〇
山形	一七、四八七	七、〇二五	一四、〇〇五	一、六〇八	八、二五七	八、二五七	八、二五七
福島	四七、五七六	三、六六七	七、三三四	四、八四三	三、七九〇	三、七九〇	三、七九〇
茨城	七七、八一九	一〇、五五一	二一、〇〇二	七、七七一	五、三〇〇	五、三〇〇	五、三〇〇
栃木	一五、九九六	一四、二三四	二、八四六	一、三一五	九、二〇九	九、二〇九	九、二〇九
群馬	三〇、四九九	五、四五一	一〇、〇九〇	三、三四九	二、三三三	二、三三三	二、三三三
神奈川	八五、一七三	九、〇九七	一八、〇〇一	八、三三六	五、八三三	五、八三三	五、八三三
石川	二四、八八四	四、六七二	八、一三四	二、〇七〇	一、六八五	一、六八五	一、六八五
愛知	四七、三五四	三、八九九	七、七八九	四、八八七	三、四三〇	三、四三〇	三、四三〇
三重	一三、九四三	二〇、一六三	四、〇三六	一、三五二	九、四七四	九、四七四	九、四七四
滋賀	一七、〇〇〇	三七、三	七、四	一、九二六	一、一八四	一、一八四	一、一八四
京都	一〇、五二六	八、六八八	一七、三三三	一、〇三五	七、二四九	七、二四九	七、二四九
大阪	七〇、九四七	一〇、〇二五	二〇、〇五一	六、八九四	四、八三九	四、八三九	四、八三九
奈良	二二、一九五	三、六九五	七、三九九	二、四九三	一、五〇一	一、五〇一	一、五〇一
和歌山	二、九四八	六、八四七	一、三六九	二、七二四	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九
長崎	一五、八一〇	五、三六七	一〇、四七三	一、五〇七	一〇、五五三	一〇、五五三	一〇、五五三
熊本	七、七五三	六、三四三	一、二六九	七、五八八	五、三一一	五、三一一	五、三一一
合計	一、二六九、八九五	一、二〇、六三七	二四、一、三六八	一、二六、一八七	八、八八八	九、二〇〇	九、二〇〇
合計	二、三九、五五七	八、九一〇	一、七八二	三、四八七	一、七二七	一、七二七	一、七二七

裏面白紙

災害土木事業助成ニ要スル経費	款	一般費
	項	災害対策補助
	金額	八九〇、〇〇〇
	摘要	災害土木費補助 河川費補助

備考
別紙年度割、通し豫算外契約ヲ要ス

災害土木事業助成費年度割

府縣名	河川名	總額	一	二	三	補助率
山口	島田川	八二四、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	三九〇、〇〇〇	二七四、〇〇〇	二分之三補助
島根	斐伊川	五五二、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	一八四、〇〇〇	一九八、〇〇〇	"
愛媛	高松川	一四五、〇〇〇	一四五、〇〇〇			"
岡山	香々美川	六八、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇八、〇〇〇	"
鳥取	加勢蛇川	二五一、〇〇〇	一二五、〇〇〇	一三五、〇〇〇		"
計	小河川	三三七〇、〇〇〇	八九〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	六八〇、〇〇〇	

裏面白紙

裏面白紙

災害土木事業 要助成工事費調

府縣名	河川名	工事延長	総工費	箇所	金額	要助成費	摘要
山口	島田川	四、六〇〇	三九一、〇〇〇	三一	三三八、〇四四	一六三九、五八六	
島根	斐伊川	三、三〇〇	二九一、六〇〇	一三	一八〇、八四六	一一五、一五四	
愛媛	高松川	二、五〇〇	五五四、〇〇〇	一〇	二六三、四〇四	二九一、〇〇〇	
岡山	香々美川	三、七四九	六一七、八〇〇	一五	九六、九五九	一一六、〇四九	
鳥取	加勢野川	二、五〇〇	九八〇、〇〇〇	四	四七六、六六〇	五〇三、三四〇	
計			一、〇、五八、四〇〇	七三	五七九、三二五	四七四、五二九	

災害土木事業要助成河川被害調

府縣名	河川名	被害地帯 延長	被害 延長	被害 延長	摘要
山口	島田川	八〇五	四〇〇	九〇〇	死傷五四 流失浸水家屋一五四五
島根	斐伊川	三〇〇	一	一四四	三三
愛媛	高松川	八九〇	二〇〇	二五〇	七〇〇
岡山	香々美川	三八五	一	一一一	五五二

裏面白紙

災害土木事業助成費要求理由

本年八月以来颱風豪雨連續シ要國庫補助復舊地方ハ道四十二府
縣ニ及ヒ復舊費總額ハ九億六十餘萬圓、巨額ニ達シ河川堤防護
岸等ノ破損連續シ區域農耕地ノ流失、埋没ニ至テ鐵道ノ路ノ長期
不通等ノ嚴重増産生産増強等ニ及ボセルヲ影響ハ洵ニ甚大ナリ
想レテ近年來、水源山地ノ濫伐濫掘ニ依リ荒廢ハ愈々甚クテ治
水ニ惡ハニ堪ヘザル現狀ナリ
之カ應ニ對策ハ早急實施ヲ要アルニ終戰後、諸狀勢ニ鑑ミ
被害最ニ激甚ニシテ災害地ノ中心ヲ爲セル然モ食糧増産上
放置シ得ザル左記五河川ヲ選定シ災害復舊工事ノ早急
完成ヲ期スルト共ニ更ニ工費ヲ追加助成シ改良施行ヲ圖リ以テ
復舊ノ完璧ヲ期セントス

記

備前川

(山口縣)

斐伊川

(島根縣)

高松川

(愛媛縣)

香々美川

(岡山縣)

加勢蛇川

(鳥取縣)

災害対策砂防費補助ニ要スル経費

款	項	金額	算出内訳
一般費	災害対策補助	一、二〇〇,〇〇〇	災害対策砂防費補助

備考、別紙、通、豫算外契約ニ要ス

裏面白紙

計	大分	福岡	愛媛	島根	山口	広島	岡山	長門	縣	總
三九 二七 〇〇 〇〇	五八 〇〇 〇〇 〇〇	三〇 〇〇 〇〇 〇〇	四二 〇〇 〇〇 〇〇	三〇 〇〇 〇〇 〇〇	四七 〇〇 〇〇 〇〇	四七 〇〇 〇〇 〇〇	一八 〇〇 〇〇 〇〇	二七 〇〇 〇〇 〇〇	三〇 〇〇 〇〇 〇〇	二〇 〇〇 〇〇 〇〇
一八 〇〇 〇〇 〇〇	三〇 〇〇 〇〇 〇〇	一五 〇〇 〇〇 〇〇	二二 〇〇 〇〇 〇〇	二五 〇〇 〇〇 〇〇	二〇 〇〇 〇〇 〇〇	三〇 〇〇 〇〇 〇〇	三〇 〇〇 〇〇 〇〇	二〇 〇〇 〇〇 〇〇	一五 〇〇 〇〇 〇〇	二〇 〇〇 〇〇 〇〇
一五 二二 一八 〇〇	二二 二八 一〇 〇〇	一四 一八 〇〇 〇〇	一九 二七 〇〇 〇〇	一四 二五 〇〇 〇〇	二二 二七 〇〇 〇〇	三三 二七 〇〇 〇〇	三三 二七 〇〇 〇〇	一〇 二八 〇〇 〇〇	一八 二七 〇〇 〇〇	一三 二七 〇〇 〇〇
一六 二八 一八 〇〇	二四 二二 〇〇 〇〇	三九 〇〇 〇〇 〇〇	二一 二七 〇〇 〇〇	二〇 二〇 〇〇 〇〇	二二 二五 〇〇 〇〇	三三 二五 〇〇 〇〇	三三 二五 〇〇 〇〇	一八 二〇 〇〇 〇〇	二二 二五 〇〇 〇〇	二二 二五 〇〇 〇〇

災害対策砂防工事費年度別内訳

備
工費、三分、二、〇〇〇

裏面白紙

災害対策補助砂防工事計畫說明書

昭和二十年九月 十月ニ於ケル豪雨颶風ニ依ル水害ハ殆ド全國府
縣ニ亘リ之ガ被害ハ災害後舊土木費ノミニテ九億圓ノ巨額ニ達ス
之ヲ通觀スルニ山腹ニ無数ノ崩壊ヲ生ジ爲ニ起レル土石流ハ流下ス
ルニ從ヒ或ハ山脚ヲ崩シ或ハ河岸ヲ缺壞セシメテ益々其ノ成ヲ
増シ遂ニ下流ニ於テ人家ヲ埋塞又ハ流失或ハ河床ヲ高メテ耕地ヲ
埋没流失堤防ヲ破リ或ハ溢流シテ廣範圍ニ亘リ氾濫ヲ生ズル等
各地ニ言語ニ絶スル慘害ヲ招ケルモノニシテ崩壊ハ其ノ大部分ガ明ニ
戦前ヨリ引続ケル森林ノ過伐及戦時中ニ於ケル松根採取跡
地ノ放置ニ起因セルモノト云フベク此儘ニ放置スル時山崩壊或ハ河
岸山脚ニ於ケル致壊ハ益々増大シ今後連年ニ亘リ災害ヲ繰返スハ
必ズト云フベシ

此處ニ今回ノ暴風雨ニ對シ六甲山系既設砂防工事ガヨク効果ヲ
發揮シ神戸市地ニ阪神地方ニ何等認ムベキ災害ナカリシ狀況ニ
鑑ミ長野 兵庫 岡山 廣島 山口 島根 愛媛 福岡 大分各
縣下山地ノ荒廢著シキ地方ニ對シテ本工事三年継続ヲ計畫シ
其ノ補助額三三七〇〇〇〇圓ノ内不取償二十一年度ニ於テ長野縣外
六縣ニ對シ一〇〇〇〇〇〇圓ヲ補助シ以下災害ノ増大ヲ未然ニ防止スルト
共ニ下流人家垣ニ耕地ノ復舊ニ資シ食糧増産ニ寄與セントスルモノ
ナリ

款 一般費	項	金額	算出内訳
災害土木事業費	五六六五〇〇	工部省用紙年度割、通 継続費設定等入	

昭和二十年災害直轄河川災害復舊要入経費

裏面白紙

直轄河川災害復旧工事費請求書受理理由

恩怒川外平河川は本年九月三日一日、台風被害、其結果中ハル
 出カリテ、其ノ結果、現地ニ被害、其結果、其ノ結果、其ノ結果、
 最モ、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、
 崩壊、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、
 運送、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、
 必要ニテ、既ニ、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、
 以テ、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、其ノ結果、

恩怒川
 多摩川維持
 小矢部川

七六四〇〇〇
 七八七〇〇〇
 四三四〇〇〇
 二〇四〇〇〇

手取川
 六曾川下流管補
 木曾川上流
 天龍川
 安倍川
 野野川
 那賀川
 六田川
 旭田川
 建代川
 子野川
 大野川
 大野川

六三〇〇〇
 一三九〇〇
 八五五〇〇
 二二〇〇〇
 八二〇〇〇
 二五〇〇〇
 一七〇〇〇
 八七五〇〇
 一九〇〇〇
 二四〇〇〇
 六四〇〇〇
 三三〇〇〇
 一六〇〇〇
 二九〇〇〇
 一〇九〇〇
 三三〇〇〇
 六六五〇〇

福岡縣道路橋梁其他災害復舊費補助要綱経負

一般費	款	項	金額	算出内訳
災害対策補助			一四五三〇〇	内訳別紙、通中

裏面白紙

福山縣災害復旧補助内訳

種別	工事費	全上、補助	備考
縣工事	五九二、七二七	五九二、七二七	
道路	三五、〇六六	三五、〇六六	
橋梁	一〇、四一五	一〇、四一五	
河川	二三一、二三六	二三一、二三六	
町村工事	八六〇、一二二	八六〇、一二二	
道路	一、八六二	一、八六二	
河川	八四七、二六〇	八四七、二六〇	
計	一、四五二、八三九	一、四五二、八三九	

裏面白紙

災害復舊工事費調書

◎印ハ緊急工事

縣工事
道路之部

河川名	工種	工事長	工事費	備考
山形川	河川工事	三二五	一八七、七五	二、八、四、内、急、工、事
田川	河川工事	一、〇〇〇	一六三、三〇	
計		一、三二五	三五〇、〇五	

橋梁之部

河川名	工種	工事長	工事費	備考
田川	橋梁工事	二、九	一、四一五	
計		二、九	一、四一五	

河川之部

河川名	工種	工事長	工事費	備考
山形川	河川工事	二、八	二、三二、三六	
計		二、八	二、三二、三六	

村工事

道路之部

河川名	工種	工事長	工事費	備考
田川	河川工事	二、五	一、五二、一四	
岩淵	河川工事	一、五	二、二七、〇〇	
鬼凡前	河川工事	一、二	三、〇〇、〇〇	
計		五、二	五、七九、一四	

河川之部

河川名	工種	工事長	工事費	備考
河内川	河川工事	八、五	三、六六、五五	
深倉川	河川工事	二、六	八、四七、二六	
計		一一、一	一四、一四、八一	
合計		一一、九	一四、五二、八一	

被害、原因及概況

一、原因

省線田川郡添田町大字落合ニ又彦山線丸山隧道延長一五〇米
内ニ日本軍火藥五三五號集積シアリシヲ聯合軍接收上之ケ燒却
理ヲ為サントシ本年工月十二日午後五時五分シタル所程ナリ爆發
ヲ起シ
隧道ヲ吹キ飛バシ噴火ト共ニ土中ヲ飛散ヒシノ附近ノ人家、田畑
山林ヲ埋没シホエ工作物亦甚大ナル被害ヲ蒙ル所トナレリ

二、被害概況

被害戸数ニ二戸ニシテ埋没九戸倒壊三戸ニ達シ罹災者總數四六二
名内死者一四六名負傷者一〇八名田畑埋没セルモノ二町七反七畝歩
山林ノ燒失崩壊ニ二町歩ニ及ブ大被害ニシテ被害區域ハ爆心ヨリ
直經約ニ料ニ亘リ隧道ヲ繞リテ流レタル彦山川深倉川ハ埋没
ノ為埋塞ナレテ湛水シ(水深西米)府縣道添田日田線ノ延長六

〇〇米、今猪膝彦山線延長ニ〇〇米泥中ニ没シ附近ハ全ク山
容ヲ改ムルニ至レリ

而シテ埋塞土砂ノ多量ナルト山林ノ崩壊ニ鑑ミ降雨時ニ於ケル
下流ニ及ボス影響甚大ナルモノト認メラル

裏面白紙

經同縣道路橋梁其他災害復舊費補助要公此證費要求理由
 本年十一月二十二日福岡縣田川郡添田町大字落合ニ又省線彦山線
 志山隧道内ニ於テ日本國火藥ヲ聯合軍ニ於テ接收燒却中爆発
 ヲ惹起シ附近ニ將ニ範圍ニ甚大ナル被害ヲ與ヘテ不ニ作物亦破
 壞埋没サレル所トナリ之ヲ復舊ハ四思補ニ附スル能ハサルニ鑑ミ
 國庫ニ於テ全額補助ヲニ遠テ復舊ノ事ヲ施行シ以テ終戰
 處理ノ圓滑ヲ圖リ地方民生安定ニ資セムトス

裏面白紙

災害土木工事指導監視日ニ要スル経費

款	項	金額	算出内訳
一般	臨時諸費	六三〇〇日	内訳別紙通

昭和二十一年三月一日現在土木工事指導監視員に要スル経費ニ付テハ
 臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ
 臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ
 臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ
 臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ臨時諸費ニ付テハ

裏面白紙

災害救助事務指導監督ニ要スル經費要求理由

府縣災害之不振事ハ累年増加シ来ルモ本年ハ被害ハ未ダ有、巨額ニシテ國庫補助ヲ要スル復舊費ノミニテモ九億十

万圓、巨額ニ達シ又復舊ノ所ハ五七二個所ノ多キニ及ブ而シテ之ノ原因ハ數年來ノ水源山地^濫掘^伐ニ因ル所^種種^メテ顯著ニ

シテ爲^スル被害ハ今後相当長期ニ亘リ繼續スルニトシテ豫想カレ尚此、儘難治スルニ於テハ被害ハ益々増大シ来タルヘク治水根本

對策ト實施ノ指導ハ極メテ緊要ナリ斯ル實情ナルヲ拘ラズ災害檢査ハ短期少數ノ係官ヲ以テ實施スル外ナク徹底セル實施上、指

導ニ欠クル所多クテ以テ迅速施行ヲ要スル災害復舊工事ニ治

永上危惧存スルノミナシニ實施、迅速ヲ期シ難ク仍テ必要最

少限度ノ職員ヲ配シ適切ニ指導ト迅速ナル施行ニ遺憾ナカ

ルニシテ仍テ之ガ必要ニ對シテ是レニ對シテ

地理調査所移轉ニ要スル經費

款	臨時部	一般費	項	金額	算出内訳
			臨時部要費	四二五、〇〇〇	地理調査所移轉諸費
					赴任旅費 一、九〇〇、〇〇〇圓
					通達運搬費 三六、〇〇〇圓

裏面白紙

區分	總額	所要額	備考
本人分	一〇七、三四三・六〇	六一、六一七・一〇	
鉄道賃	一一、一九二・六〇	一五、八九〇・六〇	
日當	一、二五〇・五〇	六、二五三・三五	總額ノ二分ノ一
着後手當	八、三九二・五〇	四、一九六・三五	
移轉料	八、一八一・〇〇	四、〇九〇・五〇	
家族移轉料	五、五二七・五〇	四、七三六・三五	
鉄道賃	三、九五六・〇〇	三、九五六・〇〇	
日當	一、五六二・五〇	七、八〇一・三五	總額ノ二分ノ一
着後手當			
計	一六二、五三一・一〇	一〇九、〇三三・五〇	

区内譯

裏面白紙

赴任旅費算出内譯

計	信		幕		任		勤		区	
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
一六	二一	一八〇	四四	五二	一一	一六	一〇	一	一	一
一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
一四〇〇	一六五〇	一四〇〇	一六五〇	一四〇〇	一六五〇	一四〇〇	一六五〇	一四〇〇	一六五〇	一四〇〇
三〇〇〇	三七〇〇	三〇〇〇	三七〇〇	三〇〇〇	三七〇〇	三〇〇〇	三七〇〇	三〇〇〇	三七〇〇	三〇〇〇
一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇
		七四六〇	七九八〇	一九三三〇	一九九二〇	二一四八〇	二二九三〇	二四九五〇	二六〇〇〇	二七四六〇
一八四〇〇	一八七〇〇	二五八六〇	二六六八〇	四八三九〇	四九四八〇	六〇九四〇	六二五八〇	七八四一〇	八〇〇〇〇	八一六〇〇
一六二五三一〇	三九四四〇〇	四六五四八〇〇	一、七三九、二〇〇	二、一六二、一八〇	二、五九四、一七六〇	三、〇二七、四〇〇	三、四六〇、八〇〇	三、八九四、一〇〇	四、三二五、八〇〇	四、七六〇、一〇〇

裏面白紙

裏面白紙

運送費内譯

品名	貨	車	貨	物	日	動	車	人	夫	賃	率	所	要	金	額
運送費	八	一七	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
什居備品運送費	二	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
配荷積卸分	八	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
残積運送費	二	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
什居備品運送費	二	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
鐵道運賃分	一	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
一七七貨車	一	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
一二七貨車	一	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
運送材料	三	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一
計	三	一	二	二	二	二	八	一	三	六	八	八	一	一	一

裏面白紙

地理調査所移轉理由

地理調査所ハ現在長野縣在来所外坂田ニアルモ同地ハ寒冷ノ地ニシテ
 地理調査所ニ不適當ナル上ニ國民學校ノ教員舎ニ分散シ地圖調製
 二條能事ナシトミナス矣トノ思路ニ亦非常ニ圓滑ヲ欠ク実狀ニ
 付仍テ之ヲ適地ヲ訪色中ニ是ニ葉市福玉町元陸軍鐵車學
 校ヲ最モ適當ト認メ聯合會ノ推挙ノ結果之ヲ使用ニ付キ許可ヲ
 得タルヲ以テ速クニ移轉シ地圖調製ノ緊急要請ニ應ジントス

副次基盤突進調査ニ要スル経費

款 臨時部 一般費	項	金額	算入内訳
臨時調査費		六千〇〇〇	町課別紙通

255

裏面白紙

測地基準点調査ニ要スル経費内訳

科	目	金額	備考
一般費	臨時諸要務費	六五〇.〇〇	
	諸給與	六二〇.三五	
	内国旅費	三二六.一五	
	傭人料	二九四.二〇	
	測手	一八六.〇〇	日給二〇円 延一〇九三人
	人夫	七五.六〇	日給一二円 延六三人
	事務費	二九六.九五	
	通信費	三三.〇〇	
	器具購入費	二六.三五	

裏面白紙

裏面白紙

内國旅費内訳(全体計画)

已	分	員	數	單價	金額	備	考
録道賃	技師二寫	一	一三	三七四〇〇	四二、二六二	地理調査所ヨリ調査地尚平均八百料、往復	技師一三、技師一〇〇測年一八七計三〇〇人測地内移動年平均二回宛(三日料)
	測年三寫	一	八七	一二二〇〇	二、八一四		
車馬賃	技師五寫以上	一	五九	三三〇	一九、一七五	乙地方ハ宿泊料及日當車馬賃十料	
	六寫以下	一	〇〇	二七五	二七、五〇〇		
宿泊料	技師	一	一七	二一五〇	三、六一五	トス	
	測年	一	八九	一三二〇	二、八八八		
計					六八、三七一		

種目	数量	單價	金額	摘要
十字鋏	一	二五〇〇	四二五〇	
鎌	一	一五〇〇	二五〇〇	
鉋	一	二五〇〇	四二五〇	
スコップ	一	二〇〇〇	三〇〇〇	
巻尺	一	三〇〇〇	一〇〇〇	
鋸	一	四〇〇〇	六八〇〇	
計			二六、三五〇	

器具購入費内訳

裏面白紙

測地基準点調査ニ要スル豫算要求理由

本年一月十日聯合軍總司令部ヨリ測地基準点ノ調査並ニ復舊ニ關シ
左記ノ通命令有リタルヲ以テ本年度經費ヲ以テ直ニ調査ヲ開始シタル
之ノ調査ハ全國ニ亘リ然モ完成期限亦短年月ニシテ昭和二十一年度
内ニ全調査ヲ完了スルニアラザレバ期限内ノ復舊ハ至難タリ
然ルニ本調査ニ要スル經費八百三十萬三千四百四十一圓ヲ要スルモ本年
度ニ於テハ不取取六十五萬圓ヲ以テ緊急地点ヨリ調査ヲ實施セントス

記

- 一 昭和二十一年三月三十一日 名古屋平野及關東平野西半部
- 二 昭和二十二年六月三十日 四個ノ主要島嶼
- 三 昭和二十三年十二月三十一日 四個ノ島嶼
- 四 標石復舊

六

第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

出
来
。
中
止
の
要
り
別
紙
執
行
案
示
提
示
部
長
は
第
一
部
長
に
職
員
等
の
買
入
に
関
し
て
の
事
を
承
知
す
。
此
の
事
は
第
一
部
長
の
職
責
に
属
す
。
第
一
部
長
の
決
定
に
従
う
。
第
一
部
長
の
決
定
に
従
う
。
第
一
部
長
の
決
定
に
従
う
。

注
明
議
決
示
示

昭和二十五年四月三日

大臣

次官

局長

主査



昭和二十五年四月三日

日
文
書
庫
長
官
の
決
定
に
従
う
。
日
文
書
庫
長
官
の
決
定
に
従
う
。
日
文
書
庫
長
官
の
決
定
に
従
う
。

裏面あり

日	月	第
第	第	第
號	號	號
心受	送受	送受
月	月	月
日	日	日

石閣議決請於。

内閣總理大臣 乾

大臣

内務省

縣政府存続等臨時職員等設置制中止の件
ヲ以テ、^{ニ、ハ、ニ、}茲ニ、^{ニ、}公布スルニ、^{シ、}由ル。

市 名 市 一 兩 重

昭和 年 月 日

内務大臣

内務 大臣

勅令第 號

號

縣政府存続等臨時職員等設置制中止の件

大日本帝國政府

止又する。

第一條中、專任五百十四人、^ト專任五百十三人

ヲ改メ、

第一條の三甲、專任二千七百七十二人、^ト專任二千

百六十九人、^ト改メ、

第一條の四第一項中、專任五百三十人、^ト專任

任五百二十七人、^ト專任五百九人、^ト專任

東支那
三條
△一
△二
△三
△四
△五
△六
△七
△八
△九
△十
△十一
△十二
△十三
△十四
△十五
△十六
△十七
△十八
△十九
△二十
△二十一
△二十二
△二十三
△二十四
△二十五
△二十六
△二十七
△二十八
△二十九
△三十
△三十一
△三十二
△三十三
△三十四
△三十五
△三十六
△三十七
△三十八
△三十九
△四十
△四十一
△四十二
△四十三
△四十四
△四十五
△四十六
△四十七
△四十八
△四十九
△五十

五十九十二人 改正

附則

本令は昭和二十一年一月一日 より 施行 す

行 す

大日本帝國政府

理由

船員職業紹介に關する職權移譲に船員職業紹介所
及之に律及職員は昭和十八年九月戰時行政職權條例に
依り海軍大臣 より 海軍大臣に移管 せられ 居 た 故に、
年三月二十九日勅令第六十五號 に 依り て 海上 に 依り て 職
業 に 關 する 船員 の 職業 に 關 する 職權 を 海軍大臣 に 移管 す こと を 依
り て 職權 を 海軍大臣 に 移管 す こと を 依 り 職權 を 海軍大臣 に 移管 す こと を 依 り

都廳府縣等臨時職員等設置制

昭和七年八月二十九日
勅令第三百八十五號

第一條 東京都二丘ノ職員ヲ置ク 二級

地方事務官 二級

專任二十八人 二級

地方技官 二級

專任七人 二級

地方事務官又ハ地方技官 二級

專任五百五十四人 三級

第一條ノ二 警視廳二丘ノ職員ヲ置ク 三級

地方事務官 二級

專任一人 二級

地方技官 二級

專任一人 二級

地方事務官又ハ地方技官 三級

專任一人 三級

警視 一人

警部 一人

第一條ノ三 北海道廳二丘ノ職員ヲ置ク

地方事務官 二級

專任三十六人 二級

地方技官 二級

專任百三十六人 二級

地方事務官又ハ地方技官 二級

專任二百七十一人 二級

警視 一人

警部 一人

第一條ノ四 府縣ニ通ジテ左ノ職員ヲ置

地方事務官

專任 四百三十人

ニ級

地方技官

專任 百五十四人

ニ級

地方事務官又ハ地方技官

專任 九千百九

人

警視

人

警部

人

前項職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣
之ヲ定ム

裏面白紙

内第 三九八 號

昭和二十一年四月十八日

厚生大臣官房秘書課長



内務大臣官房人事課長 殿

都廳府縣等臨時職員等設置制中改正ニ
開スル件

戦時行政職權特例廢止ニ依ル船員職業紹介關係職員移管ニ伴フ標記ノ件
別紙ノ通改正方可然御取計相成度

追テ右ニ關シ關係豫算及人事ノ移管等有之候條本月末日改正相成様致
度申添候

裏面白紙

266

裏面白紙

都廳府縣等臨時職員等設置制中改正案

都廳府縣等臨時職員等設置制中

都廳府 第一條地方事務官ノ項中「專任一人 三級」ヲ減員

支庁 第一條ノ三地方事務官ノ項中「專任三人 三級」ヲ減員

村 第一條ノ四地方事務官ノ項中「專任三人 二級」ヲ減員
專任十三人 三級」ヲ減員

裏面白紙

理 出

船員職業紹介ニ關スル職權竝ニ船員職業紹介所及之ニ伴フ職員ハ
昭和十八年九月戰時行政職權特例ニ依リ遞信大臣ヨリ厚生大臣ニ
移管セラレ居リタルモ右特例ハ本年三月二十九日勅令第七十五
號ニ依リ廢止セラレタルヲ以テ前記移管ノ職權專小之ヲ運輸大臣
ニ復歸セシムルノ要アルニ出ル

昭和十八年三月二十九日勅令第七十五號

運輸大臣

裏面白紙

内閣告示案

昭和二十一年勅令第百七十五號附則第二項ノ規定ニ依ル期日ハ昭和二十一年四月三十日トス

昭和二十一年四月 日

内閣總理大臣 男爵 幣原喜重郎

269

(参考)

勅令第七十五號

昭和二十一年三月二十九日

戰時行政職權特例ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル船員職乘紹介ニ關スル職權ノ移讓及之ニ伴フ

措置ニ關シテハ内閣總理大臣ノ定ムル日迄仍從前ノ例ニ依ル

裏面白紙

昭和二十一年四月十三日

事務官

(國定規格B5二公×三五柱)

271

次官

人事課長

船員職業紹介ニ因ルニ戰時行政職權
 特例停止ニ伴フ勤勞者職員ノ引継ニ関
 スル件
 件別紙ノ通覽書ヲ交換シテ互ニ之ヲ修
 訂スル件

裏面白紙

昭和二十一年四月十一日
内務省人権課長
厚生省勸業局長
運輸省海運總局船務局長

昭和二十一年四月十一日

内務省人権課長
厚生省勸業局長
運輸省海運總局船務局長

船員職業紹介ニ關スル戰時行政機關特例廢止ニ

件ノ勸告者職員ノ引續ニ關スル件覽察

據此ノ件ニ關シ左記ノ通諒辨スルモノトス

記

一 昭和十八年九月戰時行政機關特例ニ基キ起信有ヨリ引續キタル
船員職業紹介關係職員ニシテ現職者ハ原則トシテ之ヲ運輸省
省ニ引續クコト

二 戰時行政機關特例廢止ニ伴フ自前改正ニ依リ職員定員減ニ依ル

厚生省

前記以外ノ通例現職者ハ之ヲ運輸省省ニ引續クコト但シ該職
員等若シテ定員中缺員アル場合ハ此ノ限ニ非ザルコト

三 引續職員ノ取扱ハ二級事務員ニ付テハ厚生省ニ於テ一件事務ヲ

取扱ノ府縣及内務省ト豫備ヲ求メタル上運輸省ニ於テ三級

事務員ニ付テハ府縣ニ於テ一件事務ヲ取扱ノ地方海運局ニ於テ

當該局開設止ノ日ヲ以テ任用受付ノ手續ヲ屬スコト

四 當該官制改正ハ昭和四月末迄トシ之カ手續ヲ屬スコト

五 地方海運局開設定員ハ前記ノ趣ナルコト

船員等用介級係引証職目録

都	東	北																
都	京	海																
府	都	道																
縣		總																
船	芝	函	小	至	廣	新	青	交	兵	大	廣							
務	館	館	樽	前	濱	潟	森	知	庫	坂	島							
考																		
二																		
級																		
三																		
級																		
四																		
級																		
五																		
級																		
六																		
級																		
七																		
級																		
八																		
級																		
九																		
級																		
十																		
級																		
十一																		
級																		
十二																		
級																		
十三																		
級																		
十四																		
級																		
十五																		
級																		
十六																		
級																		
十七																		
級																		
十八																		
級																		
十九																		
級																		
二十																		
級																		
二十一																		
級																		
二十二																		
級																		
二十三																		
級																		
計																		
四	四	四	二	二	三	一	一	一	三	二	二	二	四	四				

都	山																	
府	口																	
縣	縣																	
船																		
務																		
考																		
二																		
級																		
三																		
級																		
四																		
級																		
五																		
級																		
六																		
級																		
七																		
級																		
八																		
級																		
九																		
級																		
十																		
級																		
十一																		
級																		
十二																		
級																		
十三																		
級																		
十四																		
級																		
十五																		
級																		
十六																		
級																		
十七																		
級																		
十八																		
級																		
十九																		
級																		
二十																		
級																		
計																		
四	四	二	一	二	四													

大日本帝國政府

都廳府縣等臨時職員等設置制中改正案

都廳府縣等臨時職員等設置制中

第一條第二項中「專任一人」ヲ減スルコト

第一條ノ三第二項中「專任三人」ヲ減スルコト

第一條ノ四第一項中

地方事務官

「專任三人」ニ級「ヲ減スルコト

同條第二項中「專任十三人」ヲ減スルコト

（昭二ノ四一）

裏面白紙

内閣告示案

昭和二十一年勅令第七十五號附則第二項ノ規定ニ依ル期日ハ昭和二十一年四月三十日トス

昭和二十一年四月

日

内閣総理大臣 男爵 幣原喜重郎

裏面白紙

275

勅令第百七十五号 昭和二十一年三月二十九日

戦時行政職權特例ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル船員職權紹介ニ關スル職權ノ移讓及之ニ伴フ

措置ニ關シテハ内閣總理大臣ノ定ムル日迄仍従前ノ例ニ依ル

276

裏面白紙

勤勞署臨時事務處理ニ要スル經費分計調書

(内務省所管)

戰時行政職權特例ニ依リ昭和十八年度ヨリ逋信大臣ヨリ移管ニ係ル船員職業紹介所費ハ本經費ニ加計中ノ屬本年三月末日ヲ以テ右職權特例ヲ廢止スルコトトナリタルニ依リ之ニ伴フ船員職業紹介所費左ノ通分計ノ上逋信大臣ニ移管スルヲ要スルモノトス

區分	分計前(船員紹介所)		分計後(勤勞署)		昭和二十一年度 予算額	備考
	員數	單価金	員數	單価金		
臨時部一般費						
臨時諸要務費		五、六〇〇		八〇、七三〇		
俸給		三、三三〇		二九、〇二〇		
委任俸給		一、二〇〇		二、三二〇		
事務官	三	五、〇〇〇	一	五、〇〇〇		
技師			七	一五、一二〇		
合計				一五、一二〇		

區分	分計前(船員紹介所)		分計後(勤勞署)		昭和二十一年度 予算額	備考
	員數	單価金	員數	單価金		
利任係給		一、六三二		二、三九〇		
屬	一七	九六〇	一七	九六〇		
坊手			六	九六〇		
賞與		五、八八五		一、五八九		
小計		二、九三〇		三、六二〇		
給與		二、五五七		二、九八六		
因國旅費		八、八〇〇		一、二二〇		
高等官	三	六〇〇	三	六〇〇		
利任官	一七	四〇〇	一七	四〇〇		
屬託			一	四〇〇		
雜給		二、四五六		六〇三		
漏託手当		一、八四二		二、二〇八		
醫師手当		三、二〇〇		三、二〇〇		
技師手当		一、〇〇〇		三、二〇〇		
合計		三、四五六		三、五二〇		

雇員給	一三	四八〇	上二〇〇	三二四八	四八〇	一〇七九	〇四〇	一〇八六	二四〇
棟人料	八	三〇〇	四三二〇	九八	三〇〇	九一三	三〇	九五	六四〇
給仕	四	四八〇	二四〇〇	九八	三〇〇	二九四〇〇	三二八〇〇	三二八〇〇	三二八〇〇
小使	一	二〇	一八二〇	一三九	四八〇	六一九二〇	六三八四〇	一〇八六	二四〇
事務費			三二一七			四二五〇〇	一〇八六	二四〇	
聴費			一五五〇			八二四三七〇	七二五九二〇		
普通			一五五〇			二二四三七〇	二二五九二〇		
特殊						五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇		
各所新管						五〇〇〇〇	五〇〇〇〇		
各所修繕						三三六〇〇	三三八〇〇		
被服費			八八			二〇三八	三二二六		
給仕靴料			四〇			四九〇	五三〇		
小便服			四八			一五四八	一五九六		
合計									

雜費	一四七九	五九四九五	五九六一九五
普通	一四七九	二九二八三四	二五四〇七三
解務所		三四二二二	三四二二二
小計	二六六九五	四三九七九九〇	四四一七六八五
合計	五六〇〇〇	八〇一七〇〇〇	八〇七三〇〇〇

一、船員職業紹介関係職員ノ行政整理員数 (二二三、二二)

区分	昭和十八年度 整理員数	昭和二十年 整理員数	査定員数	整理員数	査定率	備考
本省(臨時部)	二	二	〇	二	一〇〇%	国民動員計画決定ニ要スル船員ノ項目全額ヲ削ラレタルニ由ル
地方廳(臨時部)	四	四	三	一	六五%	
事務官	二六	二六	一七	九	六五%	
属	二四	二四	一五	九	六四%	
雇人	一八	一八	一二	六	六六%	
給仕	一二	一二	八	四	六六%	
小便	六	六	四	二	六六%	

整理率算定基礎(地方廳分)

官名	昭和二十年整理率算定員		計	査定員		計	査定率
	經常部	臨時部		經常部	臨時部		
事務官	一四九	三四六	四九五	一〇四	二一八	三三二	六五%
属	九四二	四〇四三	四九八五	六五九	二五九三	三二五二	六五%
雇人	五五〇	三五六〇	四一一〇	三八五	二二六三	二六四八	六四%
給仕	五九三	三八一	九七四	四一五	二三九	六五四	六六%

二、船員職業紹介関係豫算ヲ臨時部ニ移管セル事情

昭和十八年度ニ於ケル船員職業紹介関係予算ハ經常部ナリシモ當時厚生大臣ニ職権移譲セラレタルモノハ企画院関係（国民動員計画策定経費）及逓信省関係（船員職業紹介関係）並ニ商工省関係（機械技術者検定関係）ノ三件ニシテ之ガ予算ハ編成上ノ都合ニ依リ臨時部トセラレ今日ニ至リタルモノナリ尙官制ハ臨時職員等設置制ニ依ルモノトス

大日本帝國政府

神宮關係 施設 修繕 等	事務官	理事官	技師	屬	技手
十九年度	一	一	一	二	三
二十年事務費	一	一	一	二	三
二十一年十二月 後 修繕 等	一	一	一	二	三
二十一年 修繕 等	一	一	一	二	三
二十二年 修繕 等	一	一	一	二	三

神宮關係施設修繕等

十九年度

二十年事務費

二十一年十二月
後
修繕
等

二十一年
修繕
等

二、八、三〇、〇〇〇
大體

(十九年度修繕) (修繕)
五、八〇、〇〇〇円
(二十年) 停止
十九年度修理 一七、〇〇〇円
(二十一年) 二、〇〇〇円
三三、〇〇〇円

青野 大塚 中西 三三三

裏面白紙

丙申四八四号

昭和二十一年五月七日

石子生夫 厚才 秘書課長

内務大臣 厚才 中課長 殿

都廳府縣等臨時職員設置制中改正の件

今回職業輔導實施に伴い、地方補助職員をあらたに、

増員することになつたので、これに伴つて、都廳府縣等

職員等設置制を、別紙の通り、改正方取計けられたい

裏面白紙

大日本帝國政府

第一條 東京都

都廳府縣等臨時職員等設置制中改正の件

(勅勞局 昭二一、五、六)

地方事務官の部中

專任 一人 二務

地方事務官又は地方技官の部中を加へること。

專任 二人 三務

第一條ノ三北衛連

地方事務官又は地方技官の部中を加へること。

專任 二人 三務

第一條ノ四府縣

地方事務官の部中

專任 五人 二務

地方事務官又は地方技官の部中を加へること

專任 一四人 三務

裏面白紙

計	府 官 名 別															
	長 崎	福 岡	香 川	兵 庫	石 川	石 川	福 井	千 葉	群 馬	新 潟	宮 城	秋 田	北 海 道	大 阪	京 都	東 京
六				---										---		
一六	---	---			---				---	---	---	---	---			---
二																---
二四	---	---			---				---	---	---	---	---			---

製菓補遺學業關係職位置表（内務省公）

昭和二一年三月

裏面白紙

純田

職采補導學采實施に伴つて地方補助職員たる二勝又は三勝の地方學務
官及び三勝の地方技目を増員することになつたためこれが關係官制を
改正する必要がある。

裏面白紙

法内第百四二号



乙第二三五五號

昭和二十一年四月二十四日

内務大臣 三 土 忠 造



内閣總理大臣男爵 幣 原 喜重郎 殿

内務部内臨時職員設置制中改正等ノアリ別紙勅令案ヲ提出ス
右閣議ヲ請フ

内第百四二

内務省

287

昭和二十一年

内務大臣官

本件は御申出

主務省の事務に
返戻の旨を
法

年四月二十四日

内務大臣 三 土 忠 造



男爵 幣 原 喜重郎 殿

員設置制中改正等ノアリ別紙勅令案ヲ提出ス

内務省

287

昭和五年五月十七日

内閣官房總務課長

内務大臣官房人事課長 殿

本件は御申出により御返し致します。

主務省より御返事ありしものと
返戻ぬがしませす。

法務局

朕内務部内臨時職員設置制中改正等ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

勅令第 號

第一條 内務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

「專任日六十五人」ヲ「專任日六十七人」ニ、

「專任七日四十八人」ニ改ム

第一條 都廳府縣等臨時職員等設置制中左ノ通改正ス

第一條中「專任五百五十四人」ヲ「專任五百五十二人」ニ改ム

第一條ノ二中「專任二千七百七十二人」ヲ「專任二千六百九十九人」ニ改ム

第一條ノ四第一項中「專任五百二十人」ヲ「專任五百二十七人」ニ改ム

第一條ノ四第二項中「專任五千九百九十二人」ニ改ム

附則

本令ハ昭和二十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

理 田

五十鈴川改修及府縣災善土木工事ノ指導監督ニ關スル事務ニ從事
ヤシムル為内務技官二級ノ者二人及内務事務官又ハ内務技官三級
ノ者八人ヲ各増員スルト船員職業紹介ニ關スル職權ノ厚生大臣ヨ
リ大臣ノ移官ニ件ヒ之カ事務ニ從事ナル地方事務官二級ノ者二人
及二級ノ者十七人ヲ是等官ニ移官スル為各減員スルノ案アルニ依
ル



裏面白紙



291

